

令和 2 年度  
自己点検・評価報告書

大阪教育大学

令和 4 年 2 月

# 目 次

|                        |    |   |    |
|------------------------|----|---|----|
| 自己点検・評価報告書刊行に当たって      | 1  |   |    |
| I 大学の現況及び特徴            | 2  | - | 3  |
| II 大学の目的等              | 4  |   |    |
| III 教育研究上の目的           | 5  | - | 6  |
| IV 自己点検・評価             |    |   |    |
| 第1 内部質保証               | 7  | - | 9  |
| 第2 施設及び設備（学習環境）並びに学生支援 | 10 | - | 13 |
| 第3 学生の受入               | 14 |   |    |
| 第4 教育課程と学習成果           | 15 | - | 24 |
| 第5 その他 教育活動            | 25 | - | 28 |
| 第6 研究活動                | 29 | - | 33 |
| 第7 その他                 | 34 | - | 37 |
| 現況分析資料                 | 38 | - | 77 |
| V 内部質保証シート             | 78 | - | 83 |

## 自己点検・評価報告書刊行に当たって

大学に認証評価制度が導入され、20年近くになろうとしています。

最近では、令和2年4月1日から施行された学校教育法等の一部を改正する法律において、大学の教育研究等の状況が大学評価基準に適合しているか否かの認定を行うことが義務化されました。

このことから、大学は教育力で淘汰される時代に突入したと考えられます。

教育力を高めるためには、教学マネジメントを強固なものとし、学修者本位の視点に立った教学改善に取り組んでいかなければなりません。教育改善のPDCAサイクル確立による教育の質保証が強く求められます。

本学では、自己点検・評価を通じてPDCAサイクルを適切に機能させることにより、教育研究等の質の向上を図り、本学の教育研究活動等が一定の水準にあることを自らの責任で説明する内部質保証の推進体制を構築しています。

本学の教育研究活動等が一定の水準にあり、それらの活動が適切な環境の下で、一定の成果をあげていることを広く社会に対して説明するとともに、ステークホルダーが真に必要なとする情報について模索し、それらを積極的に発信していかなければならないと考えております。

今後も、大学力を高めるとともに、社会への説明責任を果たすため、組織的かつ自律的な不断の自己点検・評価を行っていく所存でございます。

最後に、本報告書をまとめるにあたり、自己点検・評価委員会の先生方、また、各部局等の皆様にご尽力いただきましたことに厚くお礼申し上げます。

そして、今後とも全学構成員のご理解とご協力をいただきますようよろしくお願い申し上げます。

自己点検・評価委員会

委員長 栗林 澄夫

## I 大学の現況及び特徴

### 1 現況

- (1) 大学名 大阪教育大学  
(2) 所在地  
大阪府柏原市旭ヶ丘 4-698-1  
大阪府大阪市天王寺区南河堀 4-88

(3) 学部等の構成

学 部：教育学部  
研究科：教育学研究科  
連合教職実践研究科  
専攻科：特別支援教育特別専攻科  
関連施設：  
附属図書館  
学校安全推進センター  
地域連携・教育推進センター  
保健センター  
グローバルセンター  
情報基盤センター  
教育イノベーションデザインセンター  
キャリア支援センター  
修学支援センター  
附属学校園

(4) 学生数及び教員数

◆学生数

(令和2年5月1日)

総学生数 4349 名  
教育学部 3950 名  
大学院教育学研究科 157 名  
大学院連合教職実践研究 218 名  
特別支援教育特別専攻科 24 名

◆教職員の状況

大学教員 489 人  
(うち常勤 261 人, 非常勤 228 人)  
附属学校教員 332 人  
(うち常勤 258 人, 非常勤 74 人)  
職員 296 人

(うち常勤 175 人, 非常勤 121 人)

### 2 特徴

本学は、明治7（1874）年5月に設置された教員伝習所を起源とし、140年を超える歴史と伝統を有する我が国有数の規模を誇る教育大学である。平成5年の移転統合以降、郊外型の自然豊かな大阪府柏原市の金剛生駒紀泉国定公園内に約 67 万㎡の広さを誇るメインキャンパスを擁し、国際都市として交通アクセスはもとより情報・産業の中核機能を有する大阪市内に天王寺キャンパスを擁している。さらに、大阪市天王寺区、平野区及び大阪府池田市の3地区に初等・中等教育並びに特別支援教育に対応した11の附属学校園を設置している。

平成29（2017）年4月には、今日的教育課題に対応できる実践型教員及び教育・学修支援人材の養成の実現に向けた学部改組を行い、教員養成課程を再編して、初等教育教員養成課程、学校教育教員養成課程、養護教諭養成課程を設置するとともに、教養学科を廃止して教育・学修支援人材を育成する教育協働学科を新設し、学校教育とその関連分野の発展を担える創造性豊かな人材を育成している。

平成31（2019）年4月には、大学院段階での教員養成機能を教育学研究科から連合教職実践研究科へ移行し、拡充するための改組を行い、大学院教育学研究科は4専攻、連合教職実践研究科は1専攻4コースで構成する大学院へと発展し、高度な専門性をもった教員を養成している。

令和2（2020）年4月には、教員組織を一体化して学内における協働協力体制を構築するため、教員（研究）組織と教育組織の関

係性を継承しつつ、センター組織も含めて  
近接専門領域を統合し、6つの系（「高度教  
職開発系」、「総合教育系」、「多文化教育系」、  
「健康安全教育系」、「理数情報教育系」、「表  
現活動教育系」）による教員組織を新たに設  
置して、教員配置を行った。

## Ⅱ 大学の目的等

### 1 大学の目的

大阪教育大学（以下「本学」という。）は、学芸の研究教授につとめ、高い学識と豊かな教養をもつ人材、特に有為な教育者を育成することを目的とする。

### 2 大学の基本的な目標（第3期中期目標期間における中期目標（前文））

#### 基本理念

我が国の先導的な教員養成大学として、教育の充実と文化の発展に貢献し、とりわけ教育界における有為な人材の育成を通して、地域と世界の人々の福祉に寄与する大学であることを使命とする。

#### 基本目標

大阪教育大学は、教員養成及び教育・学習支援人材養成の広域的拠点として、学長のリーダーシップのもと全学的な改革に取り組み、我が国の教育界を牽引するグローバル教育人材を養成する。

- 1 義務教育諸学校に関する教員養成機能における広域の拠点的作用をめざし、我が国の学校教員の質の向上に貢献するため、実践型教員養成機能への質的転換を行う。
- 2 理数系に重点を置いた中等教育教員の養成等、高度な専門的知識・指導力を有するスクールリーダー等の高度専門職業人たる教員の養成機能をさらに強化する。
- 3 大学全体の教員養成及び教育・学習支援人材養成の機能の充実・強化を支えるため、グローバル化に対応した教養教育の質的充実を図る。
- 4 現代教育課題を理解し、汎用基礎力及び協働力をそなえた教育・学習支援分野への人材養成を進める。
- 5 附属学校や教育委員会等と協働して学校における実践的課題解決に資する研究活動を行うとともに、我が国の教員の資質能力向上に寄与する等、教員の研究活動等を通じて積極的な社会貢献活動を行う。

### Ⅲ 教育研究上の目的

#### 1 教育学部

実践的な教職能力を養う優れた教員養成教育を推進し、豊かな教職能力をもって教育現場を担える学校教員を養成するとともに、教育への深い理解と高い専門的知識・技能をもって、様々な職業分野において他者と協働して、多様な教育的課題の解決を図る人材を育成することを教育研究上の目的とする。

#### ・ 初等教育教員養成課程

グローバルな視野と豊かな教養を身に付け、幼稚園等と小学校との連携を踏まえた専門的知識・技能及び優れた実践力・応用力を有する教員を養成する。そのために、教養科目及び基礎的科目を修得しながら、教職に関わる科目を幅広く学ぶとともに、一人ひとりの子どもの人権や安全を守る教育についての知識や能力を養い、幼児教育と小学校教育の双方の専門分野について学修を深める。

本課程に置く「幼児教育専攻」では、幼児を理解する力や豊かな表現力を身に付け、小学校教育との接続を踏まえた幼児教育について総合的な視点をもつ実践力のある幼稚園教員等の養成を目的とする。

「小学校教育専攻」の昼間コースでは、児童を理解する力や基礎的な指導力を身に付け、幼児教育との接続を踏まえた小学校教育について総合的な視点を持つ実践力のある小学校教員の養成を目的とする。

「小学校教育専攻」の夜間コースでは、昼間の勤労経験や教育現場でのインターンシップ活動など豊富な経験をもとに、豊かな人間性と社会性を備え、かつ、幼小連携に関心を持ち、優れた実践的能力を備えた小学校教員の養成を目的とする。夜間コースの3年次編入生に対しては、学生一人ひとりの学歴や専門性を活かし、また、現職教員についても、個性や経歴を尊重した教育を行う。

#### ・ 学校教育教員養成課程

広い視野と豊かな教養を身に付け、専門的知識・技能及び優れた教育指導力を持った学校教員を養成する。そのために、教養科目及び基礎的科目を修得した上で、教職に関わる科目を学ぶとともに、学校安全や危機対応についての知識や能力を養い、さらに、自らが所属する「専攻」において、専門分野の学修を深める。「特別支援教育専攻」では、特別支援教育に関する知識や優れた技能を持ち、特別支援学校及び通常の学校で特別支援教育に携わる教員の養成を目的としている。

「小中教育専攻」では、小・中学校の教育に関する知識や技能を持ち、専門の教科などに優れ、小・中学校の連携を踏まえた指導ができる小学校教員の養成を主目的とする。

「中等教育専攻」では、専門の教科を中心にした優れた教育指導力を持ち、中学校と高等学校の接続や一貫教育を踏まえた指導ができる中学校教員・高等学校教員の養成を目的とする。

- **養護教諭養成課程**

教育学の基盤の上に、医学・看護学・養護学など、幅広い専門分野の基礎的知識と実践的技能を備え、健康を保持増進する能力を子どもたちが獲得できるように、様々な機会を捉え支援する資質を備えた養護教諭を養成する。そのために、幅広い教養教育の基礎の上に立って、各専門分野の学習を深めるとともに、臨床（病院）実習、養護実習などをとおしての実践能力の向上、さらには、学校安全や危機対応についての知識や能力を養うことをめざす。

- **教育協働学科**

学校現場や社会で絶え間なく発生する教育課題を解決するために、チーム学校を含む学校教育や地域教育活動を支える諸分野（教育心理科学、健康安全科学、理数情報、グローバル教育、芸術表現、スポーツ科学）の専門性を有しつつ、教育的視点から学校、家庭、地域、社会と連携・協働することで、グローバル時代において学校現場や社会で絶え間なく発生する多様な教育課題の解決を図ることができる人材を養成する。そのために、豊かな教養と広い視野を持つとともに、社会に求められる専門的知識・技能を備え、教育への理解を有し、他者と協働して実行できる実践力を養うことをめざす。

## 2 大学院教育学研究科

教育・学習支援の実践力と課題分析力を備え、自らが有する専門性と異分野の知見を組み合わせ、学校・家庭・地域の教育に最適化できる先導的手法を深く探求し、教育現場の課題解決・価値創造の一翼を担う高度な人材を養成することを目的とする。

## 3 大学院連合教職実践研究科

教育委員会や学校現場との密接な連携の下での教員養成や現職教員教育を通じて、教員志望学生や現職教員学生に学校現場での課題に即応できる実践的知識・技能を拡充させるための視点と方法を獲得させ、もって学校における高度の専門的な能力及び優れた資質を有する専門職としての教員を養成することを教育研究上の目的とする。



#### IV 自己点検・評価

##### ・第1「内部質保証」

観点1) 大学が教育研究活動の質と学生の学修成果の水準等を保証し、継続的に改善・向上を行うための枠組みとして、質保証の方針や体制を定めているか。

現況分析： P38～P42

|                                                                                                        |                                                                  |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------|
| 1) 点検・評価結果                                                                                             |                                                                  |
| <input checked="" type="checkbox"/> 大学が教育研究活動の質と学生の学修成果の水準等を保証し、継続的に改善・向上を行うための枠組みとして、質保証の方針や体制を定めている。 |                                                                  |
| <input type="checkbox"/> 分析結果において根拠が確認できない点があった。                                                       |                                                                  |
| <input type="checkbox"/> 優れた点がある。                                                                      |                                                                  |
| <input type="checkbox"/> 特色ある点がある。                                                                     |                                                                  |
| <input type="checkbox"/> 改善を要すべき点がある。                                                                  |                                                                  |
| 2) 分析結果                                                                                                |                                                                  |
| 分析内容                                                                                                   | 根拠の有無                                                            |
| 1. 内部質保証の方針や体制を定めていること。                                                                                | <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 |
| 2. 教育の内部質保証を実施する体制が明確であること。                                                                            | <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 |
| 3) 特色ある点・優れた成果                                                                                         |                                                                  |
| 特になし                                                                                                   |                                                                  |
| 4) 今後の課題・改善を要する点                                                                                       |                                                                  |
| 特になし                                                                                                   |                                                                  |

観点2) 内部質保証の仕組において、質保証活動が適切に実施されているか。

現況分析： P43～P51

|                                                                                                                                    |                                                                  |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------|
| 1) 点検・評価結果                                                                                                                         |                                                                  |
| <input checked="" type="checkbox"/> 内部質保証の仕組において、質保証活動が適切に実施されている。<br><input type="checkbox"/> 分析結果において根拠が確認できない点があった。             |                                                                  |
| <input type="checkbox"/> 優れた点がある。<br><input checked="" type="checkbox"/> 特色ある点がある。<br><input type="checkbox"/> 改善を要すべき点がある。        |                                                                  |
| 2) 分析結果                                                                                                                            |                                                                  |
| 分析内容                                                                                                                               | 根拠の有無                                                            |
| 1. 教育研究活動の質や学生の学修成果の水準等を保証し、継続的に改善・向上を行うために、教育課程の毎年の点検（モニタリング）や定期的な点検・評価を行い、その結果を教育改善に活用していること。                                    | <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 |
| 2. 学生が学修を行う施設・設備や資源等の学修環境（施設・設備），ならびに学生の学修等の相談・助言等の学生支援の施策の状況について，継続的な改善・向上を行うために，点検・評価が行われていること。                                  | <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 |
| 3. 教育研究上の基本組織の新設や変更等重要な見直しを行うにあたり，大学としての適切性等に関する検証が行われる仕組（質を保証するための学内承認の仕組）を定め，定めに従い検証が行われていること。                                   | <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 |
| 4. 教育研究活動を担う教員と教育支援及び学生の学修支援業務にあたる教職員の能力を保証する方策が継続的かつ適切に行われていること。                                                                  | <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 |
| 5. 大学や学部・研究科の使命や目的を実現するため，上記の点検・評価の結果を総合し，また，必要に応じて全学のテーマ別の点検・評価を行うこと等により，大学や学部・研究科の教育研究活動がその使命や目的に照らして適切に行われ，成果を上げていることを検証していること。 | <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 |
| 6. 外部の利害関係者の意見を反映する体制を有していること。                                                                                                     | <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 |
| 3) 特色ある点・優れた成果                                                                                                                     |                                                                  |
| 教育委員会との拡大連携協議会や提言委員会，学生に対する各種アンケート調査など，各種ステークホルダーから意見を聴収し，課題集約シートにより，PDCAサイクルの見える化を図り，成果や新たな課題について，相互の情報共有を行っている。                  |                                                                  |
| 4) 今後の課題・改善を要する点                                                                                                                   |                                                                  |
| 特になし                                                                                                                               |                                                                  |

観点3) 成果からみて、内部質保証の仕組みは有効か。

現況分析： P52～P53

|                                                             |                                                                  |
|-------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------|
| 1) 点検・評価結果                                                  |                                                                  |
| <input checked="" type="checkbox"/> 成果からみて、内部質保証の仕組みは有効である。 |                                                                  |
| <input type="checkbox"/> 分析結果において根拠が確認できない点があった。            |                                                                  |
| <input type="checkbox"/> 優れた点がある。                           |                                                                  |
| <input type="checkbox"/> 特色ある点がある。                          |                                                                  |
| <input type="checkbox"/> 改善を要すべき点がある。                       |                                                                  |
| 2) 分析結果                                                     |                                                                  |
| 分析内容                                                        | 根拠の有無                                                            |
| 1. 自己点検・評価の結果に基づき、継続的に改善に取り組んでいること。                         | <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 |
| 2. 学内外から意見・提言を大学運営の見直しに反映し、改善に取り組んでいること。                    | <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 |
| 3. 信頼のおける第三者評価等の結果からみて、内部質保証が有効であること。                       | <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 |
| 3) 特色ある点・優れた成果                                              |                                                                  |
| 特になし                                                        |                                                                  |
| 4) 今後の課題・改善を要する点                                            |                                                                  |
| 特になし                                                        |                                                                  |

## 第2「施設及び設備（学習環境）並びに学生支援」

観点1) 教育研究に必要な施設・設備等の学修教育基盤が整備され、有効に活用されているか。

現況分析： P54～P56

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |                                                                  |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------|
| 1) 点検・評価結果                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |                                                                  |
| <input checked="" type="checkbox"/> 教育研究に必要な施設・設備等の学修教育基盤が整備され、有効に活用されている。<br><input type="checkbox"/> 分析結果において根拠が確認できない点があった。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |                                                                  |
| <input checked="" type="checkbox"/> 優れた点がある。<br><input checked="" type="checkbox"/> 特色ある点がある。<br><input type="checkbox"/> 改善を要すべき点がある。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |                                                                  |
| 2) 分析結果                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |                                                                  |
| 分析内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | 根拠の有無                                                            |
| 1. 大学設置基準で定められた校地・校舎面積以上を確保していること。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 |
| 2. 夜間の授業又は2以上のキャンパスでの教育の実施における配慮が、適切に行われていること。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 |
| 3. 教員養成により効果的な組織を設置していること。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 |
| 4. 安全・安心な施設環境の確保、教育環境の質的向上のために、点検・評価を行い、その結果に基づいた整備計画を策定し、実行するとともに、不具合に対応していること。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 |
| 5. 教育研究に必要な ICT 環境が整備され、有効に活用されていること。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 |
| 6. 附属図書館は、適切な規模を有し、教育研究に関わる学術情報の体系的な収集、蓄積、提供を行っており、有効に活用されていること。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 |
| 7. 自主的学習環境を整備し、有効に活用されていること。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 |
| 3) 特色ある点・優れた成果                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |                                                                  |
| ・附属図書館ラーニングコモンズにおいて、ネーミングライツを活用することにより、契約した東京書籍株式会社から、デジタル教科書の利用を体験できる機器及びコンテンツ等の提供を受け、学生の自主的学修に役立つ空間づくりを促進した。<br>・新型コロナ感染症流行への対応のため、 <u>2020 年 3 月から 11 月までに、以下のとおり計 6 回のオンライン授業に関するオンライン FD を行った。</u><br>・令和元年 3 月 31 日 第 3 回全学 FD 事業「インターネット活用授業」 約 90 名参加<br>・令和 2 年 5 月 1 日 オンライン授業への挑戦 約 260 名参加<br>・令和 2 年 5 月 20 日 オンライン授業への挑戦 2 約 240 名参加<br>・令和 2 年 6 月 3 日 オンライン授業への挑戦 3 約 110 名参加<br>・令和 2 年 8 月 5 日 オンライン授業への挑戦 4 約 190 名参加<br>・令和 2 年 11 月 4 日 新しい生活様式に対応した授業の実践 約 180 名参加 |                                                                  |

4) 今後の課題・改善を要する点

特になし

観点2) 学生への学習面や生活面での支援が適切に行われているか。

現況分析： P57～P60

| 1) 点検・評価結果                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |                                                                  |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> 学生への学習面や生活面での支援が適切に行われている。<br><input type="checkbox"/> 分析結果において根拠が確認できない点があった。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |                                                                  |
| <input checked="" type="checkbox"/> 優れた点がある。<br><input checked="" type="checkbox"/> 特色ある点がある。<br><input type="checkbox"/> 改善を要すべき点がある。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |                                                                  |
| 2) 分析結果                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |                                                                  |
| 分析内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 根拠の有無                                                            |
| 1. 指導教員による学生への指導・助言が、適切に行われていること。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 |
| 2. 附属図書館において、学生のニーズに応える学習支援が行われていること。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 |
| 3. その他、学生への進路支援、生活支援、課外活動の支援などを適切に行っていること。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 |
| 4. 学生の意見や要望を聴取し、その結果に基づく改善に取り組んでいること。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 |
| 3) 特色ある点・優れた成果                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |                                                                  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリアセンター、グローバルセンター、英語教育コース、英語コミュニケーションコースの共催で、教員採用試験で英語の模擬授業、あるいは実技披露を必要とする学生に対して対策講座を実施し、<u>92.9%の受講生が公立・私学等に合格した。</u></li> <li>・本学図書館に所収された東京書籍のデジタル教科書を用いた授業展開の実際について、全学FDで教員養成の教員が利用の実際について学校現場での利用を視野に授業の取組の実践を展開し、卒論等での活用を促進した。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症対策のため入校制限があった期間に、学生への支援策として、大学の経費による図書郵送貸出を実施した（利用学生数213名、冊数1,161冊）。</li> <li>・新型コロナ感染症流行の対応に対する学生へのオンラインアンケート調査を<u>年に4回</u>行い、<u>学生生活の変化を捉え以下のような学生支援等に生かした。</u></li> <li>・経済的に困窮している学生に対する図書教材（教科書）購入費の一部補助（令和2年12月）5,000円/人 実績200名</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の影響により生計維持者の家計が急変した学生に対する後期授業料免除（令和3年3月）実績2名 535,800円</li> <li>・新型コロナウイルス感染拡大の影響でアルバイト収入や仕送りが減り、学生生活に影響が出ている学生を支援することを目的として、レトルト食品（主食系・おかず系）・インスタント食品・缶詰・飲料等（2,000円/人 相当）の現物支給（令和3年7月）実績250名</li> </ul> |                                                                  |

- ・授業実施に関する改善について下記を各部長を通じて教員に対して指示した。
  - 学生からの質問や意見に対応できるようメールアドレスや連絡方法を提示すること
  - 学生に課す課題について、過当たりの学習時間を考慮して、適切な量とするとともに、学生に適切なフィードバックを行うこと
- ・オンラインによる相互交流（オンラインサロン）やオンライン相談を実施
- ・図書館資料の郵送貸出サービス（令和2年5月）

#### 4) 今後の課題・改善を要する点

特になし

### 第3「学生の受入」

観点1) 学生の受入が適切か。

現況分析： P61～P62

|                                                                                                                             |                                                                  |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------|
| 1) 点検・評価結果                                                                                                                  |                                                                  |
| <input type="checkbox"/> 学生の受入が適切である。<br><input checked="" type="checkbox"/> 分析結果において根拠が確認できない点があった。                        |                                                                  |
| <input type="checkbox"/> 優れた点がある。<br><input type="checkbox"/> 特色ある点がある。<br><input checked="" type="checkbox"/> 改善を要すべき点がある。 |                                                                  |
| 2) 分析結果                                                                                                                     |                                                                  |
| 分析内容                                                                                                                        | 根拠の有無                                                            |
| 1. 学生受入方針（アドミッション・ポリシー）において、求める学生像、入学者選抜の基本方針が明確に定めていること。                                                                   | <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 |
| 2. 学生の受入が適切な体制の下、学生受入方針に沿った方法に基づいて、適切かつ公正な方法により行われていること。                                                                    | <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 |
| 3. 大学の教育体制が、教育の効果を担保する観点から収容定員にに応じて整備されることに鑑み、特に入学定員に対する実入学者数が適正な数となっていること。                                                 | <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 |
| 3) 特色ある点・優れた成果                                                                                                              |                                                                  |
| 特になし                                                                                                                        |                                                                  |
| 4) 今後の課題・改善を要する点                                                                                                            |                                                                  |
| 学部卒生の入学が低迷しているので、教職大学院教員による学部学生の指導を増やし教職大学院への進学意欲を喚起する取組や、近隣の教職課程を有する私学の学生への広報活動の充実が必要である。                                  |                                                                  |



## 第4「教育課程と学習成果」

(1) 3つのポリシーに基づく点検・評価

\*独立行政法人大学改革支援・学位授与機構の評価基準ごとの判断の指針より準用

観点1) 学位授与の方針，教育課程方針，学生受入方針が整合性，一貫性を持って定められており，学位授与方針において，学生が身に付けるべき資質・能力の目標を具体的かつ明確に示しているか。

現況分析： P63

|                                                                                                                                                                                |                                                                  |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------|
| 1) 点検・評価結果                                                                                                                                                                     |                                                                  |
| <input checked="" type="checkbox"/> 学位授与の方針，教育課程方針，学生受入方針が整合性，一貫性を持って定められており，学位授与方針において，学生が身に付けるべき資質・能力の目標を具体的かつ明確に示している。<br><input type="checkbox"/> 分析結果において根拠が確認できない事項があった。 |                                                                  |
| <input type="checkbox"/> 優れた点がある。<br><input checked="" type="checkbox"/> 特色ある点がある。<br><input checked="" type="checkbox"/> 改善を要すべき点がある。                                         |                                                                  |
| 2) 分析結果                                                                                                                                                                        |                                                                  |
| 分析内容                                                                                                                                                                           | 根拠の有無                                                            |
| 1. 学士課程（教育学部3養成課程・1学科）                                                                                                                                                         | <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 |
| 2. 修士課程（教育学研究科4専攻）                                                                                                                                                             | <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 |
| 3. 専門職学位課程（連合教職実践研究科1専攻）                                                                                                                                                       | <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 |
| 3) 特色ある点・優れた成果                                                                                                                                                                 |                                                                  |
| 教育現場の課題解決・価値創造の一翼を担う高度な人材を養成することを目的とし，ディプロマ・ポリシーにおいて，学生が身に付けるべき資質・能力の目標を，「教育現場における課題の『発見・理解力』と『分析力』」，「教育課題解決の企画力」，「特定の分野における深化した専門的知識・技能」，「人や組織間をつなぐ高度なコーディネート力」を有することと設定した。   |                                                                  |
| 4) 今後の課題・改善を要する点                                                                                                                                                               |                                                                  |
| 初等教育課程において，アドミッションポリシーについて，ディプロマポリシーや，カリキュラムポリシーとの整合性に配慮した記述が望まれる。                                                                                                             |                                                                  |

観点 2) 教育課程方針において、教育課程の編成の方針、当該教育課程における学習方法、学習過程、学習成果の評価の方針を具体的に示しているか。

現況分析： P63～P64

|                                                                                                                                                                                      |                                                                  |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------|
| 1) 点検・評価結果                                                                                                                                                                           |                                                                  |
| <input checked="" type="checkbox"/> 教育課程方針において、教育課程の編成の方針、当該教育課程における学習方法、学習過程、学習成果の評価の方針を具体的に示している。<br><input checked="" type="checkbox"/> 分析結果において根拠が確認できない事項があった。                  |                                                                  |
| <input type="checkbox"/> 優れた点がある。<br><input checked="" type="checkbox"/> 特色ある点がある。<br><input checked="" type="checkbox"/> 改善を要すべき点がある。                                               |                                                                  |
| 2) 分析結果                                                                                                                                                                              |                                                                  |
| 分析内容                                                                                                                                                                                 | 根拠の有無                                                            |
| 1. 学士課程（教育学部 3 養成課程・1 学科）                                                                                                                                                            | <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 |
| 2. 修士課程（教育学研究科 4 専攻）                                                                                                                                                                 | <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 |
| 3. 専門職学位課程（連合教職実践研究科 1 専攻）                                                                                                                                                           | <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 |
| 3) 特色ある点・優れた成果                                                                                                                                                                       |                                                                  |
| カリキュラム・ポリシー内で、ディプロマ・ポリシーのどの項目に対応して、「専攻共通科目」、「コース共通科目」、「コース・領域専門科目」、「フィールド研究科目」、「プロジェクトベース科目」、「課題研究科目」の各科目群が設定されているかを明確に示し、学習方法にグループワーク、発表、討論等の活動を取り入れることや、成績評価の基準についても極めて具体的に示されている。 |                                                                  |
| 4) 今後の課題・改善を要する点                                                                                                                                                                     |                                                                  |
| 特別支援教育特別専攻科の教育課程方針を確認できなかったため、作成する必要がある。                                                                                                                                             |                                                                  |

観点3) 教育課程の編成及び授業科目の内容が、学位授与方針及び教育課程方針に則し、授与される学位に付記する分野と整合的であるとともに体系的であり、かつ相応しい水準であるか。また、大学院修士課程に関しては研究指導に係る指導体制、専門職学位課程(教職大学院)においては、学校教育に関する理論と実践との融合を意識した指導を行うための体制が適切か。

現況分析: P64

| 1) 点検・評価結果                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |                                                                  |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> 教育課程の編成及び授業科目の内容が、学位授与方針及び教育課程方針に則し、授与される学位に付記する分野と整合的であるとともに体系的であり、かつ相応しい水準である。また、大学院修士課程に関しては研究指導に係る指導体制、専門職学位課程(教職大学院)においては、学校教育に関する理論と実践との融合を意識した指導を行うための体制は適切である。<br><input type="checkbox"/> 分析結果において根拠が確認できない事項があった。                                              |                                                                  |
| <input checked="" type="checkbox"/> 優れた点がある。<br><input checked="" type="checkbox"/> 特色ある点がある。<br><input checked="" type="checkbox"/> 改善を要すべき点がある。                                                                                                                                                            |                                                                  |
| 2) 分析結果                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |                                                                  |
| 分析内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 根拠の有無                                                            |
| 1. 学士課程(教育学部3養成課程・1学科)                                                                                                                                                                                                                                                                                       | <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 |
| 2. 修士課程(教育学研究科4専攻)                                                                                                                                                                                                                                                                                           | <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 |
| 3. 専門職学位課程(連合教職実践研究科1専攻)                                                                                                                                                                                                                                                                                     | <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 |
| 3) 特色ある点・優れた成果                                                                                                                                                                                                                                                                                               |                                                                  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和4年度からであるが、複数の視点で院生を指導できるよう、所属するコース・領域の主指導教員と、<u>コース・領域を越えた副指導教員の組み合わせによる分野融合的</u>、かつ極め細やかな指導体制を設定している。</li> <li>・学校教育に関する理論と実践との融合を意識した指導を行うため、研究会内にFD委員会を組織している。令和2年度は5回、<u>理論と実践の融合に関連するFD</u>を企画・実施している。また、<u>実務家教員の懇話会</u>も行い(8回)、実務家の立場から検討を重ねている。</li> </ul> |                                                                  |
| 4) 今後の課題・改善を要する点                                                                                                                                                                                                                                                                                             |                                                                  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学院教育学研究科授業のシラバス内の到達目標に記載されている項目は、学部のディプロマ・ポリシーを基準にしたものである。よって、教育学研究科の授業シラバスの到達目標は、教育学研究科のディプロマ・ポリシーに合わせた項目への変更を検討すべきである。</li> <li>・教職大学院における研究者教員と実務家教員のチーム・ティーチングのあり方について未だに理想的な形を見いだせていない。今後もチーム・ティーチングの実践例の蓄積と省察を重ねる必要がある。</li> </ul>                            |                                                                  |

観点4) 適切な授業形態，学習指導の方法が採用されていることについて，主としてシラバスの記載内容，履修登録科目に関する単位の上限の設定（CAP制）等について，適切であるか。

現況分析： P64

|                                                                                                                                                                                |                                                                  |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------|
| 1) 点検・評価結果                                                                                                                                                                     |                                                                  |
| <input checked="" type="checkbox"/> 適切な授業形態，学習指導の方法が採用されていることについて，主としてシラバスの記載内容，履修登録科目に関する単位の上限の設定（CAP制）等について，適切である。<br><input type="checkbox"/> 分析結果において根拠が確認できない事項があった。      |                                                                  |
| <input checked="" type="checkbox"/> 優れた点がある。<br><input type="checkbox"/> 特色ある点がある。<br><input type="checkbox"/> 改善を要すべき点がある。                                                    |                                                                  |
| 2) 分析結果                                                                                                                                                                        |                                                                  |
| 分析内容                                                                                                                                                                           | 根拠の有無                                                            |
| 1. 学士課程（教育学部3養成課程・1学科）                                                                                                                                                         | <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 |
| 2. 修士課程（教育学研究科4専攻）                                                                                                                                                             | <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 |
| 3. 専門職学位課程（連合教職実践研究科1専攻）                                                                                                                                                       | <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 |
| 3) 特色ある点・優れた成果                                                                                                                                                                 |                                                                  |
| 前期授業アンケートで，シラバスの活用に関する項目（設問7・17）に肯定的に回答した学生が， <u>約90%と高いレベル</u> にある。ただし，前期授業アンケートでシラバスの活用に関する項目に肯定的に回答した学生は多いが，他の項目とは異なり90%に達していない。シラバスを参考に学習を進めるための対策を各教員に促すことを検討しても良いかもしれない。 |                                                                  |
| 4) 今後の課題・改善を要する点                                                                                                                                                               |                                                                  |
| 特になし                                                                                                                                                                           |                                                                  |

観点5) 学位授与方針を参照しつつガイダンスが実施され、学生のニーズに則した履修指導や学習相談の体制が整備されているか。また、特別な支援を行うことが必要と考えられる学生を受け入れている場合の学習支援の実施状況が適切か。

現況分析： P64

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |                                                                  |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------|
| 1) 点検・評価結果                                                                                                                                                                                                                                                                                      |                                                                  |
| <input checked="" type="checkbox"/> 学位授与方針を参照しつつガイダンスが実施され、学生のニーズに則した履修指導や学習相談の体制が整備されているか。また、特別な支援を行うことが必要と考えられる学生を受け入れている場合の学習支援の実施状況が適切である。<br><input type="checkbox"/> 分析結果において根拠が確認できない事項があった。                                                                                             |                                                                  |
| <input checked="" type="checkbox"/> 優れた点がある。<br><input checked="" type="checkbox"/> 特色ある点がある。<br><input type="checkbox"/> 改善を要すべき点がある。                                                                                                                                                          |                                                                  |
| 2) 分析結果                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                                                                  |
| 分析内容                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 根拠の有無                                                            |
| 1. 学士課程（教育学部3養成課程・1学科）                                                                                                                                                                                                                                                                          | <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 |
| 2. 修士課程（教育学研究科4専攻）                                                                                                                                                                                                                                                                              | <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 |
| 3. 専門職学位課程（連合教職実践研究科1専攻）                                                                                                                                                                                                                                                                        | <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 |
| 3) 特色ある点・優れた成果                                                                                                                                                                                                                                                                                  |                                                                  |
| <p>・年度初めの4月初旬に大学院生を対象とした授業ガイダンスが実施され、履修上の注意や学生生活での悩みなどの相談窓口の案内がされている。また、授業アンケートで「授業への取組」や「授業から得たものについて」の<u>全ての項目</u>で肯定的評価が<u>97%以上</u>で、学部生の授業アンケート結果よりも極めて高評価である。これは、ガイダンスにより学生のニーズに則した履修指導や学習相談の体制が整備されている結果といえる。</p> <p>・特色ある点として、①主・副指導教員がペアで院生の学習を支援している点、また、②院生サポートチームによる院生支援が挙げられる。</p> |                                                                  |
| 4) 今後の課題・改善を要する点                                                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                  |
| 特になし                                                                                                                                                                                                                                                                                            |                                                                  |

観点 6) 教育課程方針に基づいて、成績評価基準を学生に周知しており、その基準に従って成績評価、単位認定を実施しているか、さらに、厳格かつ客観的な成績評価を実施するため、成績評価の適切性の確認や異議申し立ての仕組みを組織的に設けているか。

現況分析： P65

|                                                                                                                                                                                                           |                                                                  |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------|
| 1) 点検・評価結果                                                                                                                                                                                                |                                                                  |
| <input checked="" type="checkbox"/> 教育課程方針に基づいて、成績評価基準を学生に周知しており、その基準に従って成績評価、単位認定を実施しているか、さらに、厳格かつ客観的な成績評価を実施するため、成績評価の適切性の確認や異議申し立ての仕組みを組織的に設けている。<br><input type="checkbox"/> 分析結果において根拠が確認できない事項があった。 |                                                                  |
| <input type="checkbox"/> 優れた点がある。<br><input checked="" type="checkbox"/> 特色ある点がある。<br><input type="checkbox"/> 改善を要すべき点がある。                                                                               |                                                                  |
| 2) 分析結果                                                                                                                                                                                                   |                                                                  |
| 分析内容                                                                                                                                                                                                      | 根拠の有無                                                            |
| 1. 学士課程（教育学部 3 養成課程・1 学科）                                                                                                                                                                                 | <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 |
| 2. 修士課程（教育学研究科 4 専攻）                                                                                                                                                                                      | <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 |
| 3. 専門職学位課程（連合教職実践研究科 1 専攻）                                                                                                                                                                                | <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 |
| 3) 特色ある点・優れた成果                                                                                                                                                                                            |                                                                  |
| 学校実習においては、ルーブリック評価を定め、学校現場からの評価と指導教員の評価を組み合わせ、両者の視点から評価している。                                                                                                                                              |                                                                  |
| 4) 今後の課題・改善を要する点                                                                                                                                                                                          |                                                                  |
| 特になし                                                                                                                                                                                                      |                                                                  |

観点7) 学位授与方針に則して卒業又は修了の要件が策定され、評価の基準が明確であり、  
それらが学生に周知され、卒業又は修了の認定が適切に行われているか。

現況分析： P65

|                                                                                                                                                                    |                                                                  |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------|
| 1) 点検・評価結果                                                                                                                                                         |                                                                  |
| <input checked="" type="checkbox"/> 学位授与方針に則して卒業又は修了の要件が策定され、評価の基準が明確であり、<br>それらが学生に周知され、卒業又は修了の認定が適切に行われている。<br><input type="checkbox"/> 分析結果において根拠が確認できない事項があった。 |                                                                  |
| <input type="checkbox"/> 優れた点がある。<br><input type="checkbox"/> 特色ある点がある。<br><input type="checkbox"/> 改善を要すべき点がある。                                                   |                                                                  |
| 2) 分析結果                                                                                                                                                            |                                                                  |
| 分析内容                                                                                                                                                               | 根拠の有無                                                            |
| 1. 学士課程（教育学部3養成課程・1学科）                                                                                                                                             | <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 |
| 2. 修士課程（教育学研究科4専攻）                                                                                                                                                 | <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 |
| 3. 専門職学位課程（連合教職実践研究科1専攻）                                                                                                                                           | <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 |
| 3) 特色ある点・優れた成果                                                                                                                                                     |                                                                  |
| 特になし                                                                                                                                                               |                                                                  |
| 4) 今後の課題・改善を要する点                                                                                                                                                   |                                                                  |
| 特になし                                                                                                                                                               |                                                                  |

観点 8) 卒業又は修了時の状況、並びに卒業又は修了後一定期間経過後における関係者への調査の状況など、学習成果の状況を把握する取組の結果に基づき、学位授与方針に明示する学習成果が上がっているか。

現況分析： P65

|                                                                                                                                                                                                                                           |                                                                  |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------|
| 1) 点検・評価結果                                                                                                                                                                                                                                |                                                                  |
| <input checked="" type="checkbox"/> 卒業又は修了時の状況、並びに卒業又は修了後一定期間経過後における関係者への調査の状況など、学習成果の状況を把握する取組の結果に基づき、学位授与方針に明示する学習成果が上がっている。<br><input type="checkbox"/> 分析結果において根拠が確認できない事項があった。                                                       |                                                                  |
| <input checked="" type="checkbox"/> 優れた点がある。<br><input checked="" type="checkbox"/> 特色ある点がある。<br><input type="checkbox"/> 改善を要すべき点がある。                                                                                                    |                                                                  |
| 2) 分析結果                                                                                                                                                                                                                                   |                                                                  |
| 分析内容                                                                                                                                                                                                                                      | 根拠の有無                                                            |
| 1. 学士課程（教育学部 3 養成課程・1 学科）                                                                                                                                                                                                                 | <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 |
| 2. 修士課程（教育学研究科 4 専攻）                                                                                                                                                                                                                      | <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 |
| 3. 専門職学位課程（連合教職実践研究科 1 専攻）                                                                                                                                                                                                                | <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 |
| 3) 特色ある点・優れた成果                                                                                                                                                                                                                            |                                                                  |
| ・教育学研究科の学習成果を活かし、芸術文化専攻・健康科学専攻の <u>学生がコンクールや大会などで多数受賞</u> 、国際文化専攻の留学生在が大阪府内の小中学校で学習支援、総合基礎科学専攻学生が国際学会を含む各種学会で研究成果を発表するなど、様々な形で評価、活躍していることが示された。<br>・学部卒院生の 90%以上が教員として就職している。教職大学院の修了生との交流会（実践研究フォーラム）を毎年、実施している。現職教員の多くが修了後、学校現場で活躍している。 |                                                                  |
| 4) 今後の課題・改善を要する点                                                                                                                                                                                                                          |                                                                  |
| 特になし                                                                                                                                                                                                                                      |                                                                  |



(2) 教養教育ポリシーに基づく点検・評価

観点1) 大学全体の教員養成及び教育・学習支援人材養成の機能の充実・強化を支えるため、グローバル化に対応した教養教育の質的充実を図っているか。

現況分析： P66

| 1) 点検・評価結果                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |                                                                  |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> 整備され、有効に活用されている。<br><input type="checkbox"/> 分析結果において根拠が確認できない事項があった。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |                                                                  |
| <input checked="" type="checkbox"/> 優れた点がある。<br><input checked="" type="checkbox"/> 特色ある点がある。<br><input checked="" type="checkbox"/> 改善を要すべき点がある。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                                                                  |
| 2) 分析結果                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |                                                                  |
| 分析内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 根拠の有無                                                            |
| グローバル化に対応した教養教育の質の充実を図っていること。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 |
| 3) 特色ある点・優れた成果                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |                                                                  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・英語(T)Ia・b の一部の授業で e-learning 教材を導入して、自律学習と教室でのコミュニケーション活動が有機的につながるような授業設計の構築・実践を行った。</li> <li>・「英語 IIB(外国語コミュニケーション)」における英語力評価については、天王寺ランゲージチャットルームと連携し、native speaker 及び授業担当教員によりスピーチパフォーマンス評価を 2 月に実施した。(初等教育夜間コース)・英語(C)IIa では、<u>スーパー英語 Academic Express 3 の 2000 マイルを単位取得の条件とし、ほとんどの学生が条件をクリアした。</u></li> <li>・教養基礎科目 English World の <u>SA(スチューデント・アシスタント)</u>はオンラインにおける <u>ALL English の授業を効果的に進めることができた</u>という成果があった。学生の中には、外国語コミュニケーションにも同様の SA を希望する者もいた。</li> </ul>               |                                                                  |
| 4) 今後の課題・改善を要する点                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |                                                                  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・学長の下に設置された教育課程検討ワーキンググループにおいて、海外体験・留学を促進するための課題を整理した。教員養成課程、教育協働学科、初等教育課程の英語教育の目標、教育方針、成果にばらつきがあり、英語力の目安として使用する外部試験も progress(教員養成)、TOEFL ITP(教育協働)、Oxford Quick Placement Test(初等教育)と統一されていない。</li> <li>・在学生にアンケートを行い、英語に関する質問項目について分析を行った結果、在学生のうち小学校教員を目指す学生については、4 回生における英語能力資格の取得状況は他の学年に比べて低い水準を示している。</li> <li>・卒業生にアンケートを行い、小学校での推奨英語能力の認知と、いずれかで中以上(英検であれば 2 級以上)の資格・スコア取得状況との関連について分析を行った結果、取得状況と認知の間の関連性が示唆された。今後の課題として 1 回生の初期の頃から推奨英語能力について学生に知らせる機会を増やしていくことが求められる。</li> </ul> |                                                                  |

- ・英語に関する能力形成だけがグローバル化に対応する教養教育ではなく，多文化理解や異質な他者とのコミュニケーション能力の育成も今後の重点的課題として挙げられる。

## 第5「その他 教育活動」

観点1) 各センターは、その設置目的に照らして、求められる教育活動を行っているか。

現況分析： P67

| 1) 点検・評価結果                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |                                                                  |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> 各センターは、その設置目的に照らして、求められる教育活動を行っている。<br><input type="checkbox"/> 分析結果において根拠が確認できない事項があった。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |                                                                  |
| <input checked="" type="checkbox"/> 優れた点がある。<br><input checked="" type="checkbox"/> 特色ある点がある。<br><input checked="" type="checkbox"/> 改善を要すべき点がある。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |                                                                  |
| 2) 分析結果                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |                                                                  |
| 分析内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 根拠の有無                                                            |
| 1. 各センターの教育活動の実施状況から判断して、学生のニーズに応じた教育活動・修学支援を行っていること。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 |
| 3) 特色ある点・優れた成果                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |                                                                  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・学内外組織の連携協働の推進として、協定校であるフランスのリヨン第三大学と連携し、国語教育における論述教育について「フランスの論述教育を日本の教育に取り入れるには—論述とテキスト読解—」という題目でオンライン国際シンポジウムを学内組織とセンターの共催で開催した。</li> <li>・全学的な英語力アップのための様々な施策（英語教育カリキュラムの見直し・留学推進・Global Learning Community でのランチタイムチャットや各種英語試験対策講座等）を実施した結果、令和2年度中学校・高校教員志望の卒業生（英語教育コース・英語コミュニケーションコース）で英検準1級レベルの英語力を取得している学生は84%となった。</li> <li>・高度理系教職セミナーを活用した<u>全学FD「大阪市の教育におけるICT活用の現状と1人1台端末を活用した新しい学び」</u>や、データサイエンスの<u>全学FD「データサイエンスが教育を変える」</u>を実施した。</li> <li>・留学生受入れ人数の増加への対応策の1つとして、留学生の生活支援を充実させるために、「インバウンド保険」への加入を全留学生に義務づけている。2020年度（令和2年度）には、<u>手続き済者は正規留学生約94%、非正規留学生100%となった。</u></li> <li>・本学で令和2年度より正式に始まった副専攻プログラムである「<u>外国にルーツのある子どもの教育プログラム</u>」において、プログラムの必修科目で使用するオンライン教材作成に協力した。</li> <li>・学部正規留学生1回生を対象とする言語科目において、コロナ禍のために来日できない留学生のために、対面とオンラインを組み合わせたハイブリッド授業を提供した。</li> <li>・コロナ禍によりアルバイトができず、母国からの援助も得られない正規留学生を支援するための対策として、学内の教育研究活動を補助する「<u>学内ワークスタディ</u>」を実施した。また、日本語を使っておしゃべりをしながら交流する「<u>OKU オンラインカフェ</u>」</li> </ul> |                                                                  |

を7回実施した

- ・無線 LAN アクセスポイントの整備について、柏原キャンパス講義棟及び、天王寺キャンパス西館／東館については、旧機種からの交換がほぼ完了した。
- ・コロナ禍でオンライン講義の需要が増したなか、(1) 授業管理システム Moodle と連携するストリーミングサーバを導入して機能拡張を行うとともに、(2) 全学 FD 事業を通じて、リアルタイムに講義を配信するためビデオ会議システム (Zoom) の効果的な活用を進めた。
- ・面接指導前後を比較するために映像記録システムを整備した。
- ・第 13 回科学連絡協議会を2年ぶりに開催することにより、各附属学校園での困りごと・要望を聞き、次年度以降に対応するための情報収集を行った。
- ・WWL 事業の一環として、附属高校の昼休みの約 30 分を使い、本学の教員研修留学生と附属高校の生徒が英語で会話をするランチタイムチャットプログラムを 2020 年 11 月下旬～2021 年 1 月の期間、オンラインで実施した。
- ・学長及び役員等と初等教育課程・教員養成課程の各部門による「教員就職率向上に向けた意見交換会」を通じて、関係各部門に進路情報把握の意識付けがなされた結果、教員就職率を、目標を大幅に上回る結果 (71.3%) へと飛躍させた。
- ・大阪教育大学学生支援総合ネットワークによる、修学支援センター (カウンセリングルーム及び障害学生修学支援ルーム)、学生なんでも相談窓口、キャリア支援センターを中心とした学生支援関連部署の協働と連携のための仕組みが機能している。
- ・識字・日本語に関する取組が、人権教育に強みを持つ大阪教育大学の特長を活かした取組として行われている。
- ・大阪府立高校教職コンソーシアムと連携し、メールマガジン (「学びの架け橋」) を発行し、広報に努めている。

#### 4) 今後の課題・改善を要する点

- ・センターの複数教員で担当している科目については教員同士で授業内容や指導方法について情報交換を頻繁に行っているが、センターの FD としてそうした取組を共有する必要がある。
- ・教員志望の学生が受験先を選択する際の提供情報を充実させる必要がある。また、教員就職率の向上のために、低年次回生から卒業後のビジョンを意識した学生生活を送ることができるような支援を実現することが必要である。
- ・授業管理システム Moodle と連携するストリーミングサーバについての保守費の継続的な予算の確保が今後の課題となっている。
- ・面接指導前後を比較するために整備した映像記録システムを、センター利用者が使用できるような環境を整備する必要がある。
- ・従来手薄であった、柏原・天王寺の両キャンパス間の就職支援業務スケジュールの共有が求められる。
- ・個別の学生に焦点をあてた支援に加えて、学生同士の交流やピアサポートを促進する取組の拡充が必要である。

観点2) 附属学校園が、大学の教育研究・教育実習等の場として求められる役割を果たしているか。

現況分析： P67

| 1) 点検・評価結果                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |                                                                  |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> 附属学校園が、大学の教育研究・教育実習等の場として求められる役割を果たしている。<br><input type="checkbox"/> 分析結果において根拠が確認できない事項があった。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |                                                                  |
| <input checked="" type="checkbox"/> 優れた点がある。<br><input checked="" type="checkbox"/> 特色ある点がある。<br><input checked="" type="checkbox"/> 改善を要すべき点がある。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |                                                                  |
| 2) 分析結果                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                                                                  |
| 分析内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 根拠の有無                                                            |
| 1. 附属学校園が、大学の教育研究・教育実習等の場として求められる役割を果たしていること。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 |
| 3) 特色ある点・優れた成果                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |                                                                  |
| <p>【教育実習生等の受入れ】</p> <p>学部・大学院及び特別専攻科が計画する教育実習のほか、学校インターンシップ、教育コラボレーション演習（教育協働学科）及び学校実習（連合教職大学院）の学生を受け入れた。新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて、期間・方法について柔軟に対応するとともに、附属学校園以外の実習協力校における教育実習が中止された場合の配当についても受け入れるなど、求められる役割を果たした。</p> <p>【公認心理師養成に係る実習】</p> <p>学部・大学院の改組に伴い、新たに受入先が必要となった公認心理師養成に係る実習について、その一部を附属学校園で担う、理解・協力を求める取組を行った。</p> <p>【探究型学習の実践と研究】</p> <p>教養基礎科目の「探究型学習の実践と研究」は、附属高等学校（3校舎）における探究型学習の先行的実践例を学部生に提供するとともに、各校舎の副校長等が講義を担当し、大学と連携の下、求められる教育活動において役割を果たしている。</p> <p>【附属学校園教員と大学教員との研究交流会】</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大が継続する状況下で、Zoomによる口頭発表及びMoodleによるポスター発表とした。ポスター出展紹介動画配信など新たな取組も企画した。</p> <p>【附属学校園を活用した教育研究や附属学校園教員との共同研究に関するアンケート】</p> <p>学術連携課と調整し実施した大学教員の附属との関わりのアンケート調査に続いて、附属学校園教員を対象に行う調査を大学教員とのマッチングも念頭に置き準備を行った。</p> |                                                                  |

【New Normal ー新しい学校生活への支援ー】

附属学校園と連合教職大学院との協力により、教員の教育活動のヒントになるような、ICT を活用した授業や教材等をサイトで紹介し、この取組は国立大学協会の広報誌「国立大学」59号に掲載された。

【WWL コンソーシアム構築支援事業】

大学教員と附属学校教員が連携し、イノベーティブなグローバル人材育成システムを開発するためのグループを形成し、さまざまな取組を開始した。

4) 今後の課題・改善を要する点

- ・教育実習の実施について、人事交流の不調等が生じた場合に教員ひとりあたりの負担増が懸念される。安定的な指導体制の整備が検討課題である。、
- ・附属学校園を活用した教育研究や附属学校園教員との共同研究に関するアンケート結果に基づき的確にマッチング作業を行い、大学、附属双方にとって意義ある関係性の構築を図ることが必要である。

## 第6「研究活動」

観点1) 大学の目的に照らして、研究活動を実施するために必要な体制が適切に整備され、機能しているか。

現況分析： P68～73

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |                                                                  |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------|
| 1) 点検・評価結果                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |                                                                  |
| <input checked="" type="checkbox"/> 大学の目的に照らして、研究活動を実施するために必要な体制が適切に整備され、機能している<br><input type="checkbox"/> 分析結果において根拠が確認できない事項があった。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |                                                                  |
| <input type="checkbox"/> 優れた点がある。<br><input checked="" type="checkbox"/> 特色ある点がある。<br><input type="checkbox"/> 改善を要すべき点がある。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |                                                                  |
| 2) 分析結果                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |                                                                  |
| 分析内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 根拠の有無                                                            |
| 1. 研究の実施体制及び支援・推進体制が適切に整備され、機能していること。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 |
| 2. 研究活動に関する施策が適切に定められ、実施されていること。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 |
| 3. 研究活動の質の向上のために研究活動の状況を検証し、問題点等を改善するための取組が行われていること。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 |
| 3) 特色ある点・優れた成果                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |                                                                  |
| 1) センターでの研究活動<br>・学校安全推進センターでは、華東師範大学と第8回都市開発フォーラム兼学校安全保障機制国際会議を共催した（オンライン開催）。<br>・グローバルセンター国際連携部門では、協定大学であるジュネーブ大学心理学・教育学部の教授等とグローバルシティズンシップ教育をテーマに国際共同研究を行った。また、グローバルな視野を育成する教育について、10カ国の研究者からなる研究グループで検討し、その成果を令和2年8月に Abdeljalil Akkari and Kathrine Maleq (Eds), (2020) Global Citizenship Education. Critical and International Perspectives, Springer において公表した。<br>・学長特別プロジェクト「教室へのAI・データサイエンス技術の実装に関する実証的研究と大学教育課程での成果の活用」において、「様々な教育課題の解決に資する教育現場での自動データ収集システム開発と学力の関係の研究」「大学での教員養成期間中における教員志望度変化の分析」「特別支援学級における、運動特性や表情と認知特性の研究、及び教材開発」という萌芽的な研究を推進した。 |                                                                  |
| 2) 附属学校園での研究活動<br>・平成24年度から、附属学校園教員と大学教員の研究活動の情報共有及び双方の交流を目的として、「附属学校園教員と大学教員との研究交流会」を開催し、毎年口頭発表、                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                  |

ポスターセッションに多数の参加者を得て双方の連携に関する行事として定着している。附属学校園の口頭発表は5件、ポスター発表は22件、大学教員を含む全体の参加者は約90名であった。このほか口頭1件・ポスター9件が合同で発表されており、5つの系にわたり幅広く共同研究が行われている。

4) 今後の課題・改善を要する点

特になし



観点 2) 大学の目的に照らして、研究活動が活発に行われており、研究の成果が上がっているか。

現況分析： P74～P75

|                                                                                                                                                                                   |                                                                  |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------|
| 1) 点検・評価結果                                                                                                                                                                        |                                                                  |
| <input checked="" type="checkbox"/> 大学の目的に照らして、研究活動が活発に行われており、研究の成果が上がっている。<br><input type="checkbox"/> 分析結果において根拠が確認できない事項があった。                                                  |                                                                  |
| <input type="checkbox"/> 優れた点がある。<br><input checked="" type="checkbox"/> 特色ある点がある。<br><input checked="" type="checkbox"/> 改善を要すべき点がある。                                            |                                                                  |
| 2) 分析結果                                                                                                                                                                           |                                                                  |
| 分析内容                                                                                                                                                                              | 根拠の有無                                                            |
| 1. 研究活動の実施状況から判断して、研究活動が活発に行われていること。                                                                                                                                              | <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 |
| 2. 研究活動の成果の質を示す実績から判断して、研究の質が確保されていること。                                                                                                                                           | <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 |
| 3. 社会・経済・文化の領域における研究成果の活用状況や関連組織・団体からの評価等から判断して、社会・経済・文化の発展に資する研究が行われていること。                                                                                                       | <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 |
| 4. 最先端の研究のみならず、萌芽的な研究を推進するとともに、若手研究者による柔軟で多様な発想を活かし、その育成に取り組んでいること。                                                                                                               | <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 |
| 3) 特色ある点・優れた成果                                                                                                                                                                    |                                                                  |
| <p>令和 2 年度より経営戦略経費（研究活性化推進経費）を新設し、系における研究活性化プロジェクトを開始した。令和 2 年度はとくに新型コロナウイルス感染症への教育的影響の研究を推進した。</p> <p>日本語教育人材に関する研究、外国にルーツのある教育プログラムの開発などのダイバーシティ教育の一連の研究への取組は時宜を得たものと考えられる。</p> |                                                                  |
| 4) 今後の課題・改善を要する点                                                                                                                                                                  |                                                                  |
| <p>令和 2 年度の研究業績数（教育系の査読付き論文数、学術図書、作品等）は、平成 30 年度よりは増加したが令和元年度に比べると減少したため、前年度の実績を少なくとも維持できるよう手立てを要する。</p>                                                                          |                                                                  |

観点3) 大学と附属学校園が協働的に、有機的なつながりをもって研究活動に取り組み、その成果を大学教育や社会へ還元しているか。

参考 「教員需要の減少期における教員養成・研修機能の強化に向けて ―国立教員養成大学・学部、大学院、附属学校の改革に関する有識者会議報告書―」 p.10

(7) 附属学校園についての課題

(中略)

平成28年度に附属学校園における教育研究の実証結果のもとに科目の新設やシラバスの改定を行った授業(学部・修士課程・教職大学院)があることを把握しているのは13大学(29.5%)及び110校園(42.3%)にとどまり、附属学校園における研究・実践の成果を把握し、教員養成カリキュラムの改善に繋げることが十分であるとは言えない。

現況分析： P76

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                  |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------|
| 1) 点検・評価結果                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |                                                                  |
| <input checked="" type="checkbox"/> 大学と附属学校園が協働的に、有機的なつながりをもって研究活動に取り組み、その成果を大学教育や社会へ還元している。<br><input type="checkbox"/> 分析結果において根拠が確認できない事項があった。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |                                                                  |
| <input type="checkbox"/> 優れた点がある。<br><input checked="" type="checkbox"/> 特色ある点がある。<br><input checked="" type="checkbox"/> 改善を要すべき点がある。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                                                                  |
| 2) 分析結果                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                                                                  |
| 1. 教員養成カリキュラムの改善につなげるため、附属学校園において、研究・実践の成果を把握し、その研究・実践の成果が教員養成カリキュラムの改善につながっていること。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 |
| 2. 附属学校園を活用した大学の研究の実施状況を把握し、大学の教育改善・向上につなげることができるよう得られた知見や成果が学内で共有されるように努めていること。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 |
| 3) 特色ある点・優れた成果                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |                                                                  |
| <p>(1) WWL コンソーシアム構築支援事業</p> <p>令和2年度に文部科学省に採択された本事業は、大学教員と附属高等学校教員(拠点校平野校舎、共同実施校池田校舎、連携校天王寺校舎)が連携し、イノベーティブなグローバル人材育成システムを開発するための取組である。国内外の連携大学及び高等学校、連携機関が参画するALネットワークを構築するとともに、大学教員と附属学校教員を構成メンバーとするGIRE委員会を設置した。活動項目に対応させたグループを形成し、さまざまな取組を開始した。令和2年度の実施結果は、文部科学省へ報告(事業完了報告書)するとともに、事業報告書(第1年次)にまとめ、いずれも本学ウェブページのサイト(WWL(World Wide Learning)コンソーシアム構築支援事業)で公表した。</p> <p>本事業では、本学の特色を生かした「評価指標の開発」も目指している。令和2年度は、イノベーティブなグローバル人材に求められる資質・能力の測定が可能な評価指標について、アセスメントグループを軸に調査研究に取り組んだ。附属高等学校の生徒(平野校舎・池田校舎)を対象に試行的な評価を実施し、その妥当性について継続的な検証を進</p> |                                                                  |

めている。

#### (2) 附属高等学校合同研究発表会

附属高等学校で展開されている探究活動の研究成果について、3校舎（天王寺、池田、平野）及び近畿地区附属高等学校（奈良女子大学附属中等教育学校、京都教育大学附属高等学校、神戸大学附属中等教育学校）合同の研究発表会を実施した。ここに、本学教員が参画し、発表に対して講評するとともに、学部生・連合教職大学院生も運営に関わった。

#### (3) 教養基礎科目「探究型学習の実践と研究」の新設（再掲：第5 観点2）

本科目は、附属高等学校における探究型学習の先行的実践の研究成果を学部カリキュラムに反映させたものとして、令和2年度から開講された。附属高等学校の副校長等が探究型学習の基本について講義を担当し、附属高等学校における実践例の見学が組み込まれるなど、大学との連携の下、求められる教育活動において役割を果たしている。

#### (4) 附属学校園とのマッチングアンケート

附属学校園と大学教員のマッチングを目的として、大学教員の附属学校園との関わりの有無、今後の関わりを持つことへの興味、関わり方等についてアンケートを行い、関わりを希望する教員に関して附属学校園に情報を提供した。

#### 4) 今後の課題・改善を要する点

- ・WWLに関する取組のうち、高等学校での活動の一部（海外研修、フィールドワーク、海外連携校との交流活動等）は、コロナウイルス感染拡大の影響を受けて実施に至らなかった。オンラインによる代替の取組は実現したが、必ずしも十分とは言えない。
- ・教養基礎科目「探究型学習の実践と研究」については、時間割への掲載が間に合わなかったこともあり、受講生が3名にとどまった。次年度以降は受講生の拡大を見込んだ活動計画が求められる。

## 第7「その他」(テーマ別の自己点検・評価)

観点)組織を超え、大学として取り組んでいる事項として、特色、成果が上がっている、あるいは、改善を要すると考えられる特徴ある取組は何か。

全学的に取り上げるテーマを定め、現況を分析し、成果と課題を明らかにする。

テーマ：新型コロナウイルスに対する対応の成果と課題

現況分析： P77

| 1) 分析結果                                                                                                                                                                                                                 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 分析内容                                                                                                                                                                                                                    |
| 令和2年度は、年度開始当初からコロナ禍による対応を迫られたが、他大学に比べ早期に授業を開始するなど、事務局をはじめとする教職員の創意工夫により大学運営を円滑に行うことができた。                                                                                                                                |
| 2) 特色ある点・優れた成果                                                                                                                                                                                                          |
| <p>* コロナ化での安定した大学運営の確保</p> <p>令和2年度は混乱した状況の中様々な課題が生起したが、全学的な創意工夫により課題を一つ一つ解決し、第4四半期には安定した大学運営を確保することができた。</p> <p>コロナ禍については、現在は落ち着いているものの海外では再度拡大している国もあることから、現状の対策を維持しつつ、常に感染拡大時に備えておく必要がある。</p>                        |
| <p>* 早期のオンライン授業実施</p> <p>小学校、中学校、高等学校の授業開始が6月からとなる中で、<u>本学では5月からオンライン授業を開始することができた。</u></p> <p>これは、パソコンを全員必携としていたことに加え、5月までにFDとして「オンライン授業の行い方」複数回行うとともに、授業実施に関する相談窓口を開設するなど<u>オンライン授業を実施できる体制を早期に整えたことによる成果である。</u></p> |
| <p>* 対面授業における創意工夫</p> <p>コロナ感染症がひと段落した後期からは対面授業もスタートしたが、密を避けるために、100名を超える授業ではオンライン授業を継続し、それ以下の人数の授業では教室定員を65%以下に下げてより受講生の間隔を確保できるようにするなどの対応を行った。</p>                                                                    |
| <p>* 学生支援</p> <p>オンライン環境がない学生に対しては、大学が購入したルーターを学生に貸与して、通信環境を確保した。また、<u>不安の大きい1回生を支援するため、学年担任がオンラインで独自のホームルームの場を設定し、学生相互の交流やコミュニケーションの促進を行うなど優れた事例も見られた。</u></p>                                                         |

\* 学生の経済支援

コロナ禍によりアルバイトなどを行うことができず経済的に困窮する学生を対象に、同窓会等の協力の下、奨学金を創設し、経済的な面からも学生を支援した。

3) 今後の課題・改善を要する点

特になし

テーマ：(学び続ける教員の養成とキャリアデザイン[入学前の適正から卒業後の学びまで])

| 1) 分析結果                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>分析内容</p> <p>コロナ禍にあり様々な取組が中止される中で、標記のテーマに関わって、教育委員会、学校と連携して実施形態を変更するなどの工夫を行いながら、取組を進めている。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 2) 特色ある点・優れた成果                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| <p><b>* 大阪府の高校生を対象とした授業公開</b></p> <p>初等教育課程においては、「大阪教育大学と大阪府立八尾高等学校との「高校生を対象とした授業公開」実施に関する覚書」(平成 25 年 3 月 29 日締結)に基づき、毎年度、学術連携課を通じて八尾高校と協議を行い連携している。この覚書に基づき公開している初等教育課程の授業科目は、八尾高等学校のアドバンスドコースの教育課程に位置付けられている。令和 2 年度も後期に新たな科目を加えて後期に実施した。</p> <p><b>* 高校生対象プログラム「教師にまっすぐ」の実施</b></p> <p>地域連携・教育推進センターにおいて、大阪府立高校教職コンソーシアムとの連携の下、教員を希望する高校生を対象に「教師にまっすぐ」を 5 回シリーズで開講している。令和 2 年度はコロナ禍のためオンラインを主とした実施形態となったが、182 名が修了した。</p> <p><b>* 出張授業の実施</b></p> <p>令和 2 年度はコロナ禍で高等学校では外部の入校が規制されることもあったが、18 校において出張授業を実施し、教育大学での学びの体験を伝える取組を行った。</p> <p><b>* 大阪府内の小学校教員に携わることを強く志望する者を対象とした新たな学校推薦型選抜(特別枠)</b></p> <p>初等教育教員養成課程では、本学と大阪府、大阪市が協議し、次世代の大阪府内の教育を担う人材の養成を目指し、令和 4 年 4 月入学生の選抜から、学校推薦型選抜(特別枠)の導入が決定された(募集人員：小学校教育専攻昼間コース 5 人)。</p> <p><b>* 「教師の学び舎」の実施</b></p> <p>地域連携・教育推進センターにおいて、大阪府立高校教職コンソーシアムとの連携の下、大阪府内の高等学校・支援学校の教員を対象に「教師の学び舎」を 3 回シリーズで開講した。令和 2 年度はコロナ禍のためオンラインを主とした実施形態となったが、約 30 名が修了した。</p> <p><b>* 研究コミュニティの開催</b></p> <p>本学教職大学院と大阪府教育庁、大阪市教育局、堺市教育局が協働して「研究コミュニティ」を設置しているが、令和 2 年度も教員育成指標をベースとして、教員の養</p> |

成・採用・育成に関わる研究を進め、報告書を作成した。

### 3) 今後の課題・改善を要する点

令和 2 年度は、コロナ禍で様々な取組が中止される中で、実施形態の変更など工夫を行い、教員の養成・育成に関わる取組が実施された。しかしながら、高校生を対象とした取組については、本学の志望者を増加させる意味合いからも教員に魅力を感じる高校生を発掘するとともに、各養成課程でさらなる充実が望まれる。

## 第1 「内部質保証」

観点1) 大学が教育研究活動の質と学生の学修成果の水準等を保証し、継続的に改善・向上を行うための枠組みとして、質保証の方針や体制を定めているか。

1. 内部質保証に関する全学的な方針及び体制が明確に定められていること

(分析根拠)

・内部質保証に関する基本方針

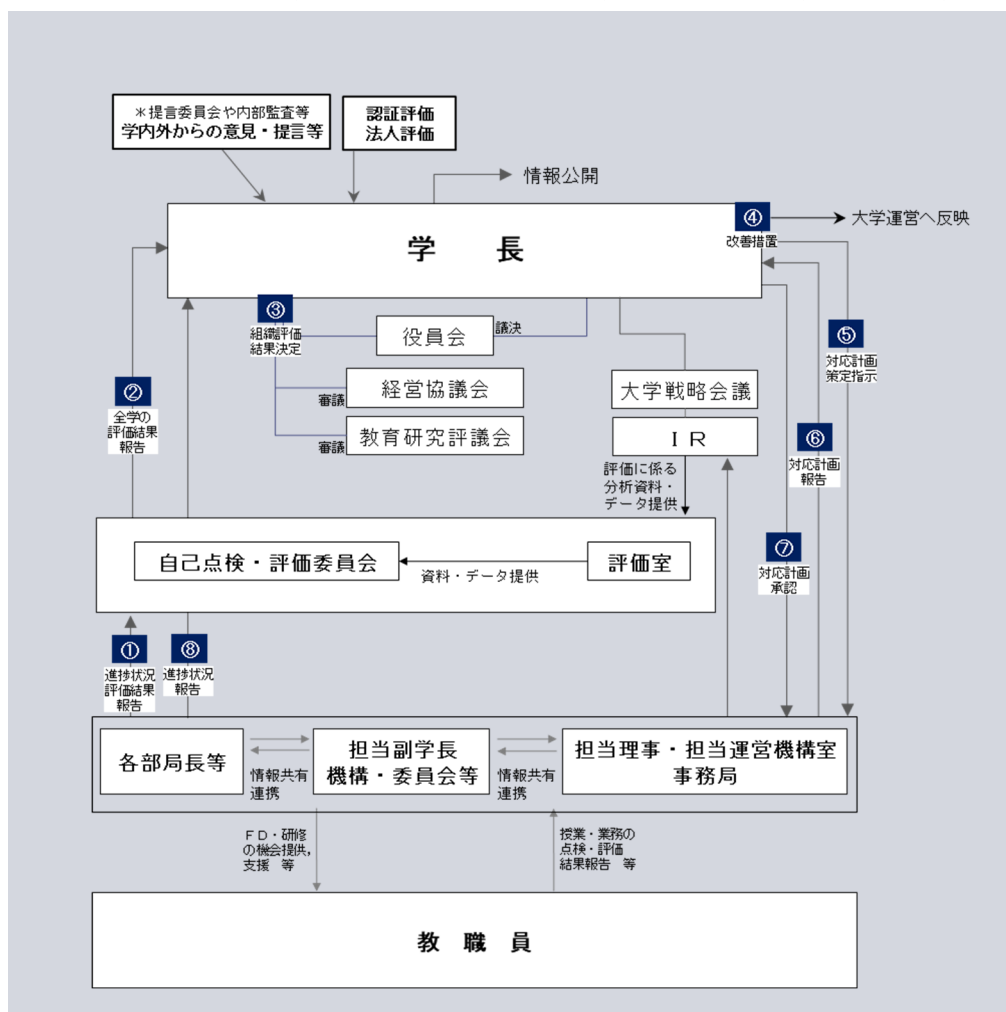
大学の教育、研究、社会貢献の質保証についての方針として「国立大学法人大阪教育大学内部質保証に関する基本方針」を定めている。

- ・国立大学法人大阪教育大学内部質保証に関する基本方針（平成 31 年 1 月 21 日制定）  
[https://osaka-kyoiku.ac.jp/Portals/0/resources/\\_file/kikaku/hyoka/naibusituhoshounohousin.pdf](https://osaka-kyoiku.ac.jp/Portals/0/resources/_file/kikaku/hyoka/naibusituhoshounohousin.pdf)

・内部質保証体制

内部質保証の体制は次のとおり。

- ・「内部質保証体制図」(\*大学機関別認証評価(令和2年度受審)提出資料)





## ・教育の内部質保証

「国立大学法人大阪教育大学内部質保証に関する基本方針」の中で、「教育の内部質保証」については次のとおり定めている。

「国立大学法人大阪教育大学内部質保証に関する基本方針」第2条

### (2)教育の内部質保証

教育に関する次のアからウに規定する項目において、全学的に取り組む質保証活動の責任者は理事又は副学長とし、主体となる各組織は別に定める。なお、質保証の責任者は、主体組織において、自己点検・評価の手続きと実施頻度を定め、自己点検・評価を行い、進捗状況及び評価結果を自己点検・評価委員会に報告する。

#### ア 教育課程

ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー及びアドミッション・ポリシーの3つのポリシーに基づく学位プログラムを策定し、PDCAサイクルを用いた教学マネジメントを運用する。

#### イ 学生受入

アドミッション・ポリシーに基づき、自己点検・評価を行う。

#### ウ 学生支援、施設・設備

学生支援及び学習環境に関する自己点検・評価を行う。

## ・大学 web ページを通じた学外への公表内容

「PDCA サイクルを用いた学位プログラムの質保証とアセスメント・ポリシーの策定について」と題して、次のとおり、教育の内部質保証を行うことを学外へ示している。

<https://osaka-kyoiku.ac.jp/faculty/policy/shisuhosyo.html>

### PDCAサイクルを用いた学位プログラムの質保証とアセスメント・ポリシーの策定について

「学士課程教育の構築に向けて」(平成20年12月24日中央教育審議会答申)や「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて」(平成24年8月28日中央教育審議会答申)を踏まえ、平成28年3月31日に『卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)」「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)及び「入学受入れの方針」(アドミッション・ポリシー)の策定及び運用に関するガイドラインが中央教育審議会分科会大学教育部会から公表された。

また、同ガイドラインにおいては、大学に対して、三つのポリシーを常に確認しながら、教育の不断の改革・改善に向けたサイクルー所謂PDCAサイクルーによるカリキュラム・マネジメントの確立を求めているが、その際には、「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて」(平成24年8月28日中央教育審議会答申)で提言された“アセスメント・ポリシー”に則って評価することが例示されているところであり、本学においても教育の内部質保証システムの構築が急務の課題となっている。

本学では、平成29年度から学部改組を行うとともに三つのポリシーからなる「大阪教育大学教育学部学位プログラム」を導入し、各プログラムに定める到達目標(卒業時に身に付ける力)達成型の教育課程として運用を開始したが、このことは、第3期中期目標・中期計画においても掲げ、取り組んでいるところである(計画番号10, 12, 13)。

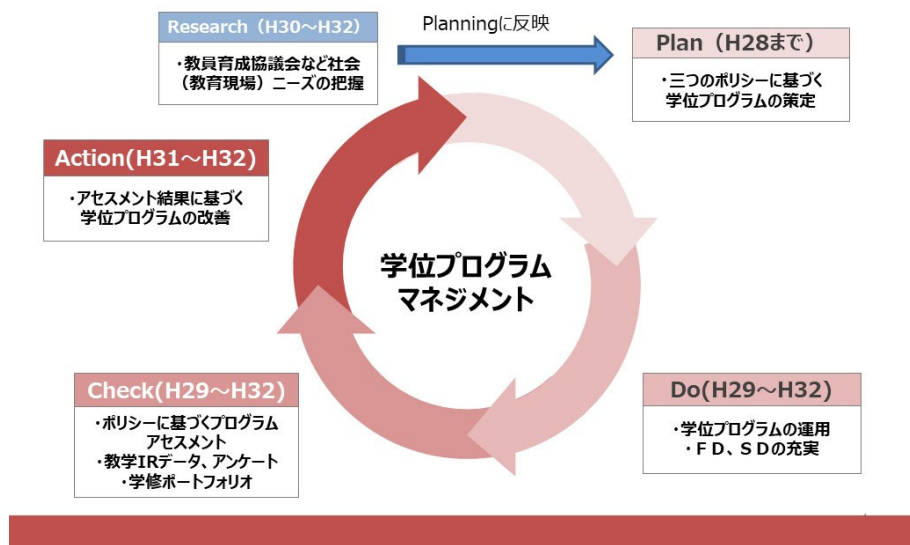
今後はこの目標の達成を支援するための教育・学習環境を整備していくことが求められるが、本学の教育改革を推進するために、また様々な外部評価に対応するためにも、今後ますます重要になってくるのが上述のガイドラインにおいても例示されているような評価(アセスメント)である。アセスメントとは、ある事象を客観的に評価することを指し、評価にあたっては客観的な評価基準を設定し、それらが基準を満たしているかといった観点で評価を行うこととされている。本学においては、到達目標への達成状況の測定と成績・就職状況の収集・分析、アンケートを総合して学位プログラムの評価を行い、評価結果に基づく改善を行うためのポリシーと位置付けることとする。

これまでにも学生による授業評価アンケートや教員による授業改善アンケートなど様々な取り組みが行われてきたが、学士課程教育全体の評価に活かされている状況にはない。その目的や内容、方法、体制等が十分に整理・共有されていなかったことが理由として考えられる。

その一方では、平成25年からHATOプロジェクトにおけるIR部門で新入生や在校生、卒業生へアンケートを行い、その結果をFD活動として報告会を開催し、IRの必要性への理解を深めている。

については、これらの現状と課題を踏まえ、IRデータ、学生アンケート及び授業改善教員アンケートを活用した評価を進めるためのアセスメント・ポリシーを策定したうえで、PDCAサイクルを用いた教学マネジメントを構築し、学位プログラムの改善を通じて、教育の内部質保証を行おうとするものである。

## 学位プログラムの質保証について



・大阪教育大学アセスメント・ポリシー

[https://osaka-kyoiku.ac.jp/Portals/0/resources/\\_file/kyomu/kyokikaku/asesu2.pdf](https://osaka-kyoiku.ac.jp/Portals/0/resources/_file/kyomu/kyokikaku/asesu2.pdf)

## 2. 教育の内部質保証における実施体制が明確に定められていること。

(分析根拠)

### ・教育課程の質保証

#### ・学部（課程・学科）、大学院（研究科）の質保証

##### ・教育学部の質保証

初等教育教員養成課程，学校教育教員養成課程，養護教諭養成課程，教育協働学科における教育課程について，それぞれの組織の長である課程長，学科長を責任者として，質保証を行う。

##### ・大学院の質保証

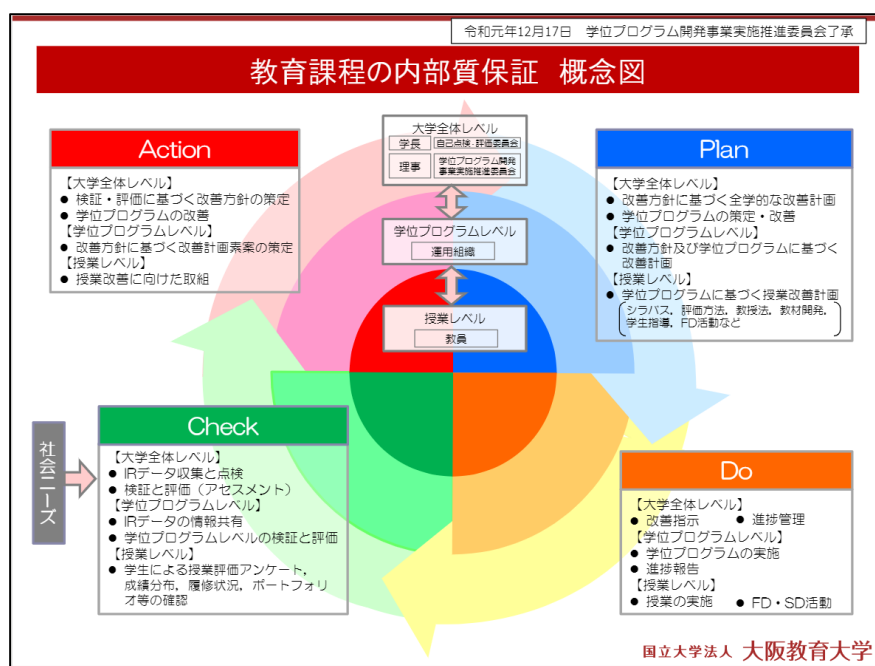
教育学研究科については教育学研究科主任が，連合教職実践研究科については連合教職実践研究科主任を責任者として，質保証を行っている。

#### ・学位プログラムの改善を通じた教育の質保証

学位プログラム開発事業及び教育課程の内部質保証に関して統括を行う組織として学位プログラム開発事業実施推進委員会を設置し，副学長を責任者として，質保証を行う。

「国立大学法人大阪教育大学教育課程の内部質保証に関する実施要項」を定めている。

(教育課程の内部質保証 概念図)



#### ・「学生の受入」の質保証

・入学者選抜の在り方について，次のとおり，役割分担して，質保証を行っている。  
なお，役割分担は，各組織の設置規程等によって定めている。

入試・学生支援室（責任者：理事）

入学試験等企画委員会（責任者：副学長）

・「施設及び設備」の質保証

施設及び設備に関しては、次のとおり、役割分担して、質保証を行う。

なお、役割分担は、各組織の設置規程等によって定めている。

・施設及び設備全般

資産管理室（責任者：理事）、施設マネジメント委員会（責任者：理事）

・情報設備

全学情報システム運用委員会（責任者：理事）

情報基盤統括室（情報基盤センター長）

・附属図書館

附属図書館運営委員会（附属図書館長）

・「学生支援」の質保証

学生支援に関しては、次のとおり、役割分担して、質保証を行う。

なお、役割分担は、学生支援に関する自己点検・評価基準、留学生の生活支援に係る自己点検・評価に関する申合せ、各組織の設置規程等によって定めている。

・学生支援に関する重要事項

入試・学生支援室（責任者：理事）

学生支援実施委員会（責任者：副学長）

・留学生の支援

国際交流・研究推進室（責任者：理事）

国際委員会（責任者：副学長）

・キャリア支援，保健，就学支援

各センター（全学センター統括機構のもと）

**観点2) 内部質保証の仕組において、質保証活動が適切に実施されているか。**

1. 教育研究活動の質や学生の学修成果の水準等を保証し、継続的に改善・向上を行うために、教育課程の毎年の点検（モニタリング）や定期的な点検・評価を行い、その結果を教育改善に活用していること。

- (1) ディプロマ・ポリシーに基づき、「学生が何を身に付けるか、付けたか」という観点を重視して、学生の学修成果の把握・評価を行い、その結果を教育課程の改善に活用していること。
- (2) カリキュラム・ポリシーに基づき、カリキュラムが教育内容や方法の面で教育目標を達成するように体系的に設計されているかを検討し、教育課程の改善に活用していること。
- (3) アドミッション・ポリシーに基づき、入学者選抜により学生の特性やその後の学習状況がどのように異なるかを検証し、学生の受入や選抜の方法が適切に行われているか、学生を受け入れている組織単位で検討していること。

(分析根拠)

**・教育学部の質保証**

- ・各課程・学科の自己点検・評価
- ・初等教育養成課程における自己点検・評価結果
- ・学校教育養成課程における自己点検・評価結果
- ・教育協働学科における自己点検・評価結果

**・大学院の質保証**

- ・各研究科等の自己点検・評価
- ・大学院教育学研究科における自己点検・評価結果
- ・大学院連合教職実践研究科における自己点検・評価結果

**・学位プログラムごとの検証及び評価結果及び具体的な検証**

- ・学位プログラム開発事業実施推進委員会からの報告
- ・学位プログラムごとの検証及び評価結果及び具体的な検証内容を含む報告資料等

**・学生の受入における入試選抜の在り方の検証結果**

- ・年度計画進捗達成状況シート（計画番号 24）
- ・入学定員充足率
- ・その他、入学者選抜の公平かつ適切な実施をチェックした結果

2. 学生が学修を行う施設・設備や資源等の学修環境、ならびに学生の学修等の相談・助言等の学生支援の施策の状況について、継続的な改善・向上のための点検・評価が行われていること。

(分析根拠)

・施設・設備の質保証

・施設及び設備全般の点検・評価

「国立大学法人大阪教育大学 キャンパスマスタープラン 2016 改訂版（インフラ長寿命化計画）」の策定と実行により、継続的な施設整備や環境整備、施設の管理・運営を行い、継続的な改善のための点検・評価を行っている。

(キャンパスマスタープラン)

大学がその運営理念に基づき合意形成したキャンパス空間の整備計画目標であり、継続的に実施される施設整備や環境整備及び施設の管理・運営の拠り所となる指針。

(インフラ長寿命化計画)

計画的な点検や修繕等の取組を実施する必要性が認められる全てのインフラでメンテナンスサイクルを構築・継続・発展させるための取組の方針となる「行動計画」と、施設毎のメンテナンスサイクルの実施計画である「個別施設計画」を定めている。

・計画を中期目標・中期計画に基づく年度計画に関連付けて取組んでいる。

根拠資料・データ

・国立大学法人大阪教育大学 キャンパスマスタープラン 2016 改訂版（インフラ長寿命化計画）p.5～41

・令和2事業年度に係る業務の実績に関する報告書

p.38「○施設マネジメントに関する取組【No.62】」

p.42「VI その他 1 施設・設備に関する計画」

・年度計画進捗達成状況シート（計画番号 62）

・情報設備に係る点検・評価

・令和2事業年度に係る業務の実績に関する報告書

p.38「(4) その他の業務運営に関する特記事項等」

「○サイバーセキュリティ対策に関する取組【No.63, 66】」の「④その他」

・年度計画進捗達成状況シート（計画番号 63, 66）

・附属学校図書館に係る点検・評価

・附属図書館における自己点検・評価

・附属図書館年次報告書（令和2年度）

( [https://www.lib.osaka-kyoiku.ac.jp/?page\\_id=222](https://www.lib.osaka-kyoiku.ac.jp/?page_id=222) )

・学生支援の質保証

- ・「学生支援に関する自己点検・評価基準」に基づく、点検・評価の実施結果
  - 学生生活実態調査（分析結果記載あり）
    - （<https://osaka-kyoiku.ac.jp/university/other/survey/campuslife.html>）
  - 令和2事業年度に係る業務の実績に関する報告書
    - （p.7「(3) 学生支援に関する状況」
- ・年度計画進捗達成状況シート（計画番号 19～23）
- ・留学生の支援に関する自己点検・評価の結果
- ・「留学生の生活支援に係る自己点検・評価に関する申合せ」に基づく、点検・評価結果
  - 「留学生の生活支援に係る自己点検・評価結果
- ・令和2事業年度に係る業務の実績に関する報告書
  - p.17、18「○グローバル教育人材の養成」
- ・年度計画進捗達成状況シート（計画番号 33）
- ・全学センター統括機構・教育研究施設における自己点検・評価結果
- ・グローバルセンター年報（<https://ger.osaka-kyoiku.ac.jp/annual-report/>）

・キャリア支援，保健，就学支援

基礎評価における自己点検評価「施設及び設備（学習環境）並びに学生支援」の評価項目において、全学センター統括機構（キャリア支援センター，保健センター，修学支援センターの活動）における自己点検・評価が行われる。

- ・全学センター統括機構・教育研究施設における自己点検・評価結果

3. 教育研究上の基本組織の新設や変更等重要な見直しを行うにあたり、大学としての適切性等に関する検証が行われる仕組み（質を保証するための学内承認の仕組み）を定め、定めに従い検証が行われていること。

（分析根拠）

大学戦略会議、教育研究評議会、経営協議会、役員会での審議の上で決定している。例えば、大学院の改革について、令和2年度第1回大学戦略会議の議事録に「議題（1）大学院改革について」とあるとおり、重要事項については大学戦略会議で審議した上で、教育研究評議会、経営協議会、役員会で審議し、決定している。

根拠資料・データ

- ・国立大学法人大阪教育大学内部質保証に関する基本方針
- ・国立大学法人大阪教育大学役員会規程
- ・国立大学法人大阪教育大学経営協議会規程
- ・国立大学法人大阪教育大学教育研究評議会規程
- ・国立大学法人大阪教育大学大学戦略会議規程
- ・大学戦略会議 令和2年度 10回開催

（URL: <https://osaka-kyoiku.ac.jp/university/operation/kaigi/strategy/>）

- ・教育研究評議会 令和2年度 13回開催

（URL: <https://osaka-kyoiku.ac.jp/university/operation/kaigi/edu/>）

- ・経営協議会 令和2年度 8回開催

（URL: <https://osaka-kyoiku.ac.jp/university/operation/kaigi/manage/>）

- ・役員会 令和2年度 25回開催

（URL: <https://osaka-kyoiku.ac.jp/university/operation/kaigi/exec/>）



#### 4. 教育研究活動を担う教員と教育支援及び学生の学修支援業務にあたる教職員の能力を 保証していること

(分析根拠)

##### ・教員の採用及び昇格等

教員の採用及び昇格等は、教員選考基準を定め、その基準に基づき、学位等の資格を有する者について、人格、識見、教育研究業績、経歴並びに学会及び社会における活動等を総合的に審査し、採用・昇任させている。

##### ・大学教員個人評価と年棒制大学教員の業績審査

大学教員個人評価実施要項及び年棒制大学教員の業績審査等に関する要項を策定し、教員の教育活動、研究活動、社会貢献・国際的活動・センター活動及び管理運営活動に関する評価を継続的に実施している。

評価結果は、各教員へ通知するとともに、月給制教員の個人評価については「結果概要報告」を公表している。

評価結果の活用は、「大学教員個人評価実施要項」に「評価結果を、大学組織内及び個人をとりまく環境の改善に役立てると同時に、教育研究経費の配分や処遇等に反映させるなど、本学の教育研究活動の改善に活用する」と定め、「年棒制大学教員活動実績評価及び目標達成度評価実施要領」に、「評価結果を、業績年棒に反映するとともに、教育研究経費の配分、大学組織内及び個人をとりまく環境の改善に役立てるなど、本学の機能強化及び教育研究活動の改善に活用する」と定めている。また、月給制教員については個々の教員の処遇（勤勉手当、昇給）に反映し、年棒制教員については個々の教員の翌年度業績年棒に反映している。

##### ・教職員の質の維持・向上

##### [全学] \*全学共通的に行う、SD・FD事業

- ・SD・FD事業の全学的方針に基づき、ファカルティ・ディベロップメント事業推進委員会がFD事業実施方針を策定し、FD活動に取り組んでいる。
- ・令和2年3月に「教学マネジメントを支えるFD・SD活動について」を作成し、教学マネジメントを支えるFD・SD活動について、教学・研究・マネジメントの3領域と大学・学位プログラム・授業科目の3つの実施レベルに整理して、体系的かつ組織的に実施することと定めた。
- ・全学FD事業として「新型コロナウイルス感染症拡大に伴うオンライン授業関係FD事業について」、「デジタル教科書体験会について」、「教育DXで必須になる教員のデータ活用能力及びデータ分析カンファレンスについて」を実施したほか、京阪奈三教育大学連携FD交流会、新規採用教員FD研修、教員相互の授業見学等を組織的に実施している。

根拠資料・データ

- ・全学 FD 事業報告書  
(FD 事業への参加率)

平成 29 年度 72.8%, 平成 30 年度 92.0%, 令和元年度 94.2%, 令和 2 年度 96.9% [学部 (各課程・学科)・大学院 (各研究科)]

- ・各組織における FD の取組の内容, 実施方法, 参加状況  
\* 各組織における自己点検・評価結果
- ・望ましい教職員像の定義及び FD・SD を通じた共有の状況  
\* 各組織における自己点検・評価結果

[各授業]

- ・学生による授業評価アンケート結果
  - ・授業評価アンケート (全学 FD 事業報告書 p.137, 138)
  - ・R2 前期授業評価アンケート集計 (全体)
  - ・R2 後期授業評価アンケート集計 (全体)
- ・教員による授業改善の状況
  - ・R2 前期授業改善教員アンケート集計 (全体)
  - ・R2 後期授業改善教員アンケート集計 (全体)
- ・教育支援者及び教育補助者
  - ・教育支援者及び教育補助者の配置
    - ・教務課, 学生支援課, 天王寺地区総務課  
教務関係や厚生補導等を担う職員及び教育活動の支援や補助等を行う職員を配置している。
    - ・学術情報課  
図書館の業務に従事する職員を学術情報課に配置している。
    - ・スチューデント・アシスタントやティーチング・アシスタント  
教育学部の授業科目の一部に配置している。
    - ・ノートテイク等  
教育学部及び教育学研究科の一部に配置している。
    - ・障がい学生修学支援ルーム, 外国語学習支援ルーム, ICT 教育支援ルーム  
学生がスタッフ・支援者として活動している。
  - ・教育支援者及び教育補助者の質の維持・向上
    - ・教員免許勉強会, 支援協力学生養成研修, 図書館等職員著作権実務講習会等を実施し, 必要な質の維持, 向上を図る取組を組織的に実施している。
    - ・TA・SA 制度について, 平成 30 年度に「ティーチング・アシスタント及びスチューデント・アシスタントマニュアル」を作成している。

5. 大学や学部・研究科の使命や目的を実現するため、上記の点検・評価の結果を総合し、また、必要に応じて全学のテーマ別の点検・評価を行うこと等により、大学や学部・研究科の教育研究活動がその使命や目的に照らして適切に行われ、成果を上げていることを検証していること。

(分析根拠)

- ・大学の総合的な状況の検証（全学的な自己点検・評価）

自己点検・評価委員会は、基礎評価における自己点検評価において、教育課程と学修成果の質保証、学生の受入の質保証、施設及び設備の質保証、学生支援の質保証のそれぞれにおいて行われた自己点検・評価結果について各組織より報告を受け、その内容と基礎評価で行った自己点検・評価の結果に基づき、全学の自己点検・評価を行っている。

各課程・学科及び各研究科等の自己点検・評価結果と学位プログラム開発事業実施推進委員会から報告された学位プログラムごとの検証及び評価結果及び具体的な検証内容に基づき、全学的な自己点検・評価を実施している。

- ・「設置計画履行状況報告書」における報告内容

〔学士課程〕教育学部

「教育学部初等教育教員養成課程及び教育協働学科(平成 29 年度設置)

設置計画履行状況報告書（令和 2 年度）」 p.56

[https://osaka-](https://osaka-kyoiku.ac.jp/Portals/0/resources/_file/kikaku/houteikokai/riko2005.pdf)

[kyoiku.ac.jp/Portals/0/resources/\\_file/kikaku/houteikokai/riko2005.pdf](https://osaka-kyoiku.ac.jp/Portals/0/resources/_file/kikaku/houteikokai/riko2005.pdf)

#### (4) 自己点検・評価等に関する事項

##### ① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

設置計画どおりに順調に推移している。

##### ② 自己点検・評価報告書

###### a 公表（予定）時期

・令和 3 年 1 月 31 日 公表

###### b 公表方法

- ・自己点検・評価報告書を作成し、教職員共通ポータルサイトに掲載
- ・大学ホームページ上に公開予定（令和 3 年 1 月末を予定）

##### ③ 認証評価を受ける計画

- ・令和 2 年度に評価機関（独立行政法人大学改革支援・学位授与機構）の評価を受審

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

- ・〔修士課程〕大学院教育学研究科
- ・大学院教育学研究科高度教育支援開発専攻(令和3年度設置)  
〔設置計画に係る申請書〕趣旨等を記載した書類「13 自己点検・評価」p.29  
[https://osaka-kyoiku.ac.jp/Portals/0/resources/\\_file/kikaku/houteikokai/osakakyoiku\\_2104i\\_syushi.pdf](https://osaka-kyoiku.ac.jp/Portals/0/resources/_file/kikaku/houteikokai/osakakyoiku_2104i_syushi.pdf)

### 13 自己点検・評価

本学の自己点検・評価に関わる組織としては、国立大学法人大阪教育大学の下の運営機構室の一つとして「評価室」を設置しており、自己点検・評価や認証評価及び法人評価に関する事項を任務としている。また、教育、研究及び社会貢献等の諸活動に関する質の向上・改善を図るため、本学は「自己点検・評価委員会」を設置しており、評価室で策定された自己点検・評価に関わる基本方針に基づいて、講座・専攻において自己点検・評価の実施や改善事項の提案などを行っている。本研究科においても、この仕組みに基づいて毎年自己点検・評価を実施する。

- ・〔専門職学位課程〕大学院連合教職実践研究科
- ・大学院連合教職実践研究科高度教職開発専攻(令和元年度設置)  
設置計画履行状況報告書（令和2年度）「7 その他全般的事項」p.67  
[https://osaka-kyoiku.ac.jp/Portals/0/resources/\\_file/kikaku/houteikokai/riko202005.pdf](https://osaka-kyoiku.ac.jp/Portals/0/resources/_file/kikaku/houteikokai/riko202005.pdf)

#### （4）自己点検・評価等に関する事項

##### ① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

設置計画どおりに順調に推移している。

##### ② 自己点検・評価報告書

###### a 公表（予定）時期

・令和3年1月31日 公表

###### b 公表方法

- ・自己点検・評価報告書を作成し、教職員共通ポータルサイトに掲載
- ・大学ホームページ上に公開予定（令和3年1月末を予定）

##### ③ 認証評価を受ける計画

- ・令和2年度に評価機関（独立行政法人大学改革支援・学位授与機構）の評価を受審

（注）・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

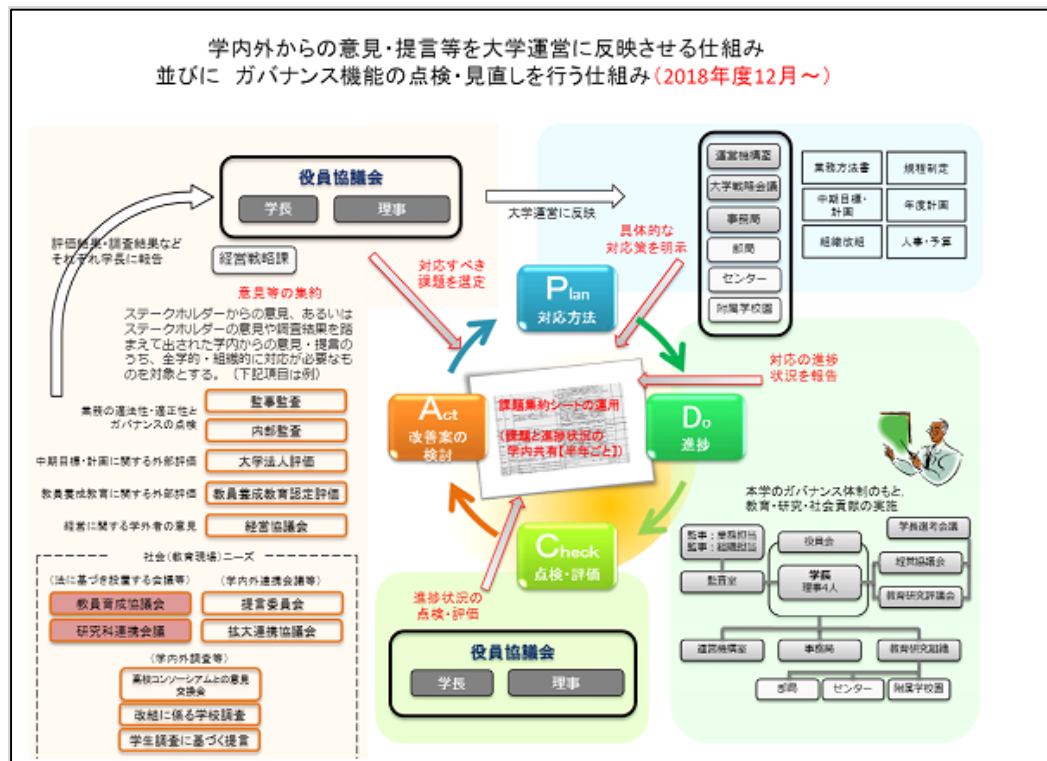
また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

6. 外部の利害関係者の意見を反映する体制を有していること。

(分析根拠)

・「学内外からの意見・提言等を大学運営に反映させる仕組み」を構築し、学内外からの意見を反映させる体制を有している。進捗達成状況は、理事が各取組の状況を確認している。



**観点3) 成果からみて、内部質保証の仕組は有効に機能しているか。**

**1. 自己点検・評価等の結果に基づき、継続的な改善に取り組まれていること。**

(分析根拠)

- ・学長からの指示に基づき、理事、副学長、各組織の長が責任者となって、改善に取り組んでいる。自己点検・評価委員会は内部質保証シートを用いて、定期的（1年に1度）、改善の取り組みの進捗達成状況を確認している。
- ・内部質保証シートにある改善を要する事項について、ほぼすべての事項について、計画が策定され、改善に取り組まれている、または、改善済となっている。  
(対応済 17 件、対応中 66 件、未対応 0 件) ※初等と教職大学院は除く

**・教育学部の質保証**

- ・各課程・学科の自己点検・評価結果が、継続的な改善事項  
各組織の内部質保証シート（自己点検・評価結果に基づく改善事項）
  - ・初等教育養成課程
  - ・学校教育養成課程
  - ・教育協働学科

**・大学院の質保証**

- ・各課程・学科の自己点検・評価結果が、継続的な改善事項  
各組織の内部質保証シート（自己点検・評価結果に基づく改善事項）
  - ・大学院教育学研究科
  - ・大学院連合教職実践研究科

**・学位プログラムごとの検証及び評価結果及び具体的な検証に基づく改善事項**

- ・内部質保証シート

**・学生の受入における入試選抜の在り方**

- ・令和2年度に係る業務実績に係る報告書 p.5
- ・年度計画進捗達成状況シート（計画番号 24）

**2. 学内外から意見・提言を大学運営の見直しに反映させる仕組みが機能し、改善に取り組まれていること。**

(分析根拠)

- ・課題集約シートにおける進捗達成状況については、課題に対する計画が策定され、計画が実施されていると評価されている。

**根拠資料・データ**

- ・課題集約シート

## 3. 信頼のおける第三者評価等の結果からみて、内部質保証が有効に機能していること。

(分析根拠)

- ・ 認証評価

認証評価について、令和2年度に受審した大学機関別認証評価において、内部質保証が有効に機能している、と評価された。

- ・ 大学機関別認証評価令和2年度認証評価結果 評価報告書

[https://osaka-kyoiku.ac.jp/Portals/0/resources/\\_file/kikaku/hyoka/ninsyokekka\\_r2.pdf](https://osaka-kyoiku.ac.jp/Portals/0/resources/_file/kikaku/hyoka/ninsyokekka_r2.pdf)

- ・ 国立大学法人評価

国立大学法人評価において改善を要する点はなかった。

- ・ 国立大学法人評価 評価結果

(URL: [https://osaka-kyoiku.ac.jp/Portals/0/resources/\\_file/kikaku/hyoka/chuki3hyoukakekka.pdf](https://osaka-kyoiku.ac.jp/Portals/0/resources/_file/kikaku/hyoka/chuki3hyoukakekka.pdf))

- ・ 設置計画履行状況調査等

設置計画履行状況調査等において指摘事項はなかった。

## 第2「施設及び設備（学習環境）並びに学生支援」

観点1）教育研究に必要な施設・設備等の学修教育基盤が整備され、有効に活用されているか。

1. 大学設置基準で定められた校地・校舎面積以上を確保していること。

（分析根拠）

- ・校地面積 計 336,884 m<sup>2</sup>（＊令和2年5月時点）
- ・校舎面積 計 78,470 m<sup>2</sup>（＊令和2年5月時点）

根拠資料・データ

- ・認証評価共通基礎データ様式

2. 夜間の授業又は2以上のキャンパスでの教育の実施における配慮が、適切に行われていること。

（分析根拠）

- ・キャンパス間の移動を伴う履修における配慮

キャンパスの設置場所は次のとおりである。

- ・柏原キャンパス：大阪府柏原市
- ・天王寺キャンパス：大阪市天王寺地区

移動時間として1時間以上の空き時間を設ける等、時間割編成上の配慮を行っている。

- ・講義室、演習室、体育館、附属図書館等の利用可能時間における配慮

初等教育教員養成課程小学校教育専攻夜間コース（5年課程）の夜間の授業が行われる天王寺キャンパスでは、講義室、演習室、体育館、附属図書館等の利用が夜間まで利用可能としている。

根拠資料・データ

- ・大学 web ページ

「教育情報の公表(学校教育法施行規則第172条の2に基づく情報公開)」

[https://osaka-kyoiku.ac.jp/university/joho/houtei/disclosure/gakkokyoiku172\\_2.html](https://osaka-kyoiku.ac.jp/university/joho/houtei/disclosure/gakkokyoiku172_2.html)

「校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること」

- ・キャンパスの概要（土地建物面積）

<https://osaka-kyoiku.ac.jp/university/data/grand.html>

- ・体育施設の概要

<https://osaka-kyoiku.ac.jp/university/sisetsu/taiikusisetsu.html>

- ・課外活動共同利用施設

<https://osaka-kyoiku.ac.jp/campus/club/kagaisisetsu.html>

- ・福利厚生施設

<https://osaka-kyoiku.ac.jp/university/sisetsu/welfare.html>

- ・交通案内

[https://osaka-kyoiku.ac.jp/access\\_map.html](https://osaka-kyoiku.ac.jp/access_map.html)



## 3. 教員養成に関する学部に必要な組織を設置していること。

(分析根拠)

大学設置基準に定める、教育学部の教育研究に必要な組織として、附属幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校を設置している。

- ・設置している附属学校園

- ・天王寺地区

附属天王寺小学校、附属天王寺中学校、附属高等学校 天王寺校舎

- ・池田地区

附属池田小学校、附属池田中学校、附属高等学校 池田校舎

- ・平野地区

附属幼稚園、附属平野小学校、附属平野中学校、附属高等学校 平野校舎、  
附属特別支援学校

根拠資料・データ

- ・大学 Web ページ「附属学校園」

<https://osaka-kyoiku.ac.jp/school/index.html>

## 4. 安心して学ぶことができる環境を整備し、配慮していること。

(分析根拠)

安全・安心で質の高い学校施設の整備に取り組んでいる。

- ・施設・設備の耐震化率：100%

- ・バリアフリー化：エレベーター、スロープ、自動扉の設置 等

- ・安全・防犯面での配慮

外灯及び防犯カメラを設置し、危険個所の周知をおこなっている。

## 5. 教育研究に必要な ICT 環境が整備され、有効に活用されていること。

(分析根拠)

教育研究に必要な ICT 環境が整備され、有効に活用されている。

- ・情報基盤センターが無線学内 LAN システムを管理

- ・全ての講義室に無線 LAN のアクセスポイントを設置

- ・授業管理システム Moodle を導入

- ・大学の ICT 教育全般の技術的なサポートを目的とする ICT 教育支援ルームを設置

根拠資料・データ

- ・令和元年度学術情報基盤実態調査（コンピュータ及びネットワーク編）

- ・【学部（各課程・学科）・大学院（各研究科）】＊教育組織（部門）の自己点検・評価結果

6. 附属図書館は、適切な規模を有し、教育研究に関わる学術情報の体系的な収集、蓄積、提供を行っており、有効に活用されていること。

(分析根拠)

- ・延べ面積：83,335 m<sup>2</sup>（令和2年5月1日時点）
- ・閲覧座席数：855 席（令和2年5月1日時点）
- ・蔵書数（令和2年5月1日時点）  
図書 916,959 冊，学術雑誌 22,586 種（うち電子ジャーナル 3,856 種）
- ・利用状況
  - ・大阪教育大学附属図書館年次報告 令和2年度（令和3年7月，編集 大阪教育大学学術部学術情報課）参照
- ・学生からの意見聴取の結果（学生生活実態調査「7 施設・環境について」）
  - ・令和元年度の学生生活実態調査において、「Q49 急な休講や時間割の空き時間はどこで過ごしていることが多いですか」という質問において，最も多かった答えが図書館である。
  - ・平成28年度調査の回答比率は 66.9%。令和元年度調査の回答比率は 68.3%。比較すると，1.4%増となっている。

#### 根拠資料・データ

- ・国立大学法人大阪教育大学附属図書館図書収集指針
- ・認証評価共通基礎データ様式
- ・大阪教育大学附属図書館年次報告 令和2年度（令和3年7月，編集 大阪教育大学学術部学術情報課）[https://www.lib.osaka-kyoiku.ac.jp/?page\\_id=222](https://www.lib.osaka-kyoiku.ac.jp/?page_id=222)
- ・令和元年度学術情報基盤実態調査（大学図書館編）
- ・学生生活実態調査「7 施設・環境について」  
[https://osaka-kyoiku.ac.jp/Portals/0/images/university/other/survey/07\\_shisetsu.pdf](https://osaka-kyoiku.ac.jp/Portals/0/images/university/other/survey/07_shisetsu.pdf)

7. 自主的学習環境を整備し，有効に活用されていること。

(分析根拠)

- ・自主学習環境を整備し，有効に活用されている。
- ・附属図書館にラーニングコモンズやグループ学習室を設けており，有効に活用されている。ただし，新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から，一部利用停止の措置をとっているものもある。

#### 根拠資料・データ

大阪教育大学附属図書館年次報告 令和2年度（令和3年7月，編集 大阪教育大学学術部学術情報課）p.7

観点2) 学生への学習面や生活面での支援が適切に行われているか。

1. 指導教員による学生への指導・助言が、適切に行われていること。

(分析根拠)

- ・学部（課程・学科）の自己点検・評価結果（指導教員による学部学生への指導・助言の状況）

2. 附属図書館において、学生のニーズに応える学習支援が行われていること。

(分析根拠)

- ・附属図書館における自己点検・評価結果
- ・学習支援の実施状況
- ・学生の意見聴取の結果

根拠資料・データ

- 根拠資料・データ・大阪教育大学附属図書館年次報告 令和元年度（令和2年9月，編集 大阪教育大学学術部学術情報課）
- ・学生へのアンケート（新入生アンケート，在学生アンケート，卒業時アンケート）に項目を定め，学生の意見聴取の機会を設けている。

3. 学生への進路支援，生活支援，課外活動の支援などが適切に行われていること。

(分析根拠)

- ・【学部（各課程・学科）・大学院（各研究科）】の自己点検・評価結果
- ・教育組織（部門）の自己点検・評価結果
  - ・学生の教職への意欲や適性の把握状況や取組事例
  - ・履修指導やキャリア支援等の指導・助言の実施状況とその適切性
  - ・学修ポートフォリオ活用状況とその適切性
- ・全学センター統括機構・教育研究施設における自己点検・評価
  - ・教育研究施設等（各センター）における支援
  - ・心身の健康に係る支援
    - ・保健センター
    - ・修学支援センター（カウンセリングルーム）
  - ・就職・進路に係る支援・相談
    - ・キャリア支援センター
  - ・留学生への生活支援等
    - ・グローバルセンター
  - ・障がいのある学生への生活支援等
    - ・修学支援センター（障がい学生修学支援ルーム）

## 根拠資料・データ

- ・全学センター統括機構・教育研究施設における自己点検・評価結果
  - ・グローバルセンター年報 <https://ger.osaka-kyoiku.ac.jp/annual-report/>
  - ・保健センターの利用状況（会議資料があれば）  
保健センター年報  
[https://osaka-kyoiku.ac.jp/university/center/library\\_center/hoken/](https://osaka-kyoiku.ac.jp/university/center/library_center/hoken/) p.34
  - ・カウンセリングルーム利用状況（会議資料があれば）

## ・参考（令和2年8月、大学機関別認証評価自己評価書及び別紙様式を参考に作成）

## ・学生の生活、健康、就職等進路に関する相談・助言体制

学生の生活、健康、就職等進路に関する相談・助言体制として、学生なんでも相談窓口、保健センター、カウンセリングルーム及びキャリア支援センターを設置している。各種ハラスメントに関しては、人権侵害防止等に関する規程に基づき、人権委員会の下に人権相談員を置いている。人権相談員は、人権侵害について相談があった事実、相談者の意向等について記録に残し、適宜、概要を人権委員会に報告するものとし、ハラスメント等に関する相談に対応している。

## ・相談・助言体制等一覧（相談実績：令和元年度）

| 機能            | 組織の名称      | 根拠規定                | 配置人員 | 支援の内容                | 相談実績  |
|---------------|------------|---------------------|------|----------------------|-------|
| 総合的相談         | 学生なんでも相談窓口 | 学生相談専門委員会要項         | 13人  | 学生相談※その他電話による相談多数    | 21件   |
| 身体的健康に係る支援・相談 | 保健センター     | 保健センター規程            | 6人   | 健康相談・応急処置            | 1859件 |
| 精神的健康に係る支援・相談 | 保健センター     | 保健センター規程            | 6人   | 健康相談・医療機関紹介          | 167件  |
|               | カウンセリングルーム | 修学支援センター規程          | 3人   | 学生相談・カウンセリング         | 851件  |
| 就職・進路に係る支援・相談 | キャリア支援センター | キャリア支援センター規程        | 7人   | 就職相談                 | 8517件 |
| 各種ハラスメントに係る防止 | 人権委員会      | 大阪教育大学人権侵害防止等に関する規程 |      | 人権侵害防止等に関するガイドラインの公表 |       |
| 各種ハラスメントに係る相談 | 人権相談員      | 大阪教育大学人権侵害防止等に関する規程 | 24人  | 個別相談の実施              | 3件    |

※大学機関別認証評価「・相談・助言体制等一覧（別紙様式4・2・1）に基づき作成

・留学生への生活支援等

留学生オリエンテーションを実施し、グローバルセンター留学生教育部門の担当教員配置、及び、指導教員による指導、留学生チューターを配置するほか、留学生用宿舎にレジデント・アシスタントを配置するなど、留学生の個々のニーズに応じた、きめ細やかなサポートを行っている。

・留学生への生活支援の内容及び実施体制

| 生活支援の内容           |                                   | 担当する組織名称  |
|-------------------|-----------------------------------|-----------|
| 留学生オリエンテーション      | 授業から留学生活に関するルール等を説明               | グローバルセンター |
| 留学生チューター          | 専門分野の勉強・研究や日常生活に関する支援             | グローバルセンター |
| 奨学金               | 本学独自の給付型奨学金やその他の団体奨学金の候補者を選考・推薦   | グローバルセンター |
| 留学生用宿舎            | キャンパス内とキャンパス外に留学生用の宿舎を設置          | グローバルセンター |
| レジデント・アシスタント (RA) | 留学生用宿舎に日本人学生がRAとして入居し、留学生の日常生活を支援 | グローバルセンター |

※大学機関別認証評価「・留学生への生活支援の内容及び実施体制（別紙様式4-2-3）」に基づき作成

・障がいのある学生への生活支援等

「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」第9条第1項の規定に基づき、障がい者を理由とする差別の解消の推進に関する教職員対応要領を定め、修学支援センターが学生との面談を実施し、指導教員等への配慮依頼や情報提供を行うほか、聴覚障害のある学生への情報保障を行っている。

・障がいのある学生等に対する生活支援の内容及び実施体制

| 生活支援の内容   |                                       | 担当する組織名称 |
|-----------|---------------------------------------|----------|
| 正課活動（授業等） | 聴覚障がい学生への情報保障                         | 修学支援センター |
| 正課活動（授業等） | 正課活動（授業等）学生との面談後に実施する指導教員等への配慮依頼や情報提供 | 修学支援センター |

※大学機関別認証評価「障害のある学生等に対する生活支援の内容及び実施体制（別紙様式4-2-4）」に基づき作成

4. 学生の意見や要望を聴取し、その結果に基づく改善に取り組んでいること。

(分析根拠)

・ 学生生活実態調査

<https://osaka-kyoiku.ac.jp/campus/gakusei/campuslife.html>

学生生活実態調査 p.2

1 調査の目的

本学学生の生活実態を把握するとともに、本学に対する意見や要望等を聴取し、今後の学生生活や修学環境の改善を図っていくための基礎資料を得ることを目的とする。

2 調査項目

「基本事項」「課外活動について」「経済状況等について」「アルバイト（家庭教師を含む。）について」「健康・相談について」「国際交流について」「施設・環境について」「安全について」「学務関係事項について」「大学への要望・意見など」全部で61問。

3 学生の要望による主な改善内容（平成28年度以降）

平成28年度

- ・ 課外教育施設「遠見山の家」の整備，車いす対応公用車の購入，神霜祭等屋外イベント支援のための設備整備，学生支援用掲示板等の整備

平成29年度

- ・ キャリア支援センターの改修

【教育振興会】教採地方2次受験助成制度の新設

平成30年度

- ・ サークル等エアコン設置等内装工事

令和元年度

- ・ 柏原キャンパス体育館整備

・ 改善・サポートのための学習・生活調査

<https://osaka-kyoiku.ac.jp/faculty/class/online.html>

### 第3「学生の受入」

#### 観点1) 学生の受け入れが適切か。

1. 学生受入方針（アドミッション・ポリシー）において、求める学生像、入学者選抜の基本方針が明確に定められていること。

- ・学生受入方針（アドミッション・ポリシー）に、求める学生像が明確に定められていること。
- ・学生受入方針（アドミッション・ポリシー）に、入学者選抜の基本方針が明確に定められていること。
- ・学生受入方針（アドミッション・ポリシー）を学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程方針（カリキュラム・ポリシー）との整合性に留意しつつ明確に定めていること。

（分析根拠）

- ・大学 Web ページ公表内容
- ・アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）  
大学 Web ページ：  
[https://osaka-kyoiku.ac.jp/admission/admission\\_policy/](https://osaka-kyoiku.ac.jp/admission/admission_policy/)
- ・大学案内 2021  
大学 web ページ：  
<https://osaka-kyoiku.ac.jp/university/kikaku/relation/guide.html>
- ・入学試験情報  
大学 web ページ  
<https://osaka-kyoiku.ac.jp/admission/index.html>

2. 学生の受入が適切な体制の下、学生受入方針に沿った方法に基づいて、適切かつ公正な方法により行われていること。

（分析根拠）

\* 各段階（※）の公正確保をチェックした資料を確認する。

※『大学入学者選抜の公正確保等に向けた方策について（最終報告）（令和元年5月31日、大学入学者選抜の公正確保等に関する有識者会議）において、次の6つの段階の公正確保のチェックが求められている。

- ・学生募集における公正確保
- ・出願手続における公正確保
- ・個別学力検査における公正確保
- ・小論文、面接、実技検査等における公正確保
- ・合否判定における公正確保
- ・合格発表、繰上合格、成績開示等における公正確保

3. 大学の教育体制が、教育の効果を担保する観点から収容定員に応じて整備されることに鑑み、特に入学定員に対する実入学者数が適正な数となっていること。

(分析根拠)

・入学定員充足率

| 学部の学科，研究科の専攻等名     | 収容定員  | 収容数   | 定員充足率       |
|--------------------|-------|-------|-------------|
|                    | (a)   | (b)   | (b)/(a)×100 |
|                    | (人)   | (人)   | (%)         |
| 教育学部               |       |       |             |
| 初等教育教員養成課程【昼間】     | 240   | 242   | 100.8       |
| 初等教育教員養成課程【夜間】     | 160   | 163   | 101.8       |
| 初等教育教員養成課程【夜間】     | 50    | 48    | 96.0        |
| (3年次編入)            |       |       |             |
| 学校教育教員養成課程         | 1,680 | 1,729 | 102.9       |
| 養護教諭養成課程           | 120   | 117   | 97.5        |
| 教育協働学科             | 1,400 | 1,409 | 100.6       |
| 第二部小学校教員養成課程※1     | 40    | 45    | 112.5       |
| 第二部小学校教員養成課程※2     | 50    | 45    | 90.0        |
| (3年次編入)            |       |       |             |
| 学士課程 計             | 3,740 | 3,798 | 101.5       |
| 教育学研究科（修士課程）       |       |       |             |
| 健康科学専攻【夜間】         | 42    | 57    | 135.7       |
| 総合基礎科学専攻           | 32    | 21    | 65.6        |
| 国際文化専攻             | 24    | 23    | 95.8        |
| 芸術文化専攻             | 24    | 27    | 112.5       |
| 修士課程 計             | 122   | 128   | 104.9       |
| 連合教職実践研究科（専門職学位課程） |       |       |             |
| 高度教職開発専攻           | 300   | 218   | 72.6        |
| 専門職学位課程 計          | 300   | 218   | 72.6        |
| 特別支援教育特別専攻科        | 30    | 24    | 80.0        |

・実入学者数

根拠資料・データ

・認証評価共通基礎データ様式【大学用】様式2（令和3年5月1日現在）



## 第4「教育課程と学習成果」

(独立行政法人大学改革支援・学位授与機構の評価基準ごとの判断の指針より準用)

(1) 3つのポリシーに基づく点検・評価

**観点1) 学位授与の方針，教育課程方針，学生受入方針が整合性，一貫性を持って定められており，学位授与方針において，学生が身に付けるべき資質・能力の目標を具体的かつ明確に示しているか。**

(分析根拠)

- ・ 3つのポリシー (<https://osaka-kyoiku.ac.jp/faculty/policy/policy.html>)
- ・ 学位プログラムと学修成果評価システム  
([https://osaka-kyoiku.ac.jp/faculty/policy/gakui\\_program.html](https://osaka-kyoiku.ac.jp/faculty/policy/gakui_program.html))
- ・ 初等教育教員養成課程 (3つのポリシー)  
(<https://osaka-kyoiku.ac.jp/faculty/policy/syoto.html>)
- ・ 学校教育教員養成課程 (3つのポリシー)  
(<https://osaka-kyoiku.ac.jp/faculty/policy/gakko.html>)
- ・ 養護教諭養成課程 (3つのポリシー)  
(<https://osaka-kyoiku.ac.jp/faculty/policy/yogo.html>)
- ・ 教育協働学科 (3つのポリシー)  
(<https://osaka-kyoiku.ac.jp/faculty/policy/kyodo.html>)
- ・ 教育学研究科 (3つのポリシー)  
(<https://osaka-kyoiku.ac.jp/faculty/policy/daigakuin3.html>)
- ・ 連合教職実践研究科 (3つのポリシー)  
(<https://osaka-kyoiku.ac.jp/faculty/policy/daigakuin2.html>)

**観点2) 教育課程方針において，教育課程の編成の方針，当該教育課程における学習方法，学習過程，学習成果の評価の方針を具体的に示しているか。**

(分析根拠)

- ・ 初等教育教員養成課程 (3つのポリシー)  
(<https://osaka-kyoiku.ac.jp/faculty/policy/syoto.html>)
- ・ 学校教育教員養成課程 (3つのポリシー)  
(<https://osaka-kyoiku.ac.jp/faculty/policy/gakko.html>)
- ・ 養護教諭養成課程 (3つのポリシー)  
(<https://osaka-kyoiku.ac.jp/faculty/policy/yogo.html>)
- ・ 教育協働学科 (3つのポリシー)  
(<https://osaka-kyoiku.ac.jp/faculty/policy/kyodo.html>)
- ・ 教育学研究科 (3つのポリシー)  
(<https://osaka-kyoiku.ac.jp/faculty/policy/daigakuin3.html>)

- ・ 連合教職実践研究科（三つのポリシー）  
(<https://osaka-kyoiku.ac.jp/faculty/policy/daigakuin2.html>)
- ・ 電子シラバスデータ（R2 年度公開）
- ・ 電子シラバスデータ（R3 年度公開）

観点 3）教育課程の編成及び授業科目の内容が、学位授与方針及び教育課程方針に則し、授与される学位に付記する分野と整合的であるとともに体系的であり、かつ相応しい水準であるか。また、大学院修士課程に関しては研究指導に係る指導体制、専門職学位課程（教職大学院）においては、学校教育に関する理論と実践との融合を意識した指導を行うための体制が適切か。

（分析根拠）

- ・ 電子シラバスデータ（再掲）
- ・ 科目番号制（ナンバリング）の概要について
- ・ カリキュラムマップ  
(<https://osaka-kyoiku.ac.jp/faculty/class/curriculum/map31.html> )

観点 4）適切な授業形態、学習指導の方法が採用されていることについて、主としてシラバスの記載内容、履修登録科目に関する単位の上限の設定（CAP 制）等について、適切であるか

（分析根拠）

- ・ 電子シラバスデータ
- ・ 学年暦  
<https://osaka-kyoiku.ac.jp/Portals/0/files/campus/calender/gyoji/r3gakunenreki.pdf>
- ・ R 2 前期授業評価結果アンケート集計（全体）
- ・ R 2 後期授業評価結果アンケート集計（全体）
- ・ R2 前期授業改善教員アンケート集計（全体）
- ・ R2 後期授業改善教員アンケート集計（全体）
- ・ 履修便覧

観点 5）学位授与方針を参照しつつガイダンスが実施され、学生のニーズに則した履修指導や学習相談の体制が整備されているか。また、特別な支援を行うことが必要と考えられる学生を受け入れている場合の学習支援の実施状況が適切か。

（分析根拠）

- ・ 履修便覧
- ・ 授業評価アンケート
- ・ 授業改善教員アンケート
- ・ ディプロマポリシーへの達成状況
- ・ 電子ポートフォリオ利用状況（2017-19 入学生）・令和 2 年度機関別認証評価資料

観点 6) 教育課程方針に基づいて、成績評価基準を学生に周知しており、その基準に従って成績評価、単位認定を実施しているか、さらに、厳格かつ客観的な成績評価を実施するため、成績評価の適切性の確認や異議申し立ての仕組みを組織的に設けているか。

(分析根拠)

- ・電子シラバスデータ
- ・履修便覧
- ・R2 前期成績分布表
- ・2020 年度 GPA 値分析表 (課程・学科別)

観点 7) 学位授与方針に則して卒業又は修了の要件が策定され、評価の基準が明確であり、それらが学生に周知され、卒業又は修了の認定が適切に行われているか。

(分析根拠)

- ・履修便覧

観点 8) 卒業又は修了時の状況、並びに卒業又は修了後一定期間経過後における関係者への調査の状況など、学習成果の状況を把握する取組の結果に基づき、学位授与方針に明示する学習成果が上がっているか。

(分析根拠)

- ・ディプロマポリシーへの達成状況\_202103
- ・授業評価アンケート
- ・授業改善教員アンケート
- ・電子ポートフォリオ利用状況
- ・学籍異動データ (2016～2020)
- ・令和 2 年度卒業者・修了者教員免許状取得状況
- ・卒業時調査 2020\_教育学部\_集計 202103
- ・学校へのアンケート 202103
- ・企業・団体へのアンケート 202103

学部 (課程・学科)、大学院 (研究科) & 学位プログラム開発事業推進委員会の点検や検証・評価結果及びデータ・情報をもとに点検・評価を行う。

\* 参考

- ・令和 2 年度大学機関別認証評価の評価結果では全ての基準を満たしていると評価された。ただし、卒業生が輩出されていなかったため、「観点 8」は学生募集停止した教育課程における状況について自己評価を行った。
- ・教育学部初等教育教員養成課程・教育協働学科、大学院連合教職実践研究科は、設置計画履行状況調査等において、計画についての確認を受けている。
- ・大学院教育学研究科は、令和 3 年度募集開始した、新教育課程 (1 専攻) については、設置認可を受ける際に設置計画の承認を受けている。

(2) 教養教育ポリシーに基づく点検・評価

観点1) 大学全体の教員養成及び教育・学習支援人材養成の機能の充実・強化を支えるため、グローバル化に対応した教養教育の質的充実を図っているか。

1. グローバル化に対応した教養教育の質的充実を図っていること。

(分析根拠)

・令和2事業年度に係る業務の実績に関する報告書

【抜粋】

p.4「○教養教育の質的充実」

『数理データサイエンス教育を全学部生に展開することを盛り込んだ「令和3年度 of 教育課程編成と実施に関する基本方針」を令和2年7月に開催された教育研究評議会の議を経て策定した。

このことへの教養教育に係る具体化として、「数理データサイエンス」と「STEAM教育」について、取り上げることとしており、本学基幹教育推進機構会議の下に教養教育専門部会を設置し、STEAM教育及び数理データサイエンス教育の企画立案を行い、「課題探究型STEAM教育」、「データサイエンス教育入門」及び「AIとデータサイエンス教育」としてまとめ、教育研究評議会（令和2年10月開催）の議を経て大学として機関決定した。

また、STEAM教育については、小・中学校学習指導要領における現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を育成することを目的として、副専攻制度の下、能動的学修の手法を取り入れた教科横断型教育プログラムとして発展させることの検討を行っている。』

## 第5「その他 教育活動」

観点1) 各センターは、その設置目的に照らして、求められる教育活動を行っているか。

1. 各センターの教育活動の実施状況から判断して、学生のニーズに応じた教育活動・修学支援を行っていること。

(分析根拠)

- ・全学センター統括機構（教育研究施設における諸活動）の自己点検・評価結果
- ・各センターの年報等
  - ・学校安全推進センター紀要

(URL) <http://ncssp.osaka-kyoiku.ac.jp/mental/wp-content/uploads/2021/04/kiyu.pdf>

- ・保健センター年報

(URL) [https://osaka-kyoiku.ac.jp/university/center/library\\_center/hoken/](https://osaka-kyoiku.ac.jp/university/center/library_center/hoken/)

- ・グローバルセンター年報

(URL) <https://ger.osaka-kyoiku.ac.jp/annual-report/>

観点2) 附属学校園が、大学の教育研究・教育実習等の場として求められる役割を果たしているか。

1. 附属学校園が、大学の教育研究・教育実習等の場として求められる役割を果たしていること。

(分析根拠)

- ・附属学校統括機構の自己点検・評価結果

## 第6「研究活動」

観点1) 大学の目的に照らして、研究活動を実施するために必要な体制が適切に整備され、機能しているか。

## 1. 研究の実施体制及び支援・推進体制が適切に整備され、機能していること。

(分析根拠)

・教職員等の人数

大学 web ページ <https://osaka-kyoiku.ac.jp/university/data/staff.html>

## ◎大学教員

| 担当部局      | 教授     |    | 准教授 |    | 講師 |   | 助教 |   | 計      |    |        |
|-----------|--------|----|-----|----|----|---|----|---|--------|----|--------|
|           | 男      | 女  | 男   | 女  | 男  | 女 | 男  | 女 | 男      | 女  | 計      |
| 初等教育課程    | 10     | 2  | 5   | 4  | 1  | 1 |    |   | 16     | 7  | 23     |
| 教員養成課程    | 57     | 14 | 31  | 17 | 10 | 3 |    |   | 98     | 34 | 132    |
| 教育協働学科    | 36     | 10 | 18  | 10 | 2  | 2 | 2  |   | 58     | 22 | 80     |
| 連合教職実践研究科 | 12(2)  | 8  | 2   | 1  |    | 1 |    |   | 14(2)  | 10 | 24(2)  |
| 合計        | 115(2) | 34 | 56  | 32 | 13 | 7 | 2  |   | 186(2) | 73 | 259(2) |

| 所属      | 教授     |    | 准教授 |    | 講師 |   | 助教 |   | 計      |    |        |
|---------|--------|----|-----|----|----|---|----|---|--------|----|--------|
|         | 男      | 女  | 男   | 女  | 男  | 女 | 男  | 女 | 男      | 女  | 計      |
| 高度教職開発系 | 12(2)  | 8  | 2   | 1  |    | 1 |    |   | 14(2)  | 10 | 24(2)  |
| 総合教育系   | 24     | 2  | 13  | 7  | 5  |   |    |   | 42     | 9  | 51     |
| 多文化教育系  | 28     | 9  | 9   | 6  | 3  | 2 |    |   | 40     | 17 | 57     |
| 健康安全教育系 | 5      | 6  | 5   | 6  |    | 1 |    |   | 10     | 13 | 23     |
| 理数情報教育系 | 30     | 5  | 16  | 3  | 2  | 1 | 1  |   | 49     | 9  | 58     |
| 表現活動教育系 | 16     | 4  | 11  | 9  | 3  | 2 | 1  |   | 31     | 15 | 46     |
| 合計      | 115(2) | 34 | 56  | 32 | 13 | 7 | 2  |   | 186(2) | 73 | 259(2) |

※( )内は大学院連合教職実践研究科の構成大学からの出向教員数で外数

副学長を兼務する教授を含む。

教員養成課程と教育協働学科の講師には、それぞれ外国人教師1名を含む。

育児休業の者を含む。

| うち外国籍(大学教員) | 教授 |   | 准教授 |   | 講師 |   | 助教 |   | 計 |   |   |
|-------------|----|---|-----|---|----|---|----|---|---|---|---|
|             | 男  | 女 | 男   | 女 | 男  | 女 | 男  | 女 | 男 | 女 | 計 |
|             | 1  |   | 2   | 1 | 3  |   |    |   | 6 | 1 | 7 |

## ◎非常勤講師

|           | 男   | 女  | 計   |
|-----------|-----|----|-----|
| 教員からの兼務   | 54  | 31 | 85  |
| 教員以外からの兼務 | 86  | 57 | 143 |
| 合計        | 140 | 88 | 228 |

| うち外国籍(非常勤講師) | 男 | 女 | 計  |
|--------------|---|---|----|
|              | 9 | 4 | 13 |

## ◎附属学校教員

| 所属          | 男   | 女   | 計   |
|-------------|-----|-----|-----|
| 附属天王寺小学校    | 18  | 8   | 26  |
| 附属池田小学校     | 17  | 11  | 28  |
| 附属平野小学校     | 14  | 11  | 25  |
| 附属天王寺中学校    | 14  | 7   | 21  |
| 附属池田中学校     | 11  | 11  | 22  |
| 附属平野中学校     | 11  | 9   | 20  |
| 附属高等学校天王寺校舎 | 20  | 11  | 31  |
| 附属高等学校池田校舎  | 18  | 11  | 29  |
| 附属高等学校平野校舎  | 19  | 5   | 24  |
| 附属特別支援学校    | 14  | 16  | 30  |
| 附属幼稚園       |     | 10  | 10  |
| 合計          | 156 | 110 | 266 |

※休職・育児休業の者を含む。

## ◎事務系職員

| 所属    | 男  | 女  | 計   |
|-------|----|----|-----|
| 事務系   | 91 | 72 | 163 |
| 技術技能系 | 6  | 1  | 7   |
| 医療系   | 0  | 3  | 3   |
| その他   | 1  | 1  | 2   |
| 合計    | 98 | 77 | 175 |

※育児休業の者を含む。

・研究支援員

平成30年度（0名）      令和元年度（1名）      令和2年度（2名）

・本務教員の年齢構成

◎大学教員年齢構成

人数は令和2年5月1日現在

| 区分 | 職位  | 26～<br>30 | 31～<br>35 | 36～<br>40 | 41～<br>45 | 46～<br>50 | 51～<br>55 | 56～<br>60 | 61～<br>65 | 66～ | 合計  |
|----|-----|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----|-----|
| 男  | 教授  |           |           |           |           | 1         | 21        | 34        | 41        | 20  | 117 |
|    | 准教授 |           | 2         | 4         | 12        | 17        | 8         | 8         | 3         | 2   | 56  |
|    | 講師  | 1         | 4         | 4         | 2         | 1         |           | 1         |           |     | 13  |
|    | 助教  |           | 1         |           |           | 1         |           |           |           |     | 2   |
|    | 小計  | 1         | 7         | 8         | 14        | 20        | 29        | 43        | 44        | 22  | 188 |
| 女  | 教授  |           |           |           |           |           | 10        | 13        | 9         | 2   | 34  |
|    | 准教授 |           |           | 3         | 8         | 11        | 5         | 2         | 3         |     | 32  |
|    | 講師  |           | 3         | 1         | 2         |           |           |           | 1         |     | 7   |
|    | 助教  |           |           |           |           |           |           |           |           |     | 0   |
|    | 小計  | 0         | 3         | 4         | 10        | 11        | 15        | 15        | 13        | 2   | 73  |
| 合計 |     | 1         | 10        | 12        | 24        | 31        | 44        | 58        | 57        | 24  | 261 |

※年齢は令和3年3月31日時点での年齢

※若手教員（40歳以下の教員）比率は8.8%



- ・教育研究体制

- ・教育研究組織

令和4年度から始まる第4期中期目標・中期計画期間にむけて、次世代の教育ニーズに対応できる教員及び教育・学習支援人材の育成機能を強化し、社会からの要請に即した教育・研究を展開するとともに、学生生活などの支援を狙いとして、令和2年4月1日からの新たな体制として、附属学校園を含む全学一体として機能する組織的な教育・研究、学生生活などを支援する組織体制を構築した。

- ・機構及び教育研究施設等

共通教育科目を全学的観点から強化整備し、実施を推進する「基幹教育推進機構」、センター組織を統括し、その活動の企画・立案並びに円滑な運営を行い、教育、研究、社会貢献、学生生活支援等の充実を図る「全学センター統括機構」、附属学校園の円滑な運営を行い、教育、研究及び学校安全等の充実を図る「附属学校統括機構」の3機構を新設。

センター組織の改革では、各センターが積み上げてきた実績をさらに発展させるべく、学校危機メンタルサポートセンターを「学校安全推進センター」、教職教育研究センターを「地域連携・教育推進センター」、情報処理センターを「情報基盤センター」、科学教育センターを「教育イノベーションデザインセンター」にそれぞれ変更設置するとともに、障がい学生修学支援ルームとカウンセリングルームを置く「修学支援センター」を新設した。特に、教育イノベーションデザインセンターは、新たな教育に関する研究拠点として、学内外と連携し、学校教育から大学教育に関して、未来志向の新たな教育を研究・開発し、実践することを目的とし、関係する業務を行っている。

## 2. 研究活動に関する施策が適切に定められ、実施されていること。

(分析根拠)

### 第三期中期目標の策定

#### ・第三期中期目標

大阪教育大学は、教員養成及び教育・学習支援人材養成の広域的拠点として、学長のリーダーシップのもと全学的な改革に取り組み、我が国の教育界を牽引するグローバル教育人材を養成する。

#### ・第三期中期目標の研究に関する目標

##### (1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標

- 1 本学の強みを生かした先進的・独創的な教育研究が可能となる日本トップレベルの教育研究拠点を形成し、その教育研究成果を社会に還元するとともに教育課程に反映する。

##### (2) 研究実施体制等に関する目標

- 1 本学の強みを生かした課題研究の推進や研究水準を向上するために、組織的な研究体制を整備し、人員・資金を戦略的に配備する。

#### ・中期目標・中期計画に基づく年度計画の進捗達成状況の確認

中期目標・計画に基づく年度計画を定め、その進捗状況及び達成状況を毎年度確認している。

根拠資料・データ)・年度計画進捗達成状況シート(計画番号 25~28)

#### ・国立大学法人評価の第3期中期目標期間(4年目修了時)評価

国立大学法人評価の第3期中期目標期間(4年目修了時評価)に係る業務の実績に関する評価結果では、研究水準及び研究の成果について「計画以上の進捗」という評価を受けた。優れた点として、SPS(Safety Promotion School)の認証の取組や学校安全コーディネーター養成研修の取組が取り上げられた。

3. 研究活動の質の向上のために研究活動の状況を検証し、問題点等を改善するための取組が行われていること。

(分析根拠)

組織評価規程に定める、達成状況評価と基礎評価の二つの自己点検・評価を行い、研究活動の状況を検証し、その結果に基づき改善・向上の取組を行っている。

達成状況評価は、評価室が、中期目標・中期計画に基づく年度計画の達成状況を評価している。進捗遅滞がある場合には、学長より改善の指示が出されることになる。

基礎評価における自己点検評価において、評価項目の一つに「研究活動」を定め、自己点検・評価委員会が、大学の各組織における研究活動の状況について、各組織より自己点検・評価結果の報告を受け、その内容及び国立大学法人評価等の外部評価の結果等も踏まえて、全学の自己点検・評価を行っている。

根拠資料)

・内部質保証シート

観点2) 大学の目的に照らして、研究活動が活発に行われており、研究の成果が上がっているか。

1. 研究活動の実施状況から判断して、研究活動が活発に行われていること。

(分析根拠)

- ・全学センター統括機構の自己点検・評価結果
- ・文部科学省提出の研究業績数
- ・教員総覧からの論文数等のデータ

2. 研究活動の成果の質を示す実績から判断して、研究の質が確保されていること。

(分析根拠)

- ・各組織における状況
  - ・教員組織（系）の自己点検・評価結果
  - ・全学センター統括機構の自己点検・評価結果
- ・外部組織からの評価結果
  - ・国立大学法人評価の第3期中期目標期間（4年目修了時）評価

【抜粋】

- ・国立大学法人評価の第3期中期目標期間（4年目修了時評価）に係る業務の実績に関する評価結果では、研究水準及び研究の成果について「計画以上の進捗」という評価を受けた。

[優れた点]

各中期目標の達成状況では、SPS（Safety Promotion School）の認証の取組や学校安全コーディネーター養成研修の取組が優れた点として取り上げられた。

- ・独立行政法人大学改革支援・学位授与機構による、学部・研究科等の現況分析結果（研究）に対する評価

「学部・研究科等の研究に関する現況分析結果（概要）」

| 学部・研究科等     | 研究活動の状況    | 研究成果の状況    |
|-------------|------------|------------|
| 教育学部，教育学研究科 | 【3】高い質にある  | 【2】相応の質にある |
| 連合教職実践研究科   | 【2】相応の質にある | 【2】相応の質にある |

- ・教育学部・教育学研究科の研究活動の状況は「高い質にある」と評価された。

[優れた点]

- 科学教育センターが「理科を専門としない小学校初任・若手教員に対する、理科指導力向上のための効果的な支援プログラム」の研究開発を行った。
- 文部科学省国立大学改革強化推進補助金事業『「学び続ける教員」のための教員養成・研修高度化事業』の研究開発を行った。その取組みの一つである「博士人材向け教員能力開発プログラム」は、大阪教育大学の「高度理系教員養成プログラム」として大阪府教育委員会と連携し、京都大学大学院、大阪大学大学院、奈良先端科学大学院大学さらに令和元年4月に新たに大阪府立

大学を加えた4大学と連携協定を結び実施している。また、大阪教育大学独自の取組みの一つ「初任期教員育成支援プログラムの開発と実施」として報告した大阪狭山市教育委員会と連携した初任期教員を対象とした研修プログラムの開発と提供を継続し、研究成果を社会へ還元している。

・教育学部・教育学研究科の研究成果の状況

本学での評価

SS（卓越した研究業績）4件、S（優れた研究業績）20件

独立行政法人大学改革支援・学位授与機構がS Sとした評価件数

学術的に卓越している研究業績 1件

社会・文化的に卓越している研究業績 3件

・連合教職実践研究科の研究成果の状況

本学の評価

SS（卓越した研究業績）0件、S（優れた研究業績）3件

独立行政法人大学改革支援・学位授与機構の評価

学術的に優れている研究業績、社会・経済・文化的に優れている研究業績があると判断された。

3. 社会・経済・文化の領域における研究成果の活用状況や関連組織・団体からの評価等から判断して、社会・経済・文化の発展に資する研究が行われていること。

（分析根拠）

- ・教員組織（系）の自己点検・評価結果
- ・全学センター統括機構の自己点検・評価結果
- ・教員総覧からの論文数等のデータ

4. 最先端の研究のみならず、萌芽(ほうが)的な研究を推進するとともに、若手研究者による柔軟で多様な発想を活かし、育成に取り組んでいること。

（分析根拠）

- ・全学センター統括機構の自己点検・評価結果
- ・令和2年度経営戦略経費「研究活性化推進経費（科研費獲得支援経費、若手教員等研究助成経費、系プロジェクト）」の公募資料
- ・令和2年度経営戦略経費成果報告書

観点3) 大学と附属学校園が協働的に、有機的なつながりをもって研究活動に取り組み、その成果を大学教育や社会へ還元しているか。

1. 教員養成カリキュラムの改善につなげるため、附属学校園において、研究・実践の成果を把握し、その研究・実践の成果が教員養成カリキュラムの改善につながっていること。

(分析根拠)

- ・附属学校統括機構の自己点検・評価結果
- ・令和2年度 第2回運営指導委員会 資料
- ・附属高等学校合同研究発表会の発表要旨集
- ・電子シラバスデータ

2. 附属学校園を活用した大学の研究の実施状況を把握し、大学の教育改善・向上につなげることができるよう得られた知見や成果が学内で共有されるように努めていること。

(分析根拠)

- ・附属学校統括機構の自己点検・評価結果
- ・大阪教育大学 WWL コンソーシアム構築支援事業  
(URL) <https://osaka-kyoiku.ac.jp/university/center/school/WWL/>
- ・附属学校園を活用した教育研究や附属教員との共同研究に関するアンケート
- ・附属学校園を活用した教育研究や附属教員との共同研究に関するアンケート集計

## 第7「その他」(テーマ別の自己点検・評価)

### V.「その他」

(新型コロナウイルスに対する対応の成果と課題)

- ・新型コロナウイルスへの対応について

(<https://osaka-kyoiku.ac.jp/university/emergency/corona/>)

以上

V. 内部質保証シート

| 管理番号              | 区分                                                                                                                                                                                                          | 改善・向上が必要と確認された事項 |      |                                                                        |      | 対応計画          |                       |                                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                         | 進捗・達成状況<br>(2021年3月末時点)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 進捗・達成状況に対する点検・評価<br>(2021年3月末時点)<br>【自己点検・評価委員会】                                                                                        |                                                                                                                                                                    |
|-------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------|------|------------------------------------------------------------------------|------|---------------|-----------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                   |                                                                                                                                                                                                             | 年度               |      | 内容                                                                     | 副学長等 | 想定される<br>担当事務 | 計画の<br>実施主体           | 計画内容                                                                                                                                                                                                                                                           | 対応状況                                                                                                                                    | 点検・評価<br>(2021年3月までの取組)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 改善状況                                                                                                                                    | 点検・評価<br>(2021年3月末時点)                                                                                                                                              |
|                   |                                                                                                                                                                                                             |                  |      |                                                                        |      |               |                       |                                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |                                                                                                                                         |                                                                                                                                                                    |
| 159<br>174        | <input type="checkbox"/> 全学<br><input type="checkbox"/> 各部署等<br><input checked="" type="checkbox"/> 教育課程<br><input type="checkbox"/> 学生受入<br><input type="checkbox"/> 学生支援<br><input type="checkbox"/> 施設設備 | 2018             | ア    | ★教育課程<br>【教育課程と学習成果】<br>・適切な履修指導、支援を行っている。<br>・適切な学習成果が得られている。         |      |               | 学位プログラム開発事業推進委員会      | 部局長連絡会議において、利用状況を報告し、利用促進を依頼する。全専任教員を対象とした教学事項説明会（2019年3月29日）において、電子ポートフォリオの活用目的と利用状況を報告したうえで、利用促進について依頼する。また、学生及び教員に配布している操作マニュアルを改善する。<br>学生及び教員がそれぞれ入力する時期（2019年5月）に、活用を促すメール等を配信する。                                                                        | <input type="checkbox"/> 未対応<br><input checked="" type="checkbox"/> 対応中<br><input type="checkbox"/> 対応済<br><input type="checkbox"/> その他 | 学生に対し、履修登録や成績公開時のメール、電子掲示及び教育実習関係通知等で、電子ポートフォリオ入力 を促した。教員に対しては、10月時点で利用状況を集計した資料を作成し、部局長、部門主任及び指導教員に対して入力依頼を行った。その後、結果を3月の教学関係事項説明会で報告し、より一層の利用を促した。また、令和3年10月に教務基幹システムを新システムに移行することを決定し、スマートフォンでの閲覧・入力等が可能になることから、電子ポートフォリオの利用促進が期待できる。                                                                                                                                                                             | <input type="checkbox"/> 未対応<br><input checked="" type="checkbox"/> 改善中<br><input type="checkbox"/> 改善済<br><input type="checkbox"/> その他 | 電子ポートフォリオの利用率を上げるために、学生、教員に繰り返し入力依頼し、その結果を取りまとめ、再度入力 を促進し、啓発に努めた。また、令和3年度10月から新システム移行で、スマートフォンからの入力が可能になることで、一層利用が進むことが期待できる。次年度、これらの促進活動の成果を確認し、改善済とする。           |
| 160               | <input type="checkbox"/> 全学<br><input type="checkbox"/> 各部署等<br><input checked="" type="checkbox"/> 教育課程<br><input type="checkbox"/> 学生受入<br><input type="checkbox"/> 学生支援<br><input type="checkbox"/> 施設設備 | 2018             | ア    | ★教育課程<br>【内部質保証】<br>・組織的に、教員の質及び教育研究活動を支援又は補助するものの質を確保し、さらにその維持、向上を図る。 |      |               | FD事業推進委員会             | 全教員が年度内にFD活動に1回以上は参加することやビデオ収録した動画をウェブ配信することを盛り込んだ「FD事業実施方針」を策定する。<br>FDに積極的に取り組んでいる教員を支援する仕組みとして、FD活動への参加状況を教育活性化推進経費の教育実践経費の配分に反映させることを募集要項に盛り込む。                                                                                                            | <input type="checkbox"/> 未対応<br><input type="checkbox"/> 対応中<br><input checked="" type="checkbox"/> 対応済<br><input type="checkbox"/> その他 | コロナ禍においてもZoom等を用いたオンライン配信や、映像配信システムを活用したオンデマンド型の参加環境を整備し、令和2年度全体のFD活動参加率は96.9%となり、前年度の92%から向上した。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | <input type="checkbox"/> 未対応<br><input type="checkbox"/> 改善中<br><input checked="" type="checkbox"/> 改善済<br><input type="checkbox"/> その他 | コロナ禍においてもZoom等を用いたオンライン配信や、映像配信システムを活用したオンデマンド型の参加環境を整備したことが、よりFDに参加しやすい環境となった。参加率も約97%となり、ほぼ全員が参加している状況となったので、改善済と考える。                                            |
| 165               | <input type="checkbox"/> 全学<br><input type="checkbox"/> 各部署等<br><input type="checkbox"/> 教育課程<br><input type="checkbox"/> 学生受入<br><input checked="" type="checkbox"/> 学生支援<br><input type="checkbox"/> 施設設備 | 2017             | ウ    | 「施設及び設備（学習環境）並びに学生支援」<br>★学生支援                                         |      |               | グローバルセンター             | 増加していく留学生の生活支援を充実させるために、正規・非正規受入留学生全員に「インバウンド保険」への加入を義務づける。4月・10月の年2回の受入れタイミングにあわせ段階的に導入することとする。                                                                                                                                                               | <input type="checkbox"/> 未対応<br><input type="checkbox"/> 対応中<br><input checked="" type="checkbox"/> 対応済<br><input type="checkbox"/> その他 | 正規生については入学手続き資料発送時に、インバウンド保険加入の書類を同封し、入学前に加入手続きをするよう周知している（保険の加入開始時期は入学後）。4月初旬に行う新入生ダイガイダンス時に保険料の納付書を確認し、未加入者には早めに加えるよう呼びかけている。また、例年6月頃に保険会社に本学に所属する留学生の加入者データの提供を依頼し、未加入者を確認し、未加入である理由の確認や加入について呼びかけている。<br>2020年度後期には、正規生のほぼ全員がインバウンド保険に加入していることが確認された。<br>なお、非正規生については、留学生から保険料を預かり大学で加入手続きを行っており、全員がインバウンド保険に加入している。                                                                                             | <input type="checkbox"/> 未対応<br><input type="checkbox"/> 改善中<br><input checked="" type="checkbox"/> 改善済<br><input type="checkbox"/> その他 | 留学生の生活支援を充実させるために「インバウンド保険」の加入を促進し、非正規生は全員、正規生はほぼ全員が加入するにいたった。よって、改善済と判断する。                                                                                        |
| 166               | <input type="checkbox"/> 全学<br><input type="checkbox"/> 各部署等<br><input type="checkbox"/> 教育課程<br><input type="checkbox"/> 学生受入<br><input checked="" type="checkbox"/> 学生支援<br><input type="checkbox"/> 施設設備 | 2018             | ウ    | 「施設及び設備（学習環境）並びに学生支援」<br>★学生支援                                         |      |               | ・国際委員会<br>・留学生教育専門委員会 | 留学生を多く指導している教員との意見交換や全教員へのアンケートを実施し、留学生指導の実態把握を行い、支援が必要な事項の整理をすることとする。                                                                                                                                                                                         | <input type="checkbox"/> 未対応<br><input checked="" type="checkbox"/> 対応中<br><input type="checkbox"/> 対応済<br><input type="checkbox"/> その他 | 留学生教育専門委員会委員により、2020年11月30日から12月4日にかけて正規留学生12名（学部4回生9名と大学院生3名）を対象として、チューター制度を含む本学の学習支援について意見聴取を対面、及びZoomを用いて行った。2021年2月5日に、留学生教育専門委員会委員とグローバルセンター留学生教育部門教員により、上記の意見聴取の結果も踏まえ、留学生支援について検討を行った。<br>2021年3月9日の教育協働学科留学生に係わるワーキング（第2回）〔留学生教育専門委員会委員は出席で出席〕では意見聴取の結果及び2月5日の検討内容を参考に、教育協働学科が主担当となる留学生の学習支援について確認・検討がされた。<br>その中の検討事項のひとつとして、2021年度からのチューター制度について、教員養成課程も含めて募集を行い人員の確保を行う、チューターを支援する方策について考える等の改善を図ることとなった。 | <input type="checkbox"/> 未対応<br><input type="checkbox"/> 改善中<br><input type="checkbox"/> 改善済<br><input checked="" type="checkbox"/> その他 | 留学生教育専門委員会委員およびグローバルセンター留学生教育部門教員が中心となって、学生・院生からの意見聴取を行い、その結果を踏まえて、教育協働学科内のワーキングも開催し、対応策の検討を行った。これにより、チューターを広く教員養成課程も含めて確保し、さらにチューター支援の充実を図る方向性も決まったことから、改善済と判断する。 |
| 158<br>172<br>206 | <input checked="" type="checkbox"/> 全学<br><input type="checkbox"/> 各部署等<br><input type="checkbox"/> 教育課程<br><input type="checkbox"/> 学生受入<br><input type="checkbox"/> 学生支援<br><input type="checkbox"/> 施設設備 | 2019             | 1 第1 | 「内部質保証」                                                                |      |               | FD事業推進委員会             | 部局長を通じて、引き続き、回収率向上の依頼を行う。<br>全教員を対象とする教務事項関係説明会（R2.3.31）で改善を要望する。<br>授業改善について、教員の個人評価項目に入れることも検討する。                                                                                                                                                            | <input type="checkbox"/> 未対応<br><input checked="" type="checkbox"/> 対応中<br><input type="checkbox"/> 対応済<br><input type="checkbox"/> その他 | 令和2年度前期のアンケート回収率は63.9%であり、令和元年度後期から9%程度上昇した。アンケートの回答率を向上するだけでなく、学位プログラムに基づく教育課程を実施している各部署（運用組織）が継続的かつ組織的に授業改善に向けた取り組みを行う仕組みを検討する必要がある。                                                                                                                                                                                                                                                                               | <input type="checkbox"/> 未対応<br><input checked="" type="checkbox"/> 改善中<br><input type="checkbox"/> 改善済<br><input type="checkbox"/> その他 | アンケートの回収については上昇しているが、教員の三分の二に留まっている。事務局からだけではなく、部局や系からも引き続き働きかけることが必要である。また、教員の個人評価項目に入れることについても有効な方策であるので、早期に具体化が必要である。                                           |
| 173<br>219        | <input checked="" type="checkbox"/> 全学<br><input type="checkbox"/> 各部署等<br><input type="checkbox"/> 教育課程<br><input type="checkbox"/> 学生受入<br><input type="checkbox"/> 学生支援<br><input type="checkbox"/> 施設設備 | 2019             | 2 第2 | 施設及び設備（学習環境）並びに学生支援                                                    |      |               | 情報基盤センター              | 研究室内の1CT環境の整備については、研究室内の活動としてゼミ活動や卒業研究指導等を行っており、学習環境・学生支援の側面からも、無線LAN(WiFi)の整備を行う必要がある。各教員に対し、情報処理センターによる整備の機会を積極的に利用するよう案内を行う。                                                                                                                                | <input type="checkbox"/> 未対応<br><input checked="" type="checkbox"/> 対応中<br><input type="checkbox"/> 対応済<br><input type="checkbox"/> その他 | 無線LAN設置希望個所のWiFiの電波状況を確認しながら、状況に応じて無線アクセスポイントを整備している。<br>令和2年度については、旧機種の交換を積極的に行い、柏原キャンパス：52台、天王寺キャンパス：12台の計64台交換を実施。<br>柏原キャンパス講義棟及び、天王寺キャンパス西館・東館については、ほぼ旧機種からの交換が完了した。<br>アクセスポイントの新設については、柏原キャンパス：13台、天王寺キャンパス：10台の計23台設置。<br>令和3年度以降も、電波状況の悪い箇所についてアクセスポイントの新設、残存している旧機種のアクセスポイント交換を実施予定。                                                                                                                       | <input type="checkbox"/> 未対応<br><input type="checkbox"/> 改善中<br><input type="checkbox"/> 改善済<br><input checked="" type="checkbox"/> その他 | 計画内容に照らし合わせて教育研究活動を行うためのWiFiの整備については、各教員から状況の把握を行い整備を進めたと確認できるためすでに改善済と判断できる。                                                                                      |
| 174               | <input checked="" type="checkbox"/> 全学<br><input type="checkbox"/> 各部署等<br><input type="checkbox"/> 教育課程<br><input type="checkbox"/> 学生受入<br><input type="checkbox"/> 学生支援<br><input type="checkbox"/> 施設設備 | 2019             | 2 第2 | 施設及び設備（学習環境）並びに学生支援                                                    |      |               | 教務課                   | 学生には、令和2年度から毎年度のガイダンスでの周知、「履修上の注意事項」の記載追加や学期毎の履修登録、成績公開時等、教務係から繰り返し指導する。システム上でも表記を追加する。<br>教員への周知も徹底するが、双方で入力するシステムであるから、学生利用が増えれば教員利用も増えることが期待できる。<br>なお、ポートフォリオは履修カルテと教育実習カルテで構成されるが、年次進行で令和元年度から新しい教育実習カルテの運用が始まったばかりである。学生と教員で事後指導に活用していることから今後利用の増加が見込める。 | <input type="checkbox"/> 未対応<br><input checked="" type="checkbox"/> 対応中<br><input type="checkbox"/> 対応済<br><input type="checkbox"/> その他 | 学生に対し、履修登録や成績公開時のメール、電子掲示及び教育実習関係通知等で、電子ポートフォリオ入力を促した。教員に対しては、10月時点で利用状況を集計した資料を作成し、部局長、部門主任及び指導教員に対して入力依頼を行った。その後、結果を3月の教学関係事項説明会で報告し、より一層の利用を促した。また、令和3年10月に教務基幹システムを新システムに移行することを決定し、スマートフォンでの閲覧・入力等が可能になることから、電子ポートフォリオの利用促進が期待できる。                                                                                                                                                                              | <input type="checkbox"/> 未対応<br><input checked="" type="checkbox"/> 改善中<br><input type="checkbox"/> 改善済<br><input type="checkbox"/> その他 | 電子ポートフォリオの利用率を上げるために、学生、教員に繰り返し入力依頼し、その結果を取りまとめ、再度入力 を促進し、啓発に努めた。また、令和3年度10月から新システム移行で、スマートフォンからの入力が可能になることで、一層利用が進むことが期待できる。次年度、これらの促進活動の成果を確認し、改善済とする。           |
| 177               | <input checked="" type="checkbox"/> 全学<br><input type="checkbox"/> 各部署等<br><input type="checkbox"/> 教育課程<br><input type="checkbox"/> 学生受入<br><input type="checkbox"/> 学生支援<br><input type="checkbox"/> 施設設備 | 2019             | 3 第3 | 学生の受入                                                                  |      |               | 入学試験等企画委員会            | 令和2年2月14日開催の入試・学生支援会議で承認された「学生受入に関する自己点検・評価基準」において、入学定員に対する入学者数は適切かどうかを確認する自己点検・評価項目が設定されており、入学選抜方法等研究専門部会からの報告により自己点検・評価が実施されることになる。                                                                                                                          | <input type="checkbox"/> 未対応<br><input checked="" type="checkbox"/> 対応中<br><input type="checkbox"/> 対応済<br><input type="checkbox"/> その他 | 入学選抜方法等研究専門部会では、令和2年度・令和3年度の入試分析結果をまとめた「入試報告書」を令和3年10月に完成させ、12月には入学試験等企画委員会へ報告する予定で進めている。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | <input type="checkbox"/> 未対応<br><input checked="" type="checkbox"/> 改善中<br><input type="checkbox"/> 改善済<br><input type="checkbox"/> その他 | 入学定員充足率についての点検・評価が必要であるという課題に対しては、点検主体ならびに手段が明確となっている。令和3年度に予定されている「入試報告書」の完成と報告をもって改善が完了をしたといえる。                                                                  |
| 179               | <input checked="" type="checkbox"/> 全学<br><input type="checkbox"/> 各部署等<br><input type="checkbox"/> 教育課程<br><input type="checkbox"/> 学生受入<br><input type="checkbox"/> 学生支援<br><input type="checkbox"/> 施設設備 | 2019             | 4 第4 | 「教育課程と学修成果」及び教育活動                                                      |      |               | 教務委員会                 | 令和2年度シラバスでは「授業時間外の学習に関して」の項目を追加し、作成ガイドラインにおいて大学設置基準（1単位に対して、計45時間の学習時間）を明記のうえ、例示を具体的に示して記載を促している。                                                                                                                                                              | <input type="checkbox"/> 未対応<br><input type="checkbox"/> 対応中<br><input checked="" type="checkbox"/> 対応済<br><input type="checkbox"/> その他 | 令和2年度シラバスの「授業時間外の学習に関して」の項目を含む全ての項目について、入力状況のチェックを行い、未入力や不備があるシラバスの授業担当教員や所属部門・センターに記載又は修正を依頼した。対応状況を集計・督促を数回行い、全てのシラバスについて対応を完了した。                                                                                                                                                                                                                                                                                  | <input type="checkbox"/> 未対応<br><input type="checkbox"/> 改善中<br><input checked="" type="checkbox"/> 改善済<br><input type="checkbox"/> その他 | 令和2年度シラバスの「授業時間外の学習に関して」の項目を含む全ての項目について、入力されたことは大いに評価することができる。今後はシラバスどおり授業が実行されることが重要であるので、期に応じて意識喚起していただきたい。                                                      |
| 180               | <input checked="" type="checkbox"/> 全学<br><input type="checkbox"/> 各部署等<br><input type="checkbox"/> 教育課程<br><input type="checkbox"/> 学生受入<br><input type="checkbox"/> 学生支援<br><input type="checkbox"/> 施設設備 | 2019             | 4 第4 | 「教育課程と学修成果」及び教育活動                                                      |      |               | 教育協働学科                | 今後予定されているカリキュラム改正において、カリキュラムのスリム化を進める中で解消を図る。                                                                                                                                                                                                                  | <input type="checkbox"/> 未対応<br><input checked="" type="checkbox"/> 対応中<br><input type="checkbox"/> 対応済<br><input type="checkbox"/> その他 | 令和4年度のカリキュラム改正に向けて、検討を進めている。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | <input type="checkbox"/> 未対応<br><input checked="" type="checkbox"/> 改善中<br><input type="checkbox"/> 改善済<br><input type="checkbox"/> その他 | 現在カリキュラム改正に向けた取り組みが進められているので、令和4年度のカリキュラム改正でスリム化がされたことを確認する。                                                                                                       |
| 181               | <input checked="" type="checkbox"/> 全学<br><input type="checkbox"/> 各部署等<br><input type="checkbox"/> 教育課程<br><input type="checkbox"/> 学生受入<br><input type="checkbox"/> 学生支援<br><input type="checkbox"/> 施設設備 | 2019             | 4 第4 | 「教育課程と学修成果」及び教育活動                                                      |      |               | 大学院教育学研究科運営委員会        | 既設の教育学研究科については、令和2年度のカリキュラムが確定しているため、実施を行わない。改組後の教育学研究科については、授業科目を整合的かつ体系的に編成し、ナンバリングの導入であるよう検討中である。                                                                                                                                                           | <input type="checkbox"/> 未対応<br><input checked="" type="checkbox"/> 対応中<br><input type="checkbox"/> 対応済<br><input type="checkbox"/> その他 | 改組後の教育学研究科について、教育課程の体系性を明示するため、令和3年度入学生用カリキュラムマップを作成した。<br>令和4年度からのポートフォリオ導入に合わせて、ナンバリングを導入できるよう検討中である。                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | <input type="checkbox"/> 未対応<br><input checked="" type="checkbox"/> 改善中<br><input type="checkbox"/> 改善済<br><input type="checkbox"/> その他 | 令和3年度入学生用カリキュラムマップを作成されたが、令和4年度からのポートフォリオ導入に合わせて、ナンバリングの導入を検討中であるので、これを見守りたい。                                                                                      |
| 182               | <input checked="" type="checkbox"/> 全学<br><input type="checkbox"/> 各部署等<br><input type="checkbox"/> 教育課程<br><input type="checkbox"/> 学生受入<br><input type="checkbox"/> 学生支援<br><input type="checkbox"/> 施設設備 | 2019             | 4 第4 | 「教育課程と学修成果」及び教育活動                                                      |      |               | 大学院連合教職実践研究科          | 学位プログラムにおける個々の授業科目の教育課程上の水準と学位全体の体系性を明示する手段として、連合教職実践研究科運営委員会にて審議の結果、ナンバリングではなく、カリキュラム・ツリーの作成及び公開をめざすこととした。                                                                                                                                                    | <input type="checkbox"/> 未対応<br><input checked="" type="checkbox"/> 対応中<br><input type="checkbox"/> 対応済<br><input type="checkbox"/> その他 | カリキュラム・ツリーを作成し、令和2年度入学生用の大学院連合教職実践研究科履修提要から公開した。ただし、現在、大学院においてもポートフォリオ導入に向けポートフォリオに適合するカリキュラム・ツリーへと見直す必要がある。<br>理論と実践の往還・融合を標榜する教職大学院としての2年間の学びの中で理論と実践を往還・融合する学びによる資質能力の向上について、院生が実感できるようにどのようにポートフォリオに表せばよいのか検討中である。そのようにして検討したポートフォリオに沿う形で、カリキュラムツリーの見直しを図っているところである。                                                                                                                                             | <input type="checkbox"/> 未対応<br><input type="checkbox"/> 改善中<br><input type="checkbox"/> 改善済<br><input checked="" type="checkbox"/> その他 | 当初目標であるカリキュラムツリーが令和2年度入学生用より作成されたので、改善済と評価する。今後はポートフォリオと適合したカリキュラムツリーとなるよう改善に努めていただきたい。                                                                            |



内部質保証シート

| 管理番号       | 区分                                               | 改善・向上が必要と確認された事項 |   |                      |      | 対応計画          |              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |                              | 進捗・達成状況<br>(2021年3月末時点)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 進捗・達成状況に対する点検・評価<br>(2021年3月末時点)<br>【自己点検・評価委員会】 |                                                                                                               |
|------------|--------------------------------------------------|------------------|---|----------------------|------|---------------|--------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|            |                                                  | 年度               |   | 内容                   | 副学長等 | 想定される<br>担当事務 | 計画の<br>実施主体  | 計画内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 対応状況                         | 点検・評価<br>(2021年3月までの取組)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 改善状況                                             | 点検・評価<br>(2021年3月末時点)                                                                                         |
|            |                                                  |                  |   |                      |      |               |              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |                              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                                                  |                                                                                                               |
| 184        | ■全学<br>■各部署等<br>□教育課程<br>□学生受入<br>□学生支援<br>□施設設備 | 2019             | 4 | 第4 「教育課程と学修成果」及び教育活動 |      |               | 教務委員会        | 平成31年度シラバス(3695件)について、「大阪教育大学シラバス作成ガイドライン」に基づき、適正に記載されているかどうかを確認し、「誤解を与える記述を含む項目」含めて抽出し、授業コード別に指摘内容を記載した上で、各部署長および講座主任宛てに改善を依頼した。<br>令和2年1月末現在の改善状況について、改善依頼した授業科目(1415件)に対して、改善済み(915件)、未対応(500件)であり、全シラバスに対して、適切でない項目又は誤解を与える項目を含むシラバスは、約13.5%である。引き続き、部局長および講座主任宛てに対応を求めている。<br><br>【参考】指摘内容 授業形態:319、到達目標・概要・計画:48、アクティブ・ラーニング:382、成績評価方法:545、テキスト・参考書:894                                                                                                                                                                                             | □未対応<br>□対応中<br>■対応済<br>□その他 | 令和2年度シラバスについて、シラバス作成ガイドラインに基づいて適切に記載されているか確認を行い、未入力や不備があるシラバスの授業担当教員や所属部門・センターに記載又は修正を依頼した。対応状況を集計・督促を数回行い、全てのシラバスについて対応を完了した。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | □未対応<br>□改善中<br>■改善済<br>□その他                     | 令和2年度シラバスの全ての項目が入力されたことは大いに評価することができる。今後はシラバスどおり授業が実行されることが重要であるので、期に応じて意識喚起していただきたい。                         |
| 189<br>262 | ■全学<br>■各部署等<br>□教育課程<br>□学生受入<br>□学生支援<br>□施設設備 | 2019             | 4 | 第4 「教育課程と学修成果」及び教育活動 |      |               | 大学院連合教職実践研究科 | 令和元年度に、天王寺キャンパスで勤務しながら学ぶ現職教員にとって、学びやすい環境整備について、連携会議等でニーズを確認しながら検討する。令和2年度から、天王寺キャンパスで開講する研究科共通必修科目を、できる限り7限に集中させるカリキュラムとする。また、令和3年度以降の遠隔授業の実施等についても、1地域以上を対象として試行を始める。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | □未対応<br>■対応中<br>□対応済<br>□その他 | 天王寺キャンパスのスクーラーリーダーシップコース及び援助ニーズ教育実践コースでは、令和2年度から研究科共通科目を7限目に集中させた。教育委員会・学校連携コーディネーターによる現職教員からの聴き取り結果では、学びやすくなったという声が多々聞かれる。<br>また、令和2年度に堺市教育センター（サテライト）と天王寺キャンパスを結び、対面式と遠色ない形で授業科目「教育課程編成の今日的課題」及び「スクーラーリーダーシップの理論と実践」を双方向遠隔授業（堺市教育委員会との協働で授業科目＝現職研修）として行った。現職研修（科目等履修）として参加している堺市側の研修生は17名で、うち11名が科目等履修生として受講した。受講生からのアンケート結果でも一定評価を得るとともに、当該授業を視察にいられた池田市教育委員会教育長からも評価していただき、令和3年度からは池田市を含む3地点を繋いで当該授業科目に挑戦することとなっている。<br>さらに、新型コロナウイルスの蔓延を契機として、通信教育が一定認められている専門職大学院設置基準の範囲内でオンライン授業を一気に増やした。中でもプログラムのうち一部を大阪市教育委員会との協働で授業科目＝現職研修として行っている。「メディア・情報リテラシー教育プログラム」のプログラム科目は、一部オンライン（1科目）と全てオンライン（2科目）で構成しており、全45回中8回は学校現場の夏休み期間中に対面で実施し、残り37回は全てオンライン授業を行っている。引き続きオンラインの割合を高め、現職教員が学びやすい環境へと改善を図ることとしている。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | □未対応<br>■改善中<br>□改善済<br>□その他                     | 現職教員にとって学びやすい環境整備として、7限目に研究科共通科目を集中し、アンケートでも好評だった。また遠隔授業の拡充についても順調に推移している。                                    |
| 190<br>263 | ■全学<br>■各部署等<br>□教育課程<br>□学生受入<br>□学生支援<br>□施設設備 | 2019             | 4 | 第4 「教育課程と学修成果」及び教育活動 |      |               | 大学院連合教職実践研究科 | 令和元年度に、当該事項の内容について考え方を整理し明文化する。令和2年度から、オムニバスや単独実施となっている授業、研究者教員のみや実務家教員のための授業は、その解消に向けた検討を進めていく。そのためのFD活動を実施する。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | □未対応<br>■対応中<br>□対応済<br>□その他 | 理論と実践を往還・融合する学びを展開するため、引き続き、研究科FD、コースFD及び個々の教員への働きかけにより、教育上主要と認める授業科目である研究科共通科目について、研究者教員と実務家教員によるティーム・ティーチングを推進する。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | □未対応<br>■改善中<br>□改善済<br>□その他                     | 理論と実践の融合した学びの展開に関して、改善が進んでいると思われる。                                                                            |
| 191<br>264 | ■全学<br>■各部署等<br>□教育課程<br>□学生受入<br>□学生支援<br>□施設設備 | 2019             | 4 | 第4 「教育課程と学修成果」及び教育活動 |      |               | 高度教職開発系      | 【大学院 連合教職実践研究科】<br>・改組後の教職大学院においても、カリキュラム・マネジメントの浸透を図り、院生指導体制を充実するため、教職大学院の特徴の一つでもある、研究者教員と実務家教員の協働による指導を基本とする。加えて、柏原キャンパスの教育組織を踏まえて、教科教育担当教員と教科専門担当教員、教職教育担当教員の協働指導体制も導入するが、それらについても、院生が複眼的な視点から物事を捉える力量の形成に寄与する指導体制をとるという方針に基づくものである。ただし、学部専任と大学院専任のダブル専任を早急に解消する必要がある。<br><br>【大学院 連合教職実践研究科】<br>・改組後の教職大学院においても、カリキュラム・マネジメントの浸透を図り、院生指導体制を充実するため、教職大学院の特徴の一つでもある、研究者教員と実務家教員の協働による指導を基本とする。加えて、柏原キャンパスの教育組織を踏まえて、教科教育担当教員と教科専門担当教員、教職教育担当教員の協働指導体制も導入するが、それらについても、院生が複眼的な視点から物事を捉える力量の形成に寄与する指導体制をとるという方針に基づくものである。ただし、学部専任と大学院専任のダブル専任を早急に解消する必要がある。 | □未対応<br>■対応中<br>□対応済<br>□その他 | 現在の教職大学院は、理論と実践を往還・融合するカリキュラムを提供する体制として、拡充改組の設置計画で示した体制に到達していることを確認することができない。高度教職開発系や連合教職実践研究科の組織としては、拡充の当初から、主副指導教員制については、「複数の視点で院生を指導できるよう、できるだけ研究者教員と実務家教員、あるいは教職科目担当教員、教科専門教員、教科教育教員が、主・副指導教員となる組み合わせとする。」というルールを設け、教育上主要と認める研究科共通科目は、研究者教員と実務家教員によるティーム・ティーチングを行う方針で進めてきたが、令和2年度の状況は資料「令和2年度学校実習等の学生指導担当状況一覧」、「令和2年度研究科共通科目の担当状況」とおりである。令和6年度までに受審し認証を受ける必要がある教職大学院の認証評価に対応するためには、研究者教員と実務家教員の協働、教科教育担当教員、教科専門担当教員及び教職教育担当教員の協働による指導体制（ティーム・ティーチングや主副指導教員制等）が取れていることを示す必要がある。また、管理番号190、263にも関係するが、教育上のコアとして設定されている授業科目（研究科共通科目、実習科目、課題研究科目）については、原則として、専任の教授又は准教授を配置しなければならない。<br>このような状況を踏まえ、高度教職開発系や連合教職実践研究科の組織としては、教職大学院ならではのカリキュラムの浸透を図るために、カリキュラム・マネジメント体制の整備やFDの活性化に取り組んでいるところであるが、教育研究活動の基盤となる人員配置等については、教職大学院の力だけでは如何ともし難いところがある。<br>このため、教職大学院では、大学に対し、研究者教員の人員配置については、高度教職開発系専任教員＞ダブル専任＞兼担となるよう、実務家教員の人員配置については、高度教職開発系専任教員＞みなし専任となるよう働きかけているところである。この働きかけにより、一部実現したものの、今後もこのような方向で増員が進むということは、現実的には難しいと考えられる。<br>このままでは、理論と実践を往還・融合するカリキュラムを提供する体制が整っていることを認証評価において示すことは難しいと考えられるので、全学的な協力が得られるよう、以下のような形で、高度教職開発系と連合教職実践研究科の双方から働きかけていく。<br>○ 研究者教員については、他に専任教員の増を求めるだけではなく、教職大学院（学部と一体関係にない独立した研究科）における学部との接続の必要性を鑑み、現在の専任教員以外の方にもダブル専任や兼担となっていけるよう、全学に働きかけ、広く教職大学院への関与を求めていく。その際、ダブル専任については、教職大学院担当に軸足を置いていただけた形のダブル専任の配置も働きかけていく。<br>○ 実務家教員の配置数については、みなし専任も含めると、見かけ上一定数確保されているが、みなし専任の中には、多忙な附属学校園の教員や他の任務を専門とする大学教員が多く含まれており、教職大学院の授業や院生指導について、ほぼ不担当という状況が相当数存在する。また、みなし専任の退職者の補充については、これまでのところ実現しておらず、見かけ上の数も減少傾向にある。この状況は、早急に解消しなければならず、教職大学院の業務を実質的に担当していただける実務家教員（専任教員及びみなし専任）の増加に向けて、全学に働きかけていく。（例えば、学校現場経験のある研究者教員を実務家教員の専任教員やみなし専任とできるような全学に働きかけたり、公立学校の現職教員をみなし専任として配置できるよう大学に働きかける。）その際、附属学校園のみなし専任の課題に関しては、附属学校園と教職大学院における連携関係が維持、発展できる方向で再考し、現実的であり連携関係が深まる仕組みづくりの模索を通して解決していく。<br>○ 上記と同様に、現在のダブル専任やみなし専任の方にも、学部教育等の負担に配慮しつつ、可能な範囲で教職大学院への関与を深めていただけるよう働きかける。その所属長等にも理解を求める。<br>○ 理論と実践を往還・融合する教職大学院ならではのカリキュラムの実施体制については、全国的に見ても浸透しているとは言えず、本学においても同様である。このことが、カリキュラム・マネジメントの困難さの一因となっており、上記のように全学に働きかけていくために、教職大学院の専任教員、ダブル専任、兼担だけでなく、大学全体に向けて、教職大学院のカリキュラムの在り方への理解を深めていただけるよう、例えば教職大学院のFD等を公開するなどの取組が必要である。 | □未対応<br>■対応中<br>□改善中<br>□改善済<br>□その他             | 教育に必要な人員配置に関しては容易ではない面もあるが、今後も工夫して最適な配置となるように努力された。                                                           |
| 194<br>267 | ■全学<br>■各部署等<br>□教育課程<br>□学生受入<br>□学生支援<br>□施設設備 | 2019             | 4 | 第4 「教育課程と学修成果」及び教育活動 |      |               | 教育協働学科       | 教育実践支援ルームと相談の上、事前・事後アンケートを取り、成果や問題点などを把握するとともに、受入先にもアンケートに答えてもらい、学生の演習状況を受入先の観点から見たものを把握する。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | □未対応<br>□対応中<br>■対応済<br>□その他 | 事前・事後アンケートを取り、今後の演習に結び付けることとした。（moodle参照）<br>令和2年度の演習状況のアンケートを受入先に対して行うこととした。<br>(予定より遅れ、令和3年6月に行った。ファイル01-03-1-1)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | □未対応<br>□改善中<br>■改善済<br>□その他                     | 今後もPDCAサイクルを順調に実施するようにしてください。                                                                                 |
| 198        | ■全学<br>□各部署等<br>□教育課程<br>□学生受入<br>□学生支援<br>□施設設備 | 2019             | 5 | 第5 「研究活動」            |      |               | 研究担当副学長      | 大学の将来構想に応じた改革に関連する研究グループを形成し、科研費に申請できていない教員が積極的に参画することで、外部資金を獲得できるような仕組みの構築を検討する。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | □未対応<br>■対応中<br>□対応済<br>□その他 | グループ形成のため、系ごとに申請出来る系プロジェクトを創設し、5件の申請があった。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | □未対応<br>□改善中<br>□改善済<br>■その他                     | 系ごとにプロジェクトを創設し、科研費に申請できていない教員が参画できる仕組みが構築されていると認められ、当初の課題に対しては改善が完了したと認められる。今後も、より多くの教員が参画できる仕組みを維持できるよう願いたい。 |

内部質保証シート

| 管理番号      | 区分                                               | 改善・向上が必要と確認された事項 |   |             |                | 対応計画           |                        |                                                                                                                                                                                 |                                      | 進捗・達成状況<br>(2021年3月末時点)                                                                                                                                                                           |                              | 進捗・達成状況に対する点検・評価<br>(2021年3月末時点)<br>【自己点検・評価委員会】                                                                                                                                                       |  |
|-----------|--------------------------------------------------|------------------|---|-------------|----------------|----------------|------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
|           |                                                  | 年度               |   | 内容          | 副学長等           | 想定される<br>担当事務  | 計画の<br>実施主体            | 計画内容                                                                                                                                                                            | 対応状況                                 | 点検・評価<br>(2021年3月までの取組)                                                                                                                                                                           | 改善状況                         | 点検・評価<br>(2021年3月末時点)                                                                                                                                                                                  |  |
|           |                                                  |                  |   |             |                |                |                        |                                                                                                                                                                                 |                                      |                                                                                                                                                                                                   |                              |                                                                                                                                                                                                        |  |
|           |                                                  |                  |   |             |                |                |                        |                                                                                                                                                                                 |                                      |                                                                                                                                                                                                   |                              |                                                                                                                                                                                                        |  |
| 473124199 | ■全学<br>□各部署等<br>□教育課程<br>□学生受入<br>□学生支援<br>□施設設備 | 2019             | 5 | 第5 「研究活動」   |                |                | 研究担当副学長<br>(系主任)       | 各系との連携を密にして、各系が責任を持って外部資金獲得教員の比率を90%以上にできるよう取り組む。<br>科研費説明会の参加者数についても、各系と連携し、参加者数増加に繋げる方策を検討する。<br>科研費トライアル経費については、効果的な配分方法を検討する。                                               | □未対応<br>■対応中<br>□対応済<br>□その他         | ・外部資金獲得への取り組みが無い教員に対して、系主任を通じてヒアリングを実施した。<br>・科研費説明会については実務家教員による説明を加えたことや、ZOOMによるオンライン実施としたことにより大学教員、附属学校教員の参加者数は当日参加の72名と後日録画データを視聴した24名の計96名となった。                                              | □未対応<br>■改善中<br>□改善済<br>□その他 | ・ヒアリングを通じて、外部資金獲得教員比率の目標に近づけてもらいたい。<br>・科研費説明会については、各系と連携して参加者数増加につなげる方策を検討し、実施していると認められ、当初の課題に関しては完了したと認められる。<br>・科研費トライアル経費については、その配分方法が検討された結果、きめ細やかな配分が行われ金額も増額となっていることが確認でき、当初の課題については完了したと認められる。 |  |
| 200       | ■全学<br>□各部署等<br>□教育課程<br>□学生受入<br>□学生支援<br>□施設設備 | 2019             | 5 | 第5 「研究活動」   |                |                | 研究担当副学長                | 令和元年度に立ち上げた「データを活用した教育の質改善プロジェクト」の取り組みを典型例にして、附属学校園とも連携した取り組みを進める。                                                                                                              | □未対応<br>■対応中<br>□対応済<br>□その他         | 新型コロナウイルス感染症流行による活動制限により、大学での取り組み進行の遅延により、附属学校への展開は、次年度以降となっているが、複数企画が展開の予定である。                                                                                                                   | □未対応<br>■改善中<br>□改善済<br>□その他 | 組織的な共同研究の展開が待たれる。                                                                                                                                                                                      |  |
| 201       | ■全学<br>□各部署等<br>□教育課程<br>□学生受入<br>□学生支援<br>□施設設備 | 2019             | 5 | 第5 「研究活動」   |                |                | 研究担当副学長                | ファンドレイザーの活用及びクラウドファンディングの活用を検討する。                                                                                                                                               | □未対応<br>■対応中<br>□対応済<br>□その他         | ファンドレイザーの活用については、経費的な問題から困難な状況である。一方クラウドファンディングについては、留学生対象やベトナムとの交流事業を対象に検討を行う予定である。                                                                                                              | □未対応<br>□改善中<br>□改善済<br>■その他 | ファンドレイザーの活用については、活用が困難であるとの結論ではあるものの、検討が行われた。クラウドファンディングに関しては、本学では2件の事業が実施されている。以上のことより、当初の課題については完了したと認められる。                                                                                          |  |
| 179184310 | ■全学<br>□各部署等<br>□教育課程<br>□学生受入<br>□学生支援<br>□施設設備 | 2020             | 2 | 情報の公表       | 岡本副学長          | 教務課            | 教務課                    | FD事業推進委員会において、今後のチェック体制について検討する。令和3年10月にシラバスを含む教務基幹システムが新システムに移行するため、新システム上の公開までのプロセスを確認し、令和4年度シラバス作成までに新体制を構築する。                                                               | □未対応<br>■対応中<br>□対応済<br>□その他         | 2月に新システム業者が決定し、チェック体制の構築を見据えたシラバス機能の仕様調整を開始した。運用についてはFD事業推進委員会において検討を行い、令和4年度シラバス作成までに新体制を構築する予定である。                                                                                              | □未対応<br>■改善中<br>□改善済<br>□その他 | 新システムの仕様、運用について調整や検討が開始され、新体制の構築が待たれる。                                                                                                                                                                 |  |
| 311       | ■全学<br>□各部署等<br>□教育課程<br>□学生受入<br>□学生支援<br>□施設設備 | 2020             | 2 | 情報の公表       | 片桐副学長          | 学術連携課          | 学術連携課                  | 今後は新規採用時に必須項目に関する情報を事務で初期登録するとともに、更新履歴の無い教員に対して系主任を通じて更新を呼びかけることでデータベースとしての機能を高めていく計画である。                                                                                       | □未対応<br>■対応中<br>□対応済<br>□その他         | 新規採用者に関する必須項目の初期登録については次年度から計画通り開始する予定である。<br>また、次年度7月に全教員に対して登録の重要性とともに、情報の更新を依頼する予定である。                                                                                                         | □未対応<br>□改善中<br>□改善済<br>□その他 | 教員総覧の初期登録を開始しが待たれる。<br>情報の更新の依頼が待たれる。                                                                                                                                                                  |  |
| 312       | ■全学<br>□各部署等<br>□教育課程<br>□学生受入<br>□学生支援<br>□施設設備 | 2020             | 3 | 社会との連携、社会貢献 | 岡本副学長          | 経営戦略課          | IR室                    | 評価機能を高めるため、従来からあるIR機能を集約し、令和3年度に新たにIR室を設置する。IR室において、各課室の協力体制の下、学内各種データを定期的に収集し、活用できる仕組みを構築する。                                                                                   | □未対応<br>■対応中<br>□対応済<br>□その他         | IR室を令和3年4月に設置するべく準備を進めている。                                                                                                                                                                        | □未対応<br>■改善中<br>□改善済<br>□その他 | 21年4月にIR室が設置され、IR機能を実質化するための取り組みが進められている。各種データを手間をできるだけかずに収集・活用できる仕組みを早急に完成させたい。                                                                                                                       |  |
| 313       | ■全学<br>□各部署等<br>□教育課程<br>□学生受入<br>□学生支援<br>□施設設備 | 2020             | 3 | 社会との連携、社会貢献 | 片桐副学長          | 学術連携課          | 学術連携課                  | 研究活動については以下のページで公開している。<br>https://osaka-kyoiku.ac.jp/faculty/renkei/kenkyuseika/top.html<br>当該ページには今後、各附属学校の研究活動等の公開ページのアドレスを集約して掲載する計画である他、系の研究活性化プロジェクト等の成果報告についても掲載する予定である。 | □未対応<br>■対応中<br>■対応済<br>□その他         | 計画に記載した内容をホームページに掲載した他、大学教員と附属学校教員の研究交流会の口頭発表動画をyoutubeを活用して公開する新たな方法も取り入れた。                                                                                                                      | □未対応<br>■改善中<br>■改善済<br>□その他 | 研究活動について大学のホームページで公開し、口頭発表動画の公開にyoutubeを活用するなど、積極的、かつ工夫をした情報発信に組織的に取り組んでおり、当初の課題に対しては改善が完了したと認められる。                                                                                                    |  |
| 314       | ■全学<br>□各部署等<br>□教育課程<br>□学生受入<br>□学生支援<br>□施設設備 | 2020             | 3 | 社会との連携、社会貢献 | 片桐副学長          | 学術連携課          | 学術連携課                  | 今年度新設した系における研究活性化経費を活用して、次年度はGIGAスクール構想等の喫緊の課題に対応した研究に対する支援を行う計画である。<br>また教育イノベーションデザインセンターの下に、デジタル教科書研究会（仮称）を設置し、今日的な課題への対応を検討する計画である。                                         | □未対応<br>■対応中<br>□対応済<br>□その他         | 系における研究活性化経費（系プロジェクト）については、計5プロジェクトの応募があり、採択後研究を実施し、年度末に報告書の提出と同時に、成果概要をHPに掲載した。また、同時にヒアリングを行い、来年度での成果のまとめの確認を行った。<br>デジタル教科書研究会についてはメンバーの選定を進め、大学全体の研究の動きとの調整を行った。                               | □未対応<br>□改善中<br>■改善済<br>■その他 | その時々教育課題に関する教育研究を不断に推進する必要があることは当然のこととして、当初指摘された教科横断的な学習、情報活用能力の育成、ICT活用指導力に関する教育研究の推進については、系別のプロジェクト、デジタル教科書研究会の設置などを通じて、達成済みであると認められる。                                                               |  |
| 315       | ■全学<br>□各部署等<br>□教育課程<br>□学生受入<br>□学生支援<br>□施設設備 | 2020             | 4 | 附属学校園との連携   | 片桐副学長<br>広谷副学長 | 学術連携課<br>附属学校課 | 国際交流・研究推進室<br>附属学校統括機構 | 大学教員と附属学校教員の共同研究推進に向け、マッチングのためのアンケート調査を大学、附属双方で実施する計画である。                                                                                                                       | □未対応<br>■対応中<br>■対応中<br>□対応済<br>□その他 | 大学教員に対するアンケートを実施し、附属学校を活用した共同研究への意欲やニーズ調査を行った。附属学校園に対しては、個人研究のほか組織としての計画も把握するため、令和3年度の新体制に回答を求めることを想定して準備を進めている。<br>WNL事業において、大学教員と附属学校教員が連携し、イノベティブなグローバル人材育成システムを開発するためのグループを形成したほか、様々な取組を開始した。 | □未対応<br>■改善中<br>□改善済<br>□その他 | 附属学校園向けのアンケートを実施する必要があるとともに、アンケートを活用した研究のマッチングが待たれる。                                                                                                                                                   |  |
| 316       | ■全学<br>□各部署等<br>□教育課程<br>□学生受入<br>□学生支援<br>□施設設備 | 2020             | 4 | 附属学校園との連携   | 岡本副学長          | 経営戦略課          | IR室                    | 毎年度、実施する自己点検・評価により確認された「特色ある取組」「優れている点」について、IR室が有効事例を抽出し、IR室の下、それらを学内で共有し取り入れるための仕組みを構築する。                                                                                      | □未対応<br>■対応中<br>□対応済<br>□その他         | 自己点検評価のタイミング等でデータを収集することを検討している。                                                                                                                                                                  | □未対応<br>■改善中<br>□改善済<br>□その他 | データを収集し、有効事例の収集が必要である。                                                                                                                                                                                 |  |

内部質保証シート

| 管理番号 | 区分                                               | 改善・向上が必要と確認された事項 |    |           |                                                                                                                                                                                                                                              | 対応計画           |                |                                |                                                                                                                                       | 進捗・達成状況<br>(2021年3月末時点)                                                                                                                 |                                                                                                                                                           | 進捗・達成状況に対する点検・評価<br>(2021年3月末時点)<br>【自己点検・評価委員会】                                                                                        |                                                                                          |
|------|--------------------------------------------------|------------------|----|-----------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------|----------------|--------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------|
|      |                                                  | 年度               | 内容 |           |                                                                                                                                                                                                                                              | 副学長等           | 想定される<br>担当事務  | 計画の<br>実施主体                    | 計画内容                                                                                                                                  | 対応状況                                                                                                                                    | 点検・評価<br>(2021年3月までの取組)                                                                                                                                   | 改善状況                                                                                                                                    | 点検・評価<br>(2021年3月末時点)                                                                    |
|      |                                                  |                  |    |           |                                                                                                                                                                                                                                              |                |                |                                |                                                                                                                                       |                                                                                                                                         |                                                                                                                                                           |                                                                                                                                         |                                                                                          |
| 317  | ■全学<br>□各部署等<br>□教育課程<br>□学生受入<br>□学生支援<br>□施設設備 | 2020             | 4  | 附属学校園との連携 | 大学と附属学校園の教員の交流会を継続して実施できる枠組みを講じる必要がある。<br>(原文)<br>附属学校と大学の連携をさらに進める必要がある。附属学校と大学が、一体的に教育研究を進める機運を醸成し、研究プロジェクトが実施されるよう全学的に後押しすべきである。<br>例年、年度末に実施していた大学教員と附属学校園教員との研究交流会は、新型コロナの影響で急遽中止せざるを得なかった。次年度以降は、不慮の事態においてのオンライン開催も視野に入れ、改善に取り組む必要がある。 | 片桐副学長<br>広谷副学長 | 学術連携課<br>附属学校課 | 国際交流・研究推進室<br><br>附属学校<br>統括機構 | 研究交流会については今年度オンライン開催を計画し、コロナ禍にあっても継続できる工夫を行うこととしている。各系における若手教員の出展を促進し、同時に若手教員が附属と関わるきっかけとなるよう計画している。<br>なお、交流面の充実については継続課題として今後改善を図る。 | <input type="checkbox"/> 未対応<br><input type="checkbox"/> 対応中<br><input checked="" type="checkbox"/> 対応済<br><input type="checkbox"/> その他 | 令和2年度の研究交流会は、ZOOMでの口頭発表（12件）と、moodle上でのポスター発表（49件）によりオンラインで実施し、大学教員、附属学校教員双方の研究についての理解を深める場とすることが出来た。ただし、交流面ではオンラインの性質上、自由闊達に意見交換してもらうことが難しく改善の余地があると考える。 | <input type="checkbox"/> 未対応<br><input type="checkbox"/> 改善中<br><input checked="" type="checkbox"/> 改善済<br><input type="checkbox"/> その他 | 計画内容となっている大学と附属学校園の教員の交流会は継続されている。また、懸念されたオンラインでも実施されていることにより取り組みが確認できた。                 |
| 318  | ■全学<br>□各部署等<br>□教育課程<br>□学生受入<br>□学生支援<br>□施設設備 | 2020             | 4  | 附属学校園との連携 | 『学校インターンシップ』と『教育コラボレーション演習』の活動が円滑に行えるよう、活動時間数を揃える必要がある。<br>(原文)<br>教員養成課程と教育協働学科は、学校インターンシップと教育コラボレーション演習のそれぞれの履修生が連携して「チーム学校」の模擬的な活動を円滑におこなえるよう、それぞれの活動時間を同時間数に揃えるなど、全学的に改善に取り組む必要があると判断する。                                                 | 岡本副学長          | 教務課            | 教務課                            | 令和3年度カリキュラム改正により『学校インターンシップ』と『教育コラボレーション演習』の活動時間数を揃える。令和3年度入学生から適用する予定である。<br>(令和2年10月14日の教育研究評議会決定)                                  | <input type="checkbox"/> 未対応<br><input type="checkbox"/> 対応中<br><input checked="" type="checkbox"/> 対応済<br><input type="checkbox"/> その他 | 令和3年度カリキュラム改正により『学校インターンシップ』の単位数変更を行い、『教育コラボレーション演習』と活動時間数を揃えた。                                                                                           | <input type="checkbox"/> 未対応<br><input type="checkbox"/> 改善中<br><input checked="" type="checkbox"/> 改善済<br><input type="checkbox"/> その他 | 計画内容となっている『学校インターンシップ』と『教育コラボレーション演習』の活動時間数は令和3年度カリキュラム改正により単位数変更を行い実施したことにより取り組みが確認できた。 |



内部質保証シート（各実施主体）令和２年度改善済課題

| 管理番号 | 区分                                             | 改善・向上が必要と確認された事項<br>【計画の実施主体】 |   |                 |         | 対応計画<br>【計画の実施主体】                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |                                                                                                                                         | 進捗・達成状況<br>(2021年3月末時点)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |                                                                                                                                         | 進捗・達成状況に対する点検・評価<br>(2021年3月末時点)<br>【自己点検・評価委員会】                                                                                                                                         |  |
|------|------------------------------------------------|-------------------------------|---|-----------------|---------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
|      |                                                | 年度                            |   | 内容              | 計画の実施主体 | 計画内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 対応状況                                                                                                                                    | 点検・評価<br>(2021年3月までの取組)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 改善状況                                                                                                                                    | 点検・評価<br>(2021年3月末時点)                                                                                                                                                                    |  |
| 25   | 学<br>■各部署等<br>□教育課程<br>□学生受入<br>□学生支援<br>□施設設備 | 2016                          | Ⅲ | 社会との連携・社会貢献について | 教員養成課程  | 大阪府等の教育委員会および地域が行うプログラムや行事に教員が指導に outward たり、学生を派遣したりして、地域連携活動を展開する。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | <input type="checkbox"/> 未対応<br><input type="checkbox"/> 対応中<br><input checked="" type="checkbox"/> 対応済<br><input type="checkbox"/> その他 | 大阪府、大阪市、堺市、ならびに大阪府内・外の自治体、教育委員会における授業研究や研修、各種の研修会の講師として、多数の教員が指導講師、委員会委員として活動し、地域連携活動に貢献した。個々の教員の活動を大学全体として把握し、個々の教員の活動実績として評価するシステムを整えるとともに、大学として社会貢献の実績を発信できるような仕組みを整えていくことが大切と考える。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | <input type="checkbox"/> 未対応<br><input type="checkbox"/> 改善中<br><input checked="" type="checkbox"/> 改善済<br><input type="checkbox"/> その他 | 多数の教員が指導講師、委員会委員として活動し、地域連携活動に貢献しており、当初の計画は達成できたと認められる。                                                                                                                                  |  |
| 205  | 学<br>■各部署等<br>□教育課程<br>□学生受入<br>□学生支援<br>□施設設備 | 2019                          | Ⅰ | 内部質保証           | 教員養成課程  | 授業改善に資するFD等、教員の興味・関心を喚起出来る事業を部局としても開催する。あわせて、運営委員会や教授会等の機会を利用して、さらに積極的な参加を促していく。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | <input type="checkbox"/> 未対応<br><input type="checkbox"/> 対応中<br><input checked="" type="checkbox"/> 対応済<br><input type="checkbox"/> その他 | 教員養成課程としてWeb授業の実施ならびにその成果と課題に関するFDを実施した。加えて、運営委員会等の機会を生かし、第4期の中期目標・計画草案等に関する意見を取りまとめ、大学がより望ましい方向に向かうことに資する修正案を提出する等大学改革への教員の参加機会の拡充に努めた。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | <input type="checkbox"/> 未対応<br><input type="checkbox"/> 改善中<br><input checked="" type="checkbox"/> 改善済<br><input type="checkbox"/> その他 | 教員の興味・関心を喚起出来るようなFDを実施するとともに、運営委員会等の機会を活用して、大学の方向性への教員への関心を持たせてFDへの参加を促しており、当初の計画は達成していると考えられる。                                                                                          |  |
| 2    | 学<br>■各部署等<br>□教育課程<br>□学生受入<br>□学生支援<br>□施設設備 | 2017                          | Ⅲ | 社会との連携・社会貢献について | 初等教育課程  | 2017年度に設置された初等教育教員養成課程では、授業科目「学校インターンシップ体験」や「幼児教育インターンシップ」（2回生開講の必修科目で附属学校での体験、公立学校やこども園でのボランティア活動を60時間の就業体験（実習）とするもの）を新たに導入する。また、平成14年度から第二部と大阪市・堺市・神戸市の各教育委員会と連携し実施している、授業科目「学校インターンシップ」（選択科目で学校が求める支援活動と学生の研修希望をマッチングするもの）を、改組後も小学校教育専攻夜間コースだけでなく昼間コースにも拡大し、3回生以降の選択科目として実施する計画である。<br>これまで「教育実習」、「大阪の教育実践」その他授業科目において、学校現場での授業や学校現場の教諭等を講師に迎えての授業等多くの連携実績がある。これらに加えて上記の各種インターンシップ等に取組むことで、より一層教育現場との連携を深め、そこで得られた今日的教員養成課題等を含む知見をカリキュラムマネジメントに活かす。必要に応じFD活動等を実施し浸透をはかる。 | <input type="checkbox"/> 未対応<br><input type="checkbox"/> 対応中<br><input checked="" type="checkbox"/> 対応済<br><input type="checkbox"/> その他 | 2回生開講の必修科目「学校インターンシップ体験」、「幼児教育インターンシップ」を平成30年度から新たに実施しており、小学校教育夜間コースについては当初附属学校で実施していたが、令和2年度より大阪市内の公立小学校にも依頼し受入れ先の拡大を進めている。<br>また、3回生以降開講の選択科目「学校インターンシップ」を令和元年度から実施しており、令和元年度は小学校教育専攻昼間コース学生が2名、夜間コース学生が10名参加、令和2年度は新型コロナウイルスであったものの、夜間コースでのべ8名が参加した。このように、初等教育課程改組後、教育現場との連携を順調に拡大してきた。<br>令和3年3月に令和元年度自己点検・評価報告に基づくFD事業として初等教育課程FD交流会を開催し、学部教育の充実と発展をテーマとし、今日的教員養成課題等を含む知見を課程全体で共有した。                                                                                                                                                                                    | <input type="checkbox"/> 未対応<br><input type="checkbox"/> 改善中<br><input checked="" type="checkbox"/> 改善済<br><input type="checkbox"/> その他 | 初等教育課程改組後、教育現場との連携を順調に拡大してきており、教育現場との連携を深め、そこで得られた今日的教員養成課題等を含む知見をカリキュラムマネジメントに活かしていると考えられる。<br>初等教育課程FD交流会を開催し、学部教育の充実と発展をテーマとし、今日的教員養成課題等を含む知見を課程全体で共有した。<br>以上より当初の課題については改善済みと考えられる。 |  |
| 8    | 学<br>■各部署等<br>□教育課程<br>□学生受入<br>□学生支援<br>□施設設備 | 2016                          | Ⅰ | 教育活動について        | 初等教育課程  | 年度ごとに入学人数が大きく異なり、各学年の学生数が不均衡である。また、改組により移籍した教員の旧カリの負担等もあり、負担のバランスを確保することは極めて困難な状況である。学年進行により解消される部分もあるが、教育への影響を最小限に抑えつつ、可能な範囲で教員の負担がより公平になるように取組む。例えば、小学校教育専攻夜間コースの教育実習は年間2回ある。5回生実習の指導教員は卒論指導教員と運動させている。これらが複雑に絡み教育実習の負担が不均衡になっている。こういった点にも着目して対応にあたる。                                                                                                                                                                                                                     | <input type="checkbox"/> 未対応<br><input type="checkbox"/> 対応中<br><input checked="" type="checkbox"/> 対応済<br><input type="checkbox"/> その他 | 小学校教育実習は、実習担当の校数を均等化し負担の公平化を進めているが、1校あたりの受入学生数に偏りがある場合があるので学生数も勘案する等一層公平性に気を配り実習校や実習生を配当している。なお、5回生教育実習の指導教員は従来卒論論文指導教員と運動させていたが、平成30年度から実習指導教員と卒論指導教員は切り離し、教育実習の受け持ち学生数の不均衡はほぼ解消している。（旧カリの中学校教育実習は令和2年度を最後に廃止となるため、令和3年度以降はさらに実習指導の負担を公平にしやすくなる考える。）<br>また、令和元年度から継続して、令和2年度も小学校教育専攻の卒業研究（卒業論文）の指導教員について、主担コースの担当学生上限を設け副担コースは若干名の受入とする方針に則り、研究室分属を実施している。<br>さらに、系列専門科目の担当を専任教員1名につき2科目までを基本とし、令和3年度及び令和4年度カリキュラムの改正をおこない、授業担当の面からも負担の公平化に取り組んでいる。                                                                                                                         | <input type="checkbox"/> 未対応<br><input type="checkbox"/> 改善中<br><input checked="" type="checkbox"/> 改善済<br><input type="checkbox"/> その他 | 実習指導教員と卒論指導教員は切り離し、教育実習の受け持ち学生数の不均衡はほぼ解消している。<br>研究室分属においても、主担当学生上限を設けるなど、一定の方針をもとに負担の不均衡是正を行っている。<br>さらに、系列専門科目の担当についてもカリキュラム改正を行い負担の公平化に取り組んでいる。<br>以上より、本課題については、改善済みと認められる。          |  |
| 244  | 学<br>■各部署等<br>□教育課程<br>□学生受入<br>□学生支援<br>□施設設備 | 2019                          | Ⅲ | 学生の受入           | 初等教育課程  | キャリア支援センターの協力を得て教員就職率の維持向上の取組を行う。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | <input type="checkbox"/> 未対応<br><input type="checkbox"/> 対応中<br><input checked="" type="checkbox"/> 対応済<br><input type="checkbox"/> その他 | 令和2年度は初等教育課程として初めて小学校教育専攻昼間コースの卒業生をだし、幼児教育専攻についてはキャンパス移籍を経験した初めての卒業生を出すことになる。各卒業生の教員就職率としては、幼児教育専攻が91.7％、小学校教育専攻昼間コースが84.6％、第二部は70.0％となっており、昨年度に続き、中期計画に掲げた65％の目標を部局としては大きく上回っている。<br>令和2年度よりキャリア担当の事務補佐員が天王寺地区総務課に配置され、学生にとって教採を含めキャリア相談しやすい環境ができた。また、令和2年度から開始した連合教職実践研究科の教員に担当していただく系列専門科目「学び続ける教師論」、「場面指導とロールプレイ」及び「学校づくりと授業づくり」については、教職に就こうとする学生の意欲を掻き立て、教師になってからの教育実践やキャリア形成に資する授業が展開されており、令和3年度には授業担当者や内容の改善を図りながら、より一層キャリア支援の一助となる科目として強化される予定である。さらに、令和3年度からは、キャリア支援センターと連合教職実践研究科の協力により、連合教職実践研究科の実務家教員等による面接指導アドバイザーの配置が計画されており、天王寺キャンパスのキャリア支援体制がより充実する予定となっている。 | <input type="checkbox"/> 未対応<br><input type="checkbox"/> 改善中<br><input checked="" type="checkbox"/> 改善済<br><input type="checkbox"/> その他 | 教員就職率は、中期目標に掲げた65％の目標値を大きく上回っており、今後もより一層キャリア支援の充実が計画されていることから、当初の課題は改善されていると認められる。                                                                                                       |  |
| 30   | 学<br>■各部署等<br>□教育課程<br>□学生受入<br>□学生支援<br>□施設設備 | 2017                          | Ⅰ | 教育活動について        | 教育協働学科  | 「英語による授業」については、2019年度中に各専攻・コースにおいて少なくとも1つの科目について試行して貰うよう、お願いする。「ターム科目」の増加については、教養基礎科目のうち、いくつかをターム化するよう、各講座、担当の先生に呼び掛ける。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | <input type="checkbox"/> 未対応<br><input type="checkbox"/> 対応中<br><input checked="" type="checkbox"/> 対応済<br><input type="checkbox"/> その他 | 「英語による授業」については、2019年度に試行を行い、問題点を洗い出した。今後に繋げていく。（ファイル01-03-2-1）<br>「ターム科目」については、新設の教養基礎科目は原則としてターム科目にするよう、お願いしている。例えば2021年度からターム科目として「データサイエンス入門」「AIとデータサイエンス」を新設した。（履修便覧参照）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | <input type="checkbox"/> 未対応<br><input type="checkbox"/> 改善中<br><input checked="" type="checkbox"/> 改善済<br><input type="checkbox"/> その他 | 計画内容となっている「英語による授業」の増加は2019年度に各専攻・コースに100科目の授業において試行され、今後の継続に向けた問題点を整理した。また、「ターム科目」の増加については、新設の教養基礎科目のターム化を掲げた新たに2科目がターム化されたことにより取り組みが確認された。                                             |  |

内部質保証シート（各実施主体）令和２年度改善済課題

| 管理番号 | 区分                                                                                                                                                                                                          | 改善・向上が必要と確認された事項<br>【計画の実施主体】 |    |                     | 対応計画<br>【計画の実施主体】 |                                                                                                                                                      | 進捗・達成状況<br>(2021年3月末時点)                                                                                                                                                                      |                                                                                                                                         | 進捗・達成状況に対する点検・評価<br>(2021年3月末時点)<br>【自己点検・評価委員会】                                                                                                                             |                                                                                                                                         |                                                                                                                                                                  |
|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------|----|---------------------|-------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|      |                                                                                                                                                                                                             | 年度                            | 内容 |                     | 計画の実施主体           | 計画内容                                                                                                                                                 | 対応状況                                                                                                                                                                                         | 点検・評価<br>(2021年3月までの取組)                                                                                                                 | 改善状況                                                                                                                                                                         | 点検・評価<br>(2021年3月末時点)                                                                                                                   |                                                                                                                                                                  |
| 37   | <input type="checkbox"/> 全学<br><input checked="" type="checkbox"/> 各部署等<br><input type="checkbox"/> 教育課程<br><input type="checkbox"/> 学生受入<br><input type="checkbox"/> 学生支援<br><input type="checkbox"/> 施設設備 | 2016                          | Ⅱ  | 研究活動について            | 教育協働学科            | ・新学科の準備のため、それまでの専門研究をどのような形で授業科目に活用するのかが課題となる。教育やそれ以外の公務のため、研究活動の時間を取ることが難しい教員が多数いる。研究時間の確保が大きな課題である。<br>・音楽コースの活動を一目で分かる写真、映像の資料を作成し、またサイトを充実させること。 | ・音楽コースのアウトリーチ活動に関する冊子を製作し、各関係機関に幅広く配布する。                                                                                                                                                     | <input type="checkbox"/> 未対応<br><input type="checkbox"/> 対応中<br><input checked="" type="checkbox"/> 対応済<br><input type="checkbox"/> その他 | 既に制作済みである。<br>(ファイル01-03-2-5)                                                                                                                                                | <input type="checkbox"/> 未対応<br><input type="checkbox"/> 改善中<br><input checked="" type="checkbox"/> 改善済<br><input type="checkbox"/> その他 | 計画内容となっている新学科の準備のための研究時間の確保はすでに新設から5年経過しているため評価する期限を超えている。また、音楽コースのアウトリーチ活動に関する冊子については制作済みであることにより取り組みが確認できた。                                                    |
| 40   | <input type="checkbox"/> 全学<br><input checked="" type="checkbox"/> 各部署等<br><input type="checkbox"/> 教育課程<br><input type="checkbox"/> 学生受入<br><input type="checkbox"/> 学生支援<br><input type="checkbox"/> 施設設備 | 2017                          | Ⅰ  | 教育活動について            | 教育協働学科            | 教育協働学科の教育上の目的である、「教育的視点から学校・家庭・地域・社会と連携・協同」できる学生の進路・就職先とはどのようなものかについて、組織内での認識を共有しておく必要がある。                                                           | 教育協働学科の教育上の目的を達成するための、学生の進路・就職先に関して、組織内での認識を共有するためのFDを計画                                                                                                                                     | <input type="checkbox"/> 未対応<br><input type="checkbox"/> 対応中<br><input checked="" type="checkbox"/> 対応済<br><input type="checkbox"/> その他 | 平成30年度教育協働学科FDシンポジウムで「教育協働学科生の進路を考える」を行った。(ファイル01-03-2-6)                                                                                                                    | <input type="checkbox"/> 未対応<br><input type="checkbox"/> 改善中<br><input checked="" type="checkbox"/> 改善済<br><input type="checkbox"/> その他 | 計画内容となっている教育協働学科の教育上の目的を達成するための、学生の進路・就職先に関して、組織内での認識を共有するためのFDは、平成30年度教育協働学科FDシンポジウム「教育協働学科生の進路を考える」で実施されたことにより取り組みが確認できた。                                      |
| 81   | <input type="checkbox"/> 全学<br><input checked="" type="checkbox"/> 各部署等<br><input type="checkbox"/> 教育課程<br><input type="checkbox"/> 学生受入<br><input type="checkbox"/> 学生支援<br><input type="checkbox"/> 施設設備 | 2017                          | Ⅳ  | 外部資金の獲得について         | 地域連携・教育推進センター     | 科研費などを獲得しようと努めてきたが、人権教育に関わる共同研究などは、獲得できなかった。                                                                                                         | センターをあげての事業として「学校の組織的研究力の向上に資する大学との共同研究事業」に取り組み、実践研究を重ねながら、科学研究費の獲得をめざして毎年度申請する。                                                                                                             | <input type="checkbox"/> 未対応<br><input type="checkbox"/> 対応中<br><input checked="" type="checkbox"/> 対応済<br><input type="checkbox"/> その他 | 「学校の組織的研究力の向上に資する共同研究事業」として、茨木市立三島小学校、富田林市立新堂小学校、豊能町立能勢中学校と共同で公開研究会を開催した。開催にいたる取組の過程でセンター教員が年間を通じて助言者として参加した。また、採択には至らなかったものの、センター教員が研究分担者となり、科研費の申請に取り組んだ。                  | <input type="checkbox"/> 未対応<br><input type="checkbox"/> 改善中<br><input checked="" type="checkbox"/> 改善済<br><input type="checkbox"/> その他 | 「学校の組織的研究力の向上に資する共同研究事業」として、茨木市立三島小学校、富田林市立新堂小学校、豊能町立能勢中学校と共同で公開研究会を開催した。この研究会にセンター教員が年間を通じて助言者として参加したこと、採択はされなかったものの、センター教員が研究分担者となり、科研費の申請に取り組んだ実績から、改善済と判断する。 |
| 91   | <input type="checkbox"/> 全学<br><input checked="" type="checkbox"/> 各部署等<br><input type="checkbox"/> 教育課程<br><input type="checkbox"/> 学生受入<br><input type="checkbox"/> 学生支援<br><input type="checkbox"/> 施設設備 | 2016                          | Ⅰ  | 教育活動について            | 地域連携・教育推進センター     | 4年間積み上げ型教育実習から学校インターンシップへの移行に伴う活動の整理と再編成                                                                                                             | 教員養成課程のインターンシップにおいては、教職インターンシップⅠ・Ⅱ・Ⅲ、学校インターンシップA・B・Cなど、さまざまな位置づけのものが含まれている。また、教育協働学科のコラボレーション演習でも、2回生から4回生までさまざまな時期に行う活動が位置づけられている。これらの動向を正確に把握しながら本センターの役割を位置づけ直す必要がある。                     | <input type="checkbox"/> 未対応<br><input type="checkbox"/> 対応中<br><input checked="" type="checkbox"/> 対応済<br><input type="checkbox"/> その他 | 2021年度より、副専攻プログラム「地域との連携・協働によるダイバーシティと人権教育プログラム」を起ち上げた。その中で、インターンシップ科目も同プログラムの中に位置づけることにより、高い人権意識を持ち、人権教育を行う資質・能力を備えた教員の養成を行う制度的な基盤を整備した。この中で、インターンシップ科目も位置づけることができた。        | <input type="checkbox"/> 未対応<br><input type="checkbox"/> 改善中<br><input checked="" type="checkbox"/> 改善済<br><input type="checkbox"/> その他 | 2021年度より、副専攻プログラム「地域との連携・協働によるダイバーシティと人権教育プログラム」を起ち上げた。その中で、インターンシップ科目も同プログラムの中に位置づけることにより、高い人権意識を持ち、人権教育を行う資質・能力を備えた教員の養成を行う制度的な基盤を整備した。この実績から改善済と判断する。         |
| 228  | <input type="checkbox"/> 全学<br><input checked="" type="checkbox"/> 各部署等<br><input type="checkbox"/> 教育課程<br><input type="checkbox"/> 学生受入<br><input type="checkbox"/> 学生支援<br><input type="checkbox"/> 施設設備 | 2019                          | Ⅱ  | 施設及び設備（学習環境）並びに学生支援 | 情報基盤センター          | 学生のBYOD化が進んだことで実習室利用が減少している。また、実習室のパソコンの基本ソフトがWindows7であり、平成31年度（令和元年度）でサポートが終了する。これらを踏まえて、実習室の終了と終了後の設備活用に課題がある。                                    | 共通利用可能な実習室端末（Windows 7）については、Windows 7のサポートが令和2年1月14日に終了したため、令和元年度をもって実習室の運用を終了した。実習室運用終了後の端末は、再リソース品であるため、返却を行う。また、実習室として活用していた場所の後の利用については、令和2年4月より教員組織が大きく変わることから、情報企画室の執務室変更や会議室への転用を行う。 | <input type="checkbox"/> 未対応<br><input type="checkbox"/> 対応中<br><input checked="" type="checkbox"/> 対応済<br><input type="checkbox"/> その他 | 令和2年度はシステム改修の際の設定作業スペースや、オンライン会議や説明会のスタジオとして活用した。<br><br>Microsoft365やウイルス対策ソフトApexOne、大数Gmailなど、オンライン学習の利便性の向上を図るサービスを無償で提供し、さらにそれらの利用方法に関する問い合わせ対応やサポート業務等を充実させ、学生支援を行なった。 | <input type="checkbox"/> 未対応<br><input type="checkbox"/> 改善中<br><input checked="" type="checkbox"/> 改善済<br><input type="checkbox"/> その他 | 実習室の跡スペースは有効活用されている                                                                                                                                              |